

20-773

特20  
773

戰役 日露  
伊那軍人從軍史

吉澤定治編纂

全

從軍史編纂所藏版

明治  
40 10 30  
丙午

# 宣戰詔勅

天祐ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ露國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海軍ハ宜ク全カヲ極メテ露國ト交戦ノ事ニ從フヘク朕カ百僚有司ハ宜ク各其職務ニ率ヒ其權能ニ應シテ國家ノ目的ヲ達スルニ努カスヘシ凡ソ國際條規ノ範圍ニ於テ一切ノ手段ヲ盡シ遣升ナカラムコトヲ期セヨ

惟フニ文明ヲ平和ニ求メ列國ト友誼ヲ篤クシテ以テ東洋ノ治安ヲ永遠ニ維持シ各國ノ權利利益ヲ損傷セスシテ永ク帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スヘキ事態ヲ確立スルハ朕夙ニ以テ國交ノ要義ト爲シ且暴政ヲ遠ハサラムコトヲ期ス朕カ有司モ亦能ク朕カ意ヲ體シテ事ニ從ヒ列國トノ關係年ヲ逐フテ益親厚ニ赴クヲ見ル今不幸ニシテ露國ト禦端ヲ開クニ至ル豈朕カ志ナラムヤ帝國ノ重ヲ韓國ノ保全ニ置クヤ一日ノ故ニ非ス是レ兩國累世ノ關係ニ因ルノミナラス韓國ノ存亡ハ實ニ帝國安危ノ繫ル所タレハナリ然ルニ露國ハ其ノ清國トノ明約及列國ニ對スル累次ノ宣言ニ拘ハラズ依然滿洲ニ占據シ益其地歩ヲ鞏固ニシテ終ニ之ヲ併呑セムトス若シ滿洲ニシテ露國ノ領有ニ歸セム乎韓國ノ保全ハ支持スルニ由ナク極東ノ平和亦素ヨリ望ムヘカラス故ニ朕ハ此ノ機ニ際シ切ニ妥協ニ由テ時局ヲ解決シ以テ平和ヲ恒久ニ維持セムコトヲ期シ有司ヲシテ露國ニ提議シ半歲ノ久シキニ亘リテ屢次折衝ヲ重ネシメタルモ露國ハ一モ交誼ノ精神ヲ以テ之ヲ迎ヘス曠日彌久徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメ陽ニ平和ヲ唱道シ陰ニ海陸ノ軍備ヲ増大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス凡ソ露國カ始メヨリ平和ヲ好愛スルノ誠意ナルモノモ認ムルニ由ナシ露國ハ既ニ帝國ノ提議ヲ容レス韓國ノ安全ハ方ニ危急ニ瀕シ帝國ノ國利ハ將ニ侵蝕セラレムトス事既ニ茲ニ至ル帝國カ平和ノ交渉ニ依リ求メムトシタル將來ノ保障ハ今日之ヲ旗鼓ノ間ニ求ムルノ外ナシ朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ナルニ荷頼シ速ニ平和ヲ永遠ニ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

明治三十七年二月十日

御名 御璽

# 平和詔勅

朕東洋ノ治平ヲ維持シ帝國ノ安全ヲ保障スルヲ以テ國交ノ要義ト爲シ夙夜  
懈ラス以テ皇猷ヲ光顯スル所以ヲ念フ不幸客歲露國ト齟齬ヲ啓ク亦定ニ國  
家自衛ノ必要已ムヲ得サルニ出テタリ開戦以來朕カ陸海ノ將士ハ内籌畫防  
備ニ勤メ外進攻出戰ニ勞シ万難ヲ冒シテ殊功ヲ奏ス在廷ノ有司帝國議會ト  
亦善ク其職ヲ盡シテ以テ朕カ事ヲ獎メ軍國ノ經營内外ノ施設其ノ緩急ヲ愆  
ラス億兆克ク儉ニ克ク勤メ以テ國費ノ負擔ニ任シ以テ費用ノ供給ヲ豐ニシ  
舉國一致大業ヲ贊襄シテ帝國ノ威武ト光榮トヲ四表ニ發揚シタリ是固ヨリ  
我カ皇祖祖宗ノ威靈ニ頼ルト雖抑亦文武臣僚ノ職務ニ忠ニ億兆庶民ノ奉公  
ニ勇ナルノ致ス所ナラスムハアラス交戰二十閱月帝國ノ地歩既ニ固ク帝國  
ノ國利既ニ伸フ朕ノ恒ニ平和ノ治ニ汲々タル豈徒ニ武ヲ窮メ生民ヲシテ永  
ク鋒鏑ニ困マシムルヲ欲セムヤ

嚮ニ亞米利加合衆國大統領ノ人道ヲ尊ヒ平和ヲ重スルニ出テテ日露兩國政  
府ニ勸告スルニ講和ノ事ヲ以テスルヤ朕ハ深其ノ好意ヲ諒トシ大統領ノ忠  
言ヲ容レ乃チ全權委員ヲ命ジテ其ノ事ニ當ラシム爾來彼我全權ノ間數次會  
商ヲ累ネ朕ノ提議スル所ニシテ始ヨリ交戰ノ目的タルモノト東洋ノ治平ニ  
必要ナルモノトハ露國其ノ要求ニ應シテ以テ和好ヲ欲スルノ誠ヲ明ニシタ  
リ朕全權委員ノ協定スル所ノ條件ヲ覽ルニ皆善ク朕カ肯ニ副フ乃チ之ヲ嘉  
納批准セリ朕ハ茲ニ平和ト光榮トヲ併セ獲テ上ハ以テ祖宗ノ靈鑒ニ對シ下  
ハ以テ丕績ヲ後昆ニ貼スヲ得ルヲ喜ヒ汝有衆ト其ノ譽ヲ借ニシ永ク列國ト  
治平ノ慶ニ頼ラムコトヲ思フ今ヤ露國亦既ニ舊盟ヲ尋テ帝國ノ友邦タリ則  
チ善鄰ノ誼ヲ復シテ更ニ益々孰厚ヲ加フルコトヲ期セサルヘカラス  
惟フニ世運ノ進歩ハ頃刻息マズ國家内外ノ庶政ハ一日ノ懈ナカラムコトヲ  
要ス偃武ノ下蓋々兵備ヲ修メ戰勝ノ餘愈々治教ヲ張り然シテ後始テ能ク國  
家ノ光榮ヲ無疆ニ保チ國家ノ進運ヲ永遠ニ扶持スヘシ勝ニ任レテ自ラ裁抑  
スルヲ知ラス驕怠ノ念從テ生スルカ若キハ深ク之ヲ戒メサルヘカラス汝有  
衆其レ善ク朕カ意ヲ體シ益々其ノ事ヲ勤メ益々其業ヲ勵ミ以テ國家富強ノ  
基ヲ固クセムコトヲ期セヨ

明治三十八年十月十六日

御名 御璽

忠

烈

丙午年

蘇山

志

子

東鄉書

心

氣

磅

磅

路美九集子

心美

東 鄉 大 將 奉 告 文

奉告

聯合艦隊司令長官奉告書

客歲二月上旬聯合艦隊が大命ヲ奉ジテ出征シタル以來  
茲二一年有半 其間海陸ノ交戦皇軍勝利ヲ獲ザルコトナク今日復タビ平和ノ秋ニ  
過ヒ 臣等犬馬ノ勞ヲ了ヘテ大業ノ下ニ凱旋スルヲ得タリ是レ一ツニ  
大元帥陛下御威徳ノ然ラシムルモノニシテ 臣等ノ終始感激措ク能ハザル所ナリ  
初メ聯合艦隊ノ海上ニ第一期作戦ヲ開始スルヤ 臣ハ大命ヲ基キ 海陸ノ形勢ト  
陸戦ノ方向ヲ考察シ敵艦隊ノ主力ヲ旅順方面ニ拘束シ之ヲシテ浦鹽ノ要地ニ據ラ  
シメザルヲ以テ戦略ノ主旨トシ 先ヅ旅順仁川ニ敵ヲ迅撃シ更ニ數次ノ攻襲ヲ重  
ネ以テ漸次ニ其勢ヲ減殺シ 又屢々冒險ナル敵港ノ閉塞又敵前ノ水雷沈置等ヲ試  
ミ以テ敵ノ出勤範圍ヲ縮少スルニカメ 尚麾下艦隊ノ一部ヲ常ニ朝鮮海峡ニ駐メ  
テ海上ノ要害ヲ扼シ以テ浦鹽ノ敵ヲ監視スルト同時ニ旅順ノ敵ニ對スル第二戦隊  
ナラシメタリ 此作戦ノ前期中敵ハ終始地利ニ據リテ退嬰ヲ事トシ 我軍連續ノ  
攻撃モ容易ニ其成果ヲ收ムル能ハザシガ 八月中旬敵艦隊主力ノ旅順ヨリ浦鹽ニ  
逃レントスルニ及テ 黄海及蔚山沖ノ海戦ヲ見ルニ至リ 期セズシテ全ク敵ノ戰  
略的企圖ヲ摧破シ我作戦目的ノ過半ヲ達成スルヲ得タリ 其後陸戦漸ク歩武ヲ進

メ旅順ノ背面ニ對スル我攻陣軍不撓ノ迫撃ハ海上ニ於ケル耐久ノ封鎖ト相須テ遂ニ敵艦隊ノ主カヲ其要塞ノ下ニ殲滅スルニ到レリ 惟フニ此期ノ作戰ハ戰勢ノ自然ニ伴ヒテ漸進微功ヲ積ミ攻戰約十ヶ月ニ亘リ 我將卒ノ心カヲ傾注シ智勇ヲ發揮シタコト本戰役中ニ冠絶シ 忠死ノ士殉難ノ艦亦少カラザシト雖モ戰局ノ大勢ハ茲ニ初テ定リ 爾後日本海ニ於ケル決勝ノ機運モ此間ニ萌芽シタルヲ覺ユ 今春年改マルト共ニ第二期ノ作戰ニ移リ 我艦隊ハ更ニ兵力ニ整頓シテ敵ノ第二艦隊ニ備ヘ 傍ラ露領沿海州ヲ包鎖シテ敵國軍資ノ輸入ヲ遮斷シ時ニ支隊ヲ南洋ニ分遣シテ敵ノ航通ヲ威赫スルニ勉メ其間對馬津輕宗谷國後等ノ諸水道附近ニ於テ捕獲シタル船舶三十餘隻ヲ算ス

初夏五月ニ入り敵ノ第二艦隊近海ニ出現スルニ及ビテ 豫メ我全カヲ朝鮮海峡ニ集中シ 逸ヲ以テ勞ニ乘ズルノ策ヲ執リシガ 我將卒ノ勇敢ナル動作ハ神明ノ加護ニ由リ著々其功ヲ奏シ 日本海戰ノ一舉敵影ヲ海上ヨリ掃蕩シ以テ作戰ヲ終結スルヲ得タリ 爾來海洋ハ名實共ニ我艦隊ノ制壓ニ歸シ作戰第三期ニ入りシモ 負擔ノ任務ハ大ニ輕減シ或ハ陸軍ト與ニ樺太ノ攻略ニ從事シ 殆ト一兵ヲ損セズシテ協同ノ任務ヲ果シ或ハ時々北韓方面ニ作動シテ敵ヲ脅威シ且ツ依然露領ノ包鎖ヲ續行シテ休

戰後和ノ終局ニ至ル迄確實ニ之ヲ維持セリ

之ヲ要スルニ聯合艦隊ノ作戰ハ其第一期ニ於テ戰勢ヲ決シ 第三期ニ入りテ戰果ヲ收メントシタルモノニシテ 其間危急難易ノ差異アリシト雖モ全局ニ亘ル一貫ノ攻戰ハ其始ヨリ順當ニ經過シ終ニ今日アルヲ見ルニ到レリ 今ヤ凱旋シテ東京灣ニ集合セル帝國艦船大小百七十餘隻固ヨリ戰役ニ亡失シタルモノアリト雖モ更ニ戰利トシテ獲得シタルモノヲ加ヘ尚能ク戰前ニ劣ラザル武カヲ保有スルヲ得タルハ 臣等ノ誠ニ光榮トスル所ナリ 終リニ臨ミ

臣ハ聯合艦隊ハ滿韓ニ於ケル陸戰ノ効果ニ依リ其餘利ヲ蒙リタルコト少カラズ 又海軍大小諸機關ノ整備活動其他諸官衙ノ支助協力ニ依リ海上ノ作戰遺憾無ク進捗シタルコトヲ感喜ス 謹テ海上ノ作戰ノ經過ヲ奉告シ 大命ニ對スル責務ノ結了ヲ奉聞ス

明治三十八年十月二十三日

聯合艦隊司令長官

東 鄉 平 八 郎



大山將奉告文

滿州軍總司令官奉告書

臣 巖

客歲六月滿州軍總司令官タルノ 大命ヲ奉シ爾來遼陽ニ敵ノ戰略要地ヲ奪ヒ沙河ニ其南進ノ銳鋒ヲ挫キ旅順ニ堅城ヲ陷レ黑溝台ニ敵ノ大企圖ヲ摧キ奉天ニ大軍ヲ擊碎シ其他大小交戰數十回一トシテ戰捷ヲ博セザル無ク以テ開戰當初ノ目的ヲ達スルヲ得タルハ偏ニ

陛下ノ御稜威ト將卒ノ忠勇ニ依ラズンバアラス尚國民ノ忠愛ナル後援ハ有形無形上將卒ノ志氣ヲ鼓舞シ海軍ノ偉大ナル戰捷ハ沿海ノ作戰ニ大ナル効果ヲ及ボシ陸軍ノ大勳脈タル海上ノ連絡線ヲ鞏固ニシ内外當局官憲ノ熱誠ナル努力ハ中外ノ事情ヲ明瞭ニシ諸般ノ補給ヲ確實ニシ衛生効果ヲ全フシ以テ作戰ノ指導ニ一大援助ヲ與ヘタリ是レ臣等ノ常ニ感喜スル所ナリ而シテ生命ヲ犧牲ニ供シタル幾多將卒ノ爲メニハ哀悼ノ情ヲ禁ズル能ハズ今ヤ平和克復シ關外ノ任全ク畢リ天顏ニ咫尺スルノ光榮ヲ得感激ノ至リニ堪ヘズ 各軍ニ於ケル作戰ノ概況ハ其凱旋ニ應シ當該司令官ヲシテ奏上セシム

右謹テ復命以聞ス

明治三十拾八年拾二月

滿州軍總司令官 侯爵 大山 巖

黑木將奉告文

第一軍司令官長官奉告書

臣 爲 楨

關外ノ重任ヲ辱フシ帝國陸軍ノ先頭トシテ大同江口ニ上陸シタル以來茲ニ二十有餘月其間韓國ニ滿州ニ常ニ地形險難人煙稀少ノ地域ニ行動シ雄大強勇ナル敵ニ對シ大小五十餘戰臣等ノ不敏ヲ以テシテ幸ニ 陛下ノ重寄ニ對シ甚シキ過失ナク茲ニ犬馬ノ勞ヲ畢ヘ 大勲ノ下ニ凱旋シ戰況ヲ伏奏スルニ至ルハ是レ偏ヘニ 陛下ノ御稜威ト御歷代烈聖ノ冥助トノ然ラシメシモノニシテノ臣等感激措ク能ハザル所ナリ

全戰役間ニ於ケル本軍ノ作戰給養及衛生ノ概要ハ之ヲ列冊ニ具ス 尚本戰役ニ於テ臣等カ能ク其任務ヲ達成シタルハ上級統帥部ノ籌畫指導 陸海友軍ノ協力援助 後方勤務機關ノ勉勵 官民舉國一致ノ後援ニ負フ所ノモノ亦多大ナルトス 茲ニ大命ニ對スル任務ヲ了了ヲ奏聞スルニ當リ 陛下ノ忠勇ナル幾多將卒ヲ戰場ニ襲ヒ今日與ニ此ノ盛典ヲ拜スルヲ得ザルハ 臣爲楨ノ特ニ恐懼痛恨ニ堪ヘザル所ナル誠恐誠惶謹テ奏ス

明治三十八年十二月九日

第一軍司令官 男爵 黑木 爲 楨

第二軍司令長官奉告書

臣 保 鞏

覆キニ詔ヲ奉シテ第二軍ヲ統率シテ征途ニ就キ海軍ノ力ニ依リ敵ニ近キ遼東ノ一角ニ  
 上陸シ直ニ敵ノ南北交通ヲ絶テ進ミテ南山ノ壘ヲ拔キ旅順要塞ヲシテ孤立セシメ更  
 ニ北シテ南下ノ敵ヲ得利寺等ニ激撃シ大石橋ノ敵ヲ擊壞シテ營口ヲ占領シ之ヨレ遼陽  
 沙河 黑溝台 奉天ノ諸會戰ニ參與シテ勝ヲ制スルコトヲ得タリ是レ上級指揮官ノ指  
 揮宜シキヲ得友軍ノ協同機ニ合シ軍ノ諸機關克ク其責ヲ盡シ部下ノ將卒 臣ガ命ニ服  
 シ死カヲ竭シテ報効ノ誠ヲ致シ加之忠愛ナル國民ノ後援久フシテ益々熾ナリシニ  
 依ルト雖モ深ク其由リテ米ル所ヲ察スレバ一トシテ 陛下御稜威ノ致ス所ニ非ザルハ  
 ナシ 今ヤ干戈ノ事全ク歇ミ凱ヲ 闕下ニ献ジテ 天顏ニ咫尺スルヲ得タリ  
 天恩優渥臣感激ノ至リニ堪ヘズ惟ダ戰役間死死者ノ 臣ト共ニ光榮アル今日值過スル  
 コト能ハザルヲ憾ムノミ謹テ別紙作戰經過ノ數要等數件ヲ具シ以聞ス

明治三十九年一月十二日

第二軍司令官 男爵 與 保 鞏

第三軍司令長官奉告書

臣 希 典

明治三十七年五月第三軍司令官タルノ 大命ヲ拜シ旅順要塞ノ攻略ニ任ジ六月劍山ヲ  
 拔キ七月敵ノ逆襲ヲ擊退シ次テ其前進陣地ヲ攻陷シ鳳凰山及干大山ノ線ニ進ミ敵ヲ本  
 防禦線内ニ壓迫シ我海軍ノ有力ナル協同動作ト相須チテ旅順要塞ノ攻圍ヲ確實ニセ  
 リ 八月大孤山及高嶺山等ヲ陥シ次テ強襲ヲ行ヒ東西盤龍山ノ三壘ヲ奪ヒ爾後正攻ヲ  
 以テ攻撃ヲ續行シ遂次要塞ニ内薄シ十一月下旬ヨリ十二月上旬ニ亘リ二百三ノ高地ヲ  
 カ攻シテ遂ニ之ヲ奪取シ港内ニ蟄伏セル敵艦ヲ擊沈セリ既ニシテ攻撃作業ノ進歩ニ伴  
 ヒ其正面ノ三永久保壘ヲ占領シ直ニ望台附近一帶ノ高地ニ進出シ將ニ要塞内部ニ突入  
 セントスルニ當リ三十八年一月一日敵將降ヲ請ヒ茲ニ攻城作戰ノ終局ヲ告ゲタリ時ニ  
 北方ニ於ケニ彼我兩軍ノ首カハ沙河附近ニ相對シ戰機正ニ熟シ軍ノ北進ヲ待ツコト  
 急ナリ因テ一月中旬行進ヲ起シ二月下旬遼陽平野ニ集中シ直チニ運動ヲ開始シ奉天  
 附近ノ會戰ニ參與シ全軍ノ最左翼ニアリテ繞回運動ヲ行ヒ遂次敵ノ右翼ヲ擊破シ奉天  
 西北方ニ邁進シテ其退路ニ逼リ連戰十餘日尚敵ヲ追躡シテ心台子石佛寺ノ線ニ達シ一  
 部ヲ進メテ昌圖及ビ金家屯附近ヲ占領セシメタリ五月各軍ト相連リテ金家屯康平ノ線  
 ヲ占メ尋テ敵騎大集團哉左側背ニ采襲セシモ之ヲ驅逐シ茲ニ軍隊ノ整備ヲ終リ機ノ熟

木乃大將奉告文

スルヲ待テシ所九月中旬休戰ノ命ヲ拜スルニ至レリ  
之ヲ要スルニ本軍ノ作戰目的ヲ達スルヲ得タルハ 陛下ノ御稔威ト上級統率部ノ指導  
并ニ支軍ノ協力トニヨル而シテ作戦十六ヶ月間我將卒ノ常ニ勁敵ト健闘シ忠勇義烈死  
ヲ視ルコト歸スルガ如ク彈ニ斃レ劒ニ殪ル、モノ皆 陛下ノ萬歲ヲ喚呼シ欣然トシ  
テ瞑目シタルハ 臣之ヲ伏奏セザラセシト欲スルモ能ハズ然ルニ斯ノ如キ忠勇ノ將卒  
ヲ以テシテ旅順ノ攻城ニハ半歲ノ長日月ヲ要シ多大ノ犠牲ヲ供シ奉天附近ノ會戰ニハ  
○○  
左側背ニ行動スルニ當リテ之ノ擊碎スルノ好機ヲ獲ガリシカバ臣終世ノ遺憾ニシテ恐懼  
措ク能ハサル所ナリ

今ヤ 閣下ニ凱旋シ戰況ヲ伏奏スルノ寵遇ヲ荷ヒ恭シク部下將卒ト共ニ 天恩ノ優渥  
ナルヲ拜シ願ミテ戰死病歿者ニ此光榮ヲ分ツ能ハサルヲ傷ム爰ニ作戦經過概要死傷一  
覽表拜ニ給養及衛生一班等ヲ具シ謹テ復命ス

明治三十九年一月十四日

第三軍司令官 男爵 木 希 典

野津大將奉告文

第四軍司令官長官奉告書

臣 道 貫

大命ヲ奉シ大孤山ノ一角ニ上陸シ獨立第十師團ノ任務ヲ繼襲シテ第四軍ヲ統率セシ以  
來柝木城ヲ攻略シテ第一第二軍間ノ連擊ヲ鞏固ニシ遼陽南面ノ堅壘ヲ陷シテ敵ヲ太子  
河ノ右岸ニ壓迫シ沙河會戰ニ於テハ敵ヲ三槐山ニ擊破シテ西溝山勝山間一帶ノ高地ヲ  
奪取シ奉天會戰ニ方リテハ先ツ漠城堡ヲ拔キ次テ渾河堡及其北方ヨリ七間房ニ亘ル渾  
河右岸ノ敵ヲ突破シテ奉天ヲ東北方ヨリ包圍シ當面ノ敵軍ヲシテ幾ンド殲滅ニ皈セシ  
メタリ

懸軍深ク朔北ノ野ニ入り征役幾ンド二裘葛ニ亘リシト雖モ旺盛タル志氣ハ一鞭ヲ經ル  
毎ニ一倍シ來リ陣中衛生ノ如キリ有史以來未曾有ノ功果ヲ收メ得タリ 臣道貫ノ之キ  
ヲ以テ本大戰役ニ於ケル一方ノ統帥ニ任シ甚シキ過失ナキヲ得タル所以ノ者ハ是レ全  
ク 陛下ノ聖旨ヲ體シテ高級ヲ率部ノ指導固到ナリシト各部團隊ノ畫策指導其宜シ  
キヲ得タルノ致ヌ所ニシテ官兵後援ノ力亦與ツテ多キニ居ルモノタルコトヲ感銘ス  
軍ハ屢々敵ノ中堅ニ衝突シ戰捷ハ多大ノ犠牲ヲ以テ之ヲ購ヒ得タル場合多ク爲メニ  
陛下ノ忠告ヲ矢石ノ間ニ失フコト多カリシハ 臣ノ夙夜恐懼措ク能ハサル所ナリ  
今ヤ軍司令部ノ凱旋ニ際シ 天顏ニ咫尺シテ作戦ノ經過ヲ奏上スルノ光榮ヲ荷ヒ感泣

ノ至リニ堪ヘズ茲ニ作戰 經過 衛生ノ概況 通信綱目並ニ兵站設置圖ノ別冊ヲ具シ  
誠恐誠惶謹テ復命ス

明治三十九年一月十九日

第四軍司令官 伯爵 野津道貫

鴨綠江軍司令長官奉告書

臣 景明

之キヲ鴨綠江軍司令官ノ榮職ニ承ケ客歲一月

闕下ヲ拜辭シ戰地ニ赴キタル以來常ニ道路險惡給養不便ナル滿洲東部ノ山部ニ行動シ  
清河城 地塔 馬郡丹 撫順 五鳳城及英額城等各地ノ戰鬪ニ於テ悉ク勝利ヲ博シ軍  
ノ任務ヲ達成スルヲ得タルハ上級統率部ノ畫策指導宜シキヲ得タルト友軍ノ協力部下  
各機關ノ奮勵將卒ノ忠勇並ニ國民ノ接等ノ致ス所ナリト雖モ皆偏ニ 陛下ノ御稜  
威ニ由ラズンバアラズ臣等ノ感激措ク能ハサル所ナリ今ヤ平和克復シ 臣等凱旋ノ榮  
譽擔ヒ今日 天顏ニ咫尺スルノ寵榮ヲ辱フスルニ當リ幾多忠勇ナル戰歿諸將卒ト此光  
榮ヲ共ニスルヲ得ザルハ 臣景明ノ恐懼且遺憾ニ堪ヘザル所ナリ  
茲ニ別紙作戰概況人馬一覽表衛生給養及兵站設備概況書ヲ具シ謹テ奏ス

明治三十九年一月二十日

鴨綠江軍司令官 男爵 川村景明

序

伊那軍人從軍錄編纂成ル惟ミルニ明治三十七八年ノ戰役ハ振古未曾有ノ偉業ニシテ無前ノ大戰歟タビカ世界ノ視聽ヲ聳動シタリシガ遂ニ交戦ノ目的ヲ達シ帝國ノ威武ヲ宇内ニ宣揚シタリ必竟スルニ我が忠勇熱烈ナル陸海軍人ノ拔山飛海克ク殊勲豐功ヲ奏シタルニ職由セズンバアラズ而シテ我カ下伊那郡出身將卒ノ此ノ戰役ニ從ヒシモノ其ノ數實ニ二千人ヲ下ラズ其ノ功績ノ如キニ至ツテハ官報ニ之ヲ録シタリト雖モ猶各人ノ歴戰ノ狀ハ宜シク之ヲ詳ニシ永ク範ヲ後昆ニ貽サハルムカラズ吉澤、代田ノ諸氏此ニ見アリ率先之ガ採録ニ勗メ拮据ニ葛藟遂ニ能ク之ヲ大成スルニ至レリ所謂千秋ノ紙碑ナルモノ其ノ世道人心ニ裨益スル蓋シ言ヲ俟タザルベシ余之ヲ本郡長ニ承ケ終始兵事ヲ兼掌シタルヲ以テ今此ノ書ノ上梓ニ方リ轉々今昔ノ感ニ禁ヘザルモノアリ則漫ニ蕪言ヲ述ベ序文ニ代フト云爾

明治四十年九月十五日

濱 音 之 助 識

文 序

序 言

日露ノ戰役ハ、實ニ振古未曾有ノ大會戰ニシテ、世界空前絶後ノ大偉績ナリ、交戈二十閱月ノ久シキニ亘リ、衆兵ヲ操リ、巨萬ノ戰艦ヲ進メ、鞏固ナル砲壘ヲ落シ、新進ノ戰術ヲ盡シ遂ニ連戰連勝ノ快局ハ結ビタリキ。

今ヤ相互ノ媾和ナリ、千古未曾有ノ大快捷ヲ極メ吾ガ銳兵名將ノ忠勇精武ヲ世界萬邦ニ發シテ極東ノ平和ハ漸ク茲ニ保持スルヲ得タリ。而シテ我が帝國ハ此ノ曠古比類ナキ大快捷ノ聲ヲ大和武人ノ譽ト共ニ相發輝シテ有史以還ノ一大聲望ヲ樹ツルニ至ル、之ニ參加シタル吾ガ忠勇熱烈ノ軍人諸士ノ偉勲功績ヲ、永久ニ傳フルト同時ニ生ケル教訓トナシ、武士的精神ノ教育資料トナシ、益々後輩者ノ士氣養成ニ勉ムル所ナリ。茲ニ編メル從軍錄ハ軍人諸士ガ戈投筆潤及ビ、軍隊手牒其儘ニ得タル材料ニシテ更ニ文飾ヲ加ヘズ、極メテ淡泊ニシテ多少ノ趣味ヲ有シ、后年ノ後位勲者ノ行映ト、齟齬スル憂ナキニ勉ム。

本編ハ、筆ヲ明治三十八年十二月ニ起シ、同四十年八月ニ止ム、此間吾下伊那郡三千有餘百人ノ、在郷良士ノ材料ヲ蒐輯スルニ、當郡出身ノ將校及ヒ下伊那下士團長北澤清氏、其他軍人團長、共勵會長、諸氏ノ贊助ヲ受ケ幾多ノ辛酸ヲ嘗メ、艱難ヲ排シ漸ク此ノ稿ニ成リタルナリ。

余カ此編ヲ纂スルニ當リ。我が竹馬ノ親友原初太郎氏。余ニ數百金ノ資ヲ與ヘテ曰ク。君今田ノ舉實ニ感スル所アリ吾モ二弟ヲ國家ノ急難ニ服サシメ、幸ニシテ無事凱旋ヲナシ次第ハ殊勲ノ光榮ヲ賜リタリキ、所謂忽ニシテ熱、忽ニシテ冷ナルハ邦人ノ通有性ナルニ、其一端タリトモ后世ニ傳ヘントスルハ、獨那郡ノ爲ナラズ延テ國家ノ爲ナラント資金ノ外所有便利ヲ與ヘラレ茲ニ完成スルヲ得タルモノナリ。

明治四十年丁未初秋

編者識

日露戰役伊那軍人從軍史目次

一	緒論	一頁	十四	清内路村之勇悍	四九一
二	山吹村之義憤	一頁	十五	智里村之勇猛	五一
三	河野村之劍戟ノ光	四一	十六	根羽村之剛毅	五二四
四	會地村軍人之勳聲	六九	十七	豊村之勇氣	五五三
五	下條軍人萬鑑	九四	十八	富草村之膽力	五七六
六	市田村軍人之花	一一五	十九	神原村之砲彈之響	五九三
七	大島村之名譽	一九五	二十	泰阜村之神色自若	六一一
八	旦開村鴻業之香	二三五	廿一	竜江村之勝鬨	六四三
九	飯田町武人	二七〇	廿二	上郷村軍人之片影	六六二
十	座光寺村英雄	三四二	廿三	上飯田村之震雷	七五六
十一	波合村之勇敢	三九一	廿四	伊賀良村之英傑	七八九
十二	天下條村之石心鐵腸	四一六	廿五	遠山村武人之譽	八二〇
十三	喬木村之膽量	四五一	廿六	千代村之誠忠	八二九
			廿七	上久堅村之赤誠	八四五
			廿八	三穂村之名譽	八六二
			廿九	伍和村之勝笛箏	八七二

三十一	生田村之譽	八七七
卅一	山本村之忠勇	八九七
卅二	松尾村之龜鑑	九一六
卅三	竜丘村之震閃	九二六
卅四	神稻村之奮闘	九三四
卅五	中島定雄君	九六〇
卅六	林春治君	九六〇
卅七	興村源一君	九六一
卅八	岡島悦雄君	九六六
卅九	藤田聯治君	九六三
四十	代田久助君	九六五
四十一	佐藤銀之助君	九六七
四十二	北澤清君	九六八
四十三	下平宗一君	九六九
四十四	前澤玉吉君	九七〇
四十五	志山金彌君	九七二

四十六	原市郎君	九七三
四十七	前澤吾市君	九七四
四十八	細川茂菟逸君	九七五
四十九	伊原廣司君	九七五
五十	林完君	九七六
五十一	館松新太郎君	九七九
五十二	吉川和市君	九八一
五十三	宮嶋桂次郎君	九八九
五十四	湯澤榮之助君	九九一
五十五	今村善男君	九九二

緒論

東洋ノ平和ハ既ニ破レ十年ノ怨ミ茲ニ溢レ還遼ノ恥ヲ雪ガザルベカラザルニ至リ我帝國ノ艦隊ハ船艦相乘シ旅順港外ニ進ミ、宣戰ノ大詔ハ乃チ砲火轟烈ト共ニ煥發セラレ、第一戰ニシテ敵艦ノ主力ヲ滅殺ス、而シテ我が忠勇義烈ナル陸軍ハ靜々肅々トシテ大同江岸ニ進ミ、陸海相應接シテ戰線ニ集リ世界絶無ノ無暴ヲ討タシムルニ、皇天我ニ義ノ斧鉞ヲ與ヘ鬼神モ其悲慘悲闘ニ泣キ天モ共ニ具暴戾ヲ憤ル、蓋シ義ノ旗仁ノ戈嚮フ所ニ敵アルベカラズ。

是實ニ千古未曾有ノ大戰ニシテ世界戰爭史中最モ其比等ヲ見ザル所ナリ、例ヘバ紀元前九百年スバルタ大王グレシヤ全國ノ兵ヲ率ヒテトロヤヲ攻メタル以上十ヶ年ニ亘リタル大戰爭ナリト雖モ、其奇因スル所ハトロヤ太子領奪シタル王妃ノ争ヒニ止リ、我軍隣邦ノ危急ヲ救ハンガ爲メニ義ヲ以テ戰ヒタルモノトハ更ニ其趣ヲ異ニス、又ベルンヤ軍ハアトス(Amos) 岬ノ颶風ニ破壊シ、陸ハトレトケー(Therke) 人ニ由テ破ラレ、本國ニ逃レ歸リタル後倣然グセシヤ全國ノ水土ヲ缺ジテ降伏セントテ勸誘セシニ、アテーナイ及ビスバルタハ斷乎トシテ應セザリシヨリ、更ニ紀元前四百九十年ダリウス再ビ準備ヲ整ヘサモス(Samos) ヨリ發シテ諸島却ヲ荒シマラトーン(Muraton) 灣ニ激戰ス、此戰ニ於テミルチアデス(Milindes) グレシヤ軍ニ將タリ、士卒愛國ノ熱

情溢レ能ク一髮千鈞ニ衝リ、僅々一萬ノ兵ヲ以テ十萬ノ大軍ニ當リ、軍歌ヲ吹奏シテ、  
吶喊シマラトレ山ヲ斜坂ニ降り、激戦憤闘遂ニメルシヤノ大軍ヲ撃退セリ、是紀先前四  
百九十年九月ナリキ、斯ル僅少ノ兵ヲ以テ大軍ニ衝リ能ク快捷ヲ得タルモノナリト雖モ、  
我ニ〇三島地ノ苦戦、旅順最後快捷ニ比シテ、以上ノ快戦ト云フベカラズ、亦紀元前四  
百八十年キセルキセースノ大軍陸ニ二百五十萬ノ兵ヲ操リ、海ニ千二百ノ戰艦ヲ浮ベ、  
海陸應戰シテ、南方アツチケニ並進セシトキ、スバルタ王ハ僅々三百ノ兵ヲ率ヒテ、恰  
モ潮ノ如ク寄セ來ルメルシヤノ大軍ニ當リ、能ク數日固ヲ支ヘ、敵ノ狂瀾中ニ救ジ、縱  
横奮闘シ、槍柄折ルレバ短劍以テ戰ヒ、劍柄碎クレバ赤手ヲ以テ戰ヒ、或ハ齒ヲ以テ咬  
ミ戰フガ如キ、悲闘惡戰ハ其類稀ニテ戰史ノ光榮偉大ナリト雖モ、此勇ヲ以テキセルキ  
セースノ大軍ヲ過メ能ハザリシコソ遺憾ナリト云フベシ。

尚ホアテ！ナイ海軍指令官テミスドクレーズハ三十六隻ノ戰艦ヲ以テ、メルシヤ千隻ノ  
艦隊ニ衝リ、サラミス (Salamis) 灣ニ於テ遂ニメルシヤノ海軍ヲ撃破シ、其行動敏捷ニ  
シテ頗ル勇敢ナリト雖モ、勝敗稍不明瞭ニ終リ、陸ニキセルキセースガ三十萬ノ兵ヲマ  
ルトニウスニ扼シ、本國ニ歸リタルニ因リ漸ク判明セルモノ、始シ、亦ナポレオン四境  
ノ征伐ニ於テモ、紀元千八百四年四萬ノ兵ヲ率ヒテアルプス (The Alps) 山ヲ越エ、オオ  
ストリヤノ大軍ヲ破リ、イタリアヲ恢復シ亦ドイツニ向ヒタル軍モ、ニーデラランド及ビ

ライシ左岸ヲ得テ殆ド四境ヲ平定セリ、之ヨリロシアスエーデンデンマルクト同盟シ、海  
軍ヲ以テイングラランドヲ征伐セントシテコペンハーゲン (Kopenhagen) ノ港ヲ襲ヒタルト  
キ、イングラランドノ水師總督ネルソン (Nelson) ハ霜雪苦ノ忍耐ヲ以テフランス艦隊  
ヲ撃破シ、何レモ其名古今ノ戰史ニ論ズル所ナレドモ、吾海軍總司令長官東郷平八郎閣  
下ハ、露國大洋艦隊ナル波羅的艦隊ノ大決心ヲ以テ海上附近ニ出現シ、彼ノ浦塩斯德  
ニ向ヒ我艦隊ヲ牽制シナカラ北進セントスルヲ、戰略七段ノ備ヲ以テ之ヲ迎ヘ對馬海峡  
ニ於テ、作戰三段ノ備エ未ダ終ラザルニ殆ド全滅二期セシメタル、實ニ其壯絶快絶ナル  
ハテミスドクレーズ及ビネルソンモ土下ニ恐怖スルナラン。

更ニ三十年戰爭ニ於テモ然リ、其關係頗ル複雜ニシテ、前後三十年ニ亘リタル大戰爭ナ  
リト雖モ、フェルヂナンド二世フリードリヒト戰ヒシハ、則チ一ノ内亂ニシテワルレ  
シスタイン (Vallestein) 及ビチルター (Tilly) 等ノ名將ヲシテ新教ヲ破碎セントセシヨ  
リ、デ子マルク新教ノ盟主クリスチアン四世ドイツニ乘リ、フェルヂナンドト戰ヒ敗レ  
タル後、スエーデン王グスターフアルドルフ (Gustaf) 所謂北方ノ獅子采リテフェルヂ  
ナンドニ當ル、佛蘭西宰リシユーイングランド助ケテ受ケテグスターフ連戰連勝ス  
ト雖モ、遂ニ戰死シ獨逸軍ノ大將ワルレンスタイン、反亂ノ嫌疑ニ因リ暗殺セラレタル



ヨリ、更ニ戰爭ハ其趣ヲ一變シ佛蘭西ノ強大ヲ計ル戰爭トハナリヌ、其後帝王將士立チ代リテ戰亂ヲ繼續セリ然レドモ、獨逸軍ハ佛蘭西ノ名將チユレン及ビヒマンテ公ノ爲メニ惱マサレ、遂ニ一千六百四十八年エストフブーレンニ條約ヲ締結セルガ如ク、幾多強國ノ相寄り相離レ戰亂變轉シテ頗ル其勝敗ノ分明ニ苦ムガ如キモノニシテ、彼我兩國ノ間ニ藹然タル大捷ヲ得タル戰爭トハ更ニ今日ノ言ニアラザルナリ。

總テ戰爭ノ大ナリト稱スルモノハ、長日月ニ亘リテ大ナリト云ハズ、多般ノ兵員戰艦ヲ操リテ大ナリト云ハズ、仰セ短日月ニ大多數ノ兵員戰艦ヲ操リ、而モ最長短離ニ出動シ、所謂新式ノ作戰戰術ヲ盡シ、仁義双立シテ依テ最大戰爭ト云フヲ得ベク、則チ此世界無比ノ最大戰爭ニ、肉提血河ヲ惹エ敵愾ノ氣象ヲ以テ甲冑トナシ、愛國ノ精神ヲ以テ銃劍ト爲シ、鏡ヲ挫キ錐ヲ排シ、彈丸硝煙ヲ拔キ、勇敢奮闘シタル、吾強兵名士ノ偉績功勳ヲ后世ニ傳フルニ、今日ニ於テセザレバ、頃年ノ後其尋タルニ好ナキナリ、況ヤ戰場ニ散リテ君國ノ爲メニ盡サレタル士ニ於テヲ矣、世ノ進運ト共ニ、諸萬邦ノ平和ハ行レ軍備不必要トナリ、隨テ勇兵強士ノ函養ニ其用ナキモノノ如ク唱導スルモノアリト雖モ、近世紀ニ於テ其完全ヲ得ルコト能ハズ、則チ和蘭國ノ首府海牙ニ開カレタル平和會議モ平和ノ號ヲ冠スル露帝ノ首唱ニ依リ、千八百九十九年海牙ニ開カレタル第一回ノ

會議ノ例ニ依リ、露帝ノ平和會議ノ開催ヲ保セル其深意ニ至リテハ、或ハ世間揣摩ヲ逞フシ露國ガ力ヲ極東ノ經營ニ致サンガ爲ニ、歐洲ニ於ケル露國ノ軍備ヲ弛メント欲シタルニ出テタルモノナリ、第一回ノ會議表見ノ目的トスル所ハ、所謂武裝の平和ノ態度ヲ以テ諸國ヲ救ハンコトヲ主トシ、一方ニ於テハ各國ノ軍備制限ヲ議シ、他方ニ於テハ國際紛争ヲ平和的ニ解決スルノ法方ヲ講シ、兼テ作戰法方ノ制限等ニ及サントスルモノニテ、平和確保進歩ヲ目的トシテ、開カレタルモノト云フヲ得ベシ、然レドモ第一回平和會議ノ有様ヲ見ルニ、軍備ノ制限ハ幾多強國中強硬ナル反對者アルトキハ成立セズ、若シ成立スルモ紛争國ニ此等ノ解決法方ニ依ル義務ヲ負ハシメサルヲ以テ實際上戰爭ヲ減シ平和ヲ確ムルノ効驗顯著ナリト言フヲ得ズ、果セルカナ平和首唱者タル露國ハ極東ニ干戈ヲ交ユルニ至リ、故ニ第一回平和會議効果ハ其標榜スル平和ノ進歩ニアリト云ハンヨリハ寧ロ戰爭ニ関スル國際法規ノ發達ニアリト云フベシ、亦軍備制限タルヤ實ニ困難ナルモノニテ各國自然ノ必要ヨリ進縮擴張スルヲ議會ニ依リテ一定スルハ到底可不能ノ事ニ屬ス、故ニ平和會議タルモノハ戰爭ヲ爲サントスル一部ノ修正ニ止リ、各國共ニ戰爭ノ不利ヲ知リテ全然戰爭ヲ廢止スルノ時期ハ、近キ將來ニ見ル能ハザルモノナリ、然ラバ愈々益々武ヲ養ヒ、兵ヲ脩メ、國家ノ維持ニ勉ムルハ最大必要ニテ、若

シ世ノ完全ト共ニ理想ノ平和ヲ見ルニ至ルト雖モ、一旦國難ニ洵ジ、戰場ノ巷ニ斃レ  
空天ニ凝リテ護國ノ神トナリタル忠兵良士、骨山林劍ヲ越エ殊勲ヲ樹テラレタル勇兵  
名士即チ生ケル教訓者ヲシテ長ク永遠ニ傳ヘ心根ニ刻シ寸時忘レザランコトハ、吾等  
國民ノ務メナリ。

山吹村部

小平櫛太郎

陸軍歩兵一等卒勲八等

明治廿九年十二月一日高崎歩兵第十五聯隊第八中隊ニ入隊シ全年十二月二日歩兵一  
等卒申付ラル全卅一年四月三日聯隊旗手ノ檢閲ヲ受ケ全年十八日旗護卒申付ケラル全  
年十一月四日歸隊除隊ヲ命セラレ全日善行證書ヲ附與セラル明治卅七年二月六日充員  
召集ニ應ジ三月廿九日陸軍運送船臺灣丸ニ乗シテ横順賀港ヲ出帆シ四月四日韓國鎮南  
浦ニ上陸ス全月廿一日野戰近衛歩兵第三聯隊第三中隊ニ編入セラル全年五月一日九連  
城及蛤蟆塘附近ニテ戰闘ス六月廿九日龍花嶺ニ於テ戰闘シ七月廿二日ヨリ木嶺附近ニ  
於テ戰闘シ全月卅一日及八月一日様子嶺附近ニ於テ戰闘ス八月廿六日乞谷寺ニ於テ戰  
闘ス敵ト小衝突セシコト數回八月卅日遼陽ノ第一防禦線タル徐家溝ニ於テ戰闘シ九月  
一日ヨリ五日迄遼陽附近ニ於テ戰闘ス九月廿一日脚氣症ニ罹リ遼陽病院ニ入院ス逐次  
後送セラレ十月廿五日東京豫備病院氷川分院ニ入院ス全年十一月十八日召集解除ヲ命  
セラレ歸郷ス

從軍中ノ所感

出征中及ヒ途上ニ於テ國民諸氏ガ誠意ヲ以テ優遇セラレシコト又入院中國民諸氏ガ多

大ノ慰籍ヲ與ヘラレシノミナラス外國人が屢訪問セラレ同情ヲ寄セラレシコトハ深ク  
肝膽ニ銘シテ永ク志レザル所ナリ我軍ノ戰略ニ於テハ作戰計劃嚴密ニシテ遺算ナク數  
十萬ノ大軍ヲ恰モ手足ヲ使フガ如ク行動セシメタルハ我々一兵卒ノ感スル所ナリ露軍  
ノ防禦工事ノ堅固ナルコト、軍器ノ精銳ナルコト、ハ敵ナガラモ感嘆スル所ナリ  
戰功ニヨリ白色勳章金百五拾圓ヲ下賜セララル

海軍志願兵千歳艦乗組員

小平哲郎

明治三十七年日露役起ルヤ非憤慷慨海軍へ志願シ検査ノ結果採用セラレ全年六月一日  
舞鶴海兵團へ入團シ温厚篤實技術熟達者トテ撰拔セラレ全年九月比叻艦へ乗り組ミ全  
時四等主厨ニ進級全日出港日本海戦ニ参加シ三十八年九月坂團三等主厨ニ進級シ千歳  
艦乗組員トナリ日下清國上海ニ勤務中ナリ

後備陸軍騎兵上等兵勲八等

中平嘉市

明治廿七年十二月一日現役兵トシテ騎兵第一大隊補充中隊へ入隊全廿八年三月八日行軍  
演習トシテ千葉縣下へ出張全十二月二日坂隊全年四月廿七日野營演習トシテ千葉縣下志津  
へ出張全五月四日坂隊全年六月九日騎兵第一大隊第一中隊へ編入全年十月廿日野營演

習トシテ千葉縣習志野原へ出張全廿一日歸隊全年十一月十六日第三中隊へ編入全廿九  
年九月五日野營演習トシテ千葉縣習志野原へ出張全廿四日坂隊全年十月三日行軍演習  
トシテ神奈川、静岡、山梨三縣下へ出張全十六日歸隊全年十月十八日一等卒全年十月廿  
六日戸山學校射擊演習  
ノ爲メ千葉縣下志津原  
出張全廿九日歸隊全年  
十一月廿日歸隊兵申付  
ケラレ全日退營

現役中褒賞



中平嘉市君

臨時招魂祭連合競馬  
ニ付二等賞ヲ受ク明  
治廿九年三月三十一  
日明治廿七八年戰役  
ノ功ニ依リ金貳拾五  
圓下賜明治二十九年  
十一月廿日善行証書  
付與

◎ 附 記

當隊ハ柳騎兵ノ基本隊ニシテ兵厩舎其他ノ設備實ニ完全且ツ隊附將校ハ何レモ勇猛万  
能ノ名士即チ日清戰役ニハ騎兵中佐秋山好古殿(當時騎兵監)大隊ヲ指揮シ偉功ヲ奏シ  
タルコト戰史ニ明白ナリ次テ明治二十九年五月組織ヲ騎兵第一聯隊ト改メ全年八月開

院宮載仁親王殿下聯隊長ニ補セラレ全年十一月二十日軍旗ヲ授與セラル爾來益々諸事  
整頓名聲屯ニ揚レリ

在郷中明治三十年ヨリ全卅六年迄毎年一回簡閱縣呼參會明治三十七年六月二日補充召  
集ノタメ第一師團補充馬廠へ編入全年九月二十七日動員ノタメ騎兵第一聯隊補充中隊  
へ編入全年十月十三日野營演習トシテ千葉縣習志野原へ出張全廿九日歸營全三十八年  
四月十二日ヨリ全年十月十八日迄兵器倉庫常置勤務全年九月廿一日騎兵上等兵全年十  
月十九日過員ニ付召集解除

◎ 附 記

柳々補充馬廠ノ任務タル戰地必要ノ馬匹ヲ調整補充スルモノニシテ頗ル繁雜ヲ極メ殊  
ニ徵發新馬ノ諳愕スルモノヲ速成訓育調教スルガ如キハ甚ダ至難ニシテ實ニ暴情ナル  
露助ノ征討ニ從事スルモ斯クヤノ感アリ又騎兵補充隊ニアリテハ明治二十七八年役當  
時ニ比シ定期或ハ補充ヲ問ハズ新兵ノ入隊スルモノ皆人智ノ發達軍事志想ニ富ミ速成  
教練ニ堪へ從軍ヲ願慮セサル事ノ進歩ハ實ニ驚クヘキモノアリ即チ動員其他戰地補給  
ノ煩煩ナリシニモ抱ラス充用シ得タルハ右ニ基因シ加フルニ當事者ガ諸般計劃其宜シ  
キヲ得シモノト信ス只給與ノ不充分ナリシ感アリシモ敢テ筆ヲ勞スルニ足ラス大日本  
赤十字終身社員

陸軍砲兵輪卒勲八等

松村虎之助

明治三十七年五月二十日充員召集ノタメ野戰砲兵第十七聯隊補充中隊へ編入サル明治  
三十七年十二月十一日宇品出帆全月二十七日ヨリ旅順攻撃ニ參加スル全三十八年一  
月十五日迄明治三十八年一月十六日遼陽方面へ行進ノ爲メ泥河子出發全月卅日三塊石  
着全月廿七日ヨリ奉天附近ノ會戰ニ參加ス三月十四日ヨリ印士屯ニ滞在四月十三日前  
進馬力子ニ滞在五月四日前進花家屯着十九日ヨリ二十一日ニ亘ル花家屯附近ニ敵騎米  
襲向地ニ於テ應戰二十五日転近調兵山ニ滞在六月十五日第七師團ニ屬シ第一梯隊長ノ  
令下ニ入り家窩棚ニ着全地滞在十月十八日原旅團へ復歸セシメラル宿營地移轉スル迄  
野戰砲兵第十六聯隊長令下ニ屬シ十一月二日転宿原大隊へ復歸明治三十九年二月七日  
小房子出發全月十四日凱旋ノ爲メ清國大連港乗船全年二月十八日宇品港上陸明治三十  
九年三月二日召集解除トナル

◎ 戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

陸軍騎重兵第一聯隊第一補充兵勲八等

平 田 淺 市

氏ハ山吹村ノ人明治三十七年二月六日動員全十二日入營全十五日午後十一時東京出發  
全廿七日韓國鎮南浦上陸全二十九日全地出發龍岡江西文洞雲澤竜山岡里西湖里安州

嘉山定州宜川鉄山車輦館良策館ヲ經テ永平里ニ到着四月十七日ヨリ良策館ト梶峴面  
 間糧秣輸送全廿八日永平里出發所串館宴舞洞嶺州九連城間糧秣輸送全年五月四日清國  
 九連城着安東縣及老古洞間糧秣輸送全十日安東縣着全地ト老古洞間糧秣輸送勤務二服  
 ス六月廿三日安東縣出發鳳凰城佐志子峠ヲ經テ高家店ニ着ス全地ト四門子間糧秣輸送  
 勤務七月八日ヨリ砂子岡高家店間勤務全廿一日列家堡子着八月廿九日出發全三十日伺  
 家堡子着全地ト黄泥崗及大安平間今十月五日浪子山着全地ト湯山城及大安平間勤務全  
 十三日出發全十五日平拉山子着舎營ス十月廿五日村上兵站司令部附屬全地ト英守堡及  
 張海村間糧秣輸送勤務明治三十八年二月十九日ヨリ臨時輜重監視隊ニ編入全地ト八家  
 子銀守堡間輕便鐵道輸送炭塩山合葬紀念碑建設工事ニ從事五月三十日半拉山子歸宿  
 第一軍兵站部半拉山子支部勤務六月二十七日全地出發唐家屯朱家屯季石塞連刀灣歌地  
 屯ヲ經テ全月二十三日撫安屯ニ着森兵站司令部附屬撫安屯東塞間糧秣輸送勤務戰地  
 出發十二月二十六日宇品着全二十六日東京着全三十日除隊無事歸郷ス  
 ◎戰功ニヨリ白色桐葉章金二百圓ヲ下賜セル

近衛師團補助輸卒

城子晴十郎

明治三十八年六月十三日補充召集トシテ近衛歩兵第四聯隊補充第八中隊へ入隊全年六

月十六日近衛第九補助隊補充トシテ屯營出發廿四日清國大連上陸二十七日遼陽着二十  
 八日煙台着二十九日唐家屯着全日達子堡本隊着滞在七月一日全地出發朱家屯季石塞連  
 刀灣歌起屯長家樓子ヲ經テ七月五日熊官屯着滞在十四日鐵嶺着通行軍隊宿舍監視ニ  
 務勤ス十二月六日鐵嶺ヲ乘車シ奉天遼陽金州ヲ經テ大連着滞在全九日全地出帆シ十二  
 月十八日品川着東京府千駄ヶ谷村ニ滞在十二月二十二日復員ニ依リ解隊ス

陸軍輜重輸卒

福澤今朝市

明治三十八年二月廿五日輜重兵第一大隊補充隊へ召集全年四月一日第十三師團第二糧  
 食縱列へ編入全年七月七日出征ノ目的ヲ以テ國府台ヲ出發七月廿五日樺太北部アルロ  
 一ニ上陸七月二十六日イルイコフ攻撃ニ從事ス七月廿七日アルベンスユエニ着午後上ア  
 ルムダムルイコフ間ノ糧秣輸送ニ從事ス九月三日内地歸還ノ目的ヲ以テアルベンス  
 ユエヲ出發全月十日出帆全月十四日青森上陸全月二十四日ヨリ鐵道輸送ニヨリ廿七日  
 東京へ凱旋ス

陸軍憲兵軍曹勲八等

佐々木重治

明治廿七年十二月一日歩兵トシテ歩兵第十五聯隊第一大隊第四中隊へ入隊全廿八年三月

二日第二期檢閱野外演習ノ爲西群馬郡何香保町へ出發全三日坂營全年十月十一日長途行軍及第三期第五期野外演習ノ爲長野縣北佐久郡西長倉村へ出發全廿一日坂營全年十一月器械操練二等銃劍一等進同廿九年一月十七日旅團長伏見宮殿下從卒トシテ第一旅團司令部へ分遣三

月廿二日坂隊同年三月廿六日行軍及野外演習ノ爲群馬縣多胡郡吉井町全綠野郡藤岡町及埼玉縣兒玉郡本庄町地方へ出張同月廿九日坂營同年五月十九日上等兵二昇進同五月廿二



佐木重治君

街發營初村來海後双島王家社ヲ經テ同月廿九日坂營同年五月十日威海衛占領軍交代ニ付全日清國山東省碼頭街乘船翌十一日出帆全月十六日橫濱着同日高崎へ坂營同年八月十六日ヨリ全年十一月九日マテ高崎町憲兵屯所へ憲兵學科修業ノ爲メ通學同年十一月十五日憲兵上等兵全日第十憲兵隊へ編入全年十一月廿七日屯營出發十二月四日宇品港

日威海衛占領軍へ編入セラレ同月廿日宇品港出帆六月二日碼頭街上陸同日ヨリ同所守備勤務同年十一月銃劍術一等器械操練一等同三十年三月廿五日威海衛占領軍小機動演習ノ爲メ碼頭

乘船同十三日安平上陸任地着同日第一分隊へ編入總爺街屯所附同三十一年二月九日第八分隊へ編入幕幕寮屯所附全年十二月廿日混成旅團管下第二期討伐隊北部右翼隊ニ附屬シ陸軍憲兵中尉鹿島國富ノ指揮ニ從ヒ台南縣内新豐里番社庄ヨリ南進各庄ヲ搜索十二月廿六日仁壽里彌陀港ニ至リ解散同年十二月一日第十五憲兵隊ト改稱全三十三年十二月一日現役滿期ニヨリ豫備役編入同廿七年三月六日第一師團元員下令兵站監部編入全年三月廿一日勤員完成全日第二軍兵站監部付全年九月五日ヨリ一ケ年間清語四等通譯全三十八年四月八日任憲兵伍長

出 戰 務

明治二十八年三月十三日戰地補充トシテ高崎出發四月一日大連灣上陸同月十九日民家店ニ於テ第四中隊へ編入同年五月二十三日日清講和條約決定ニ付大連灣乘船同月二十六日宇品港凱旋同月廿九日高崎屯營着坂同三十年宇品港出帆同月廿四日清國張家屯上陸蔡家屯駐屯同月廿六日金州附近ニ於テ戰闘同年六月十五日花紅溝口及得利寺附近ニ於テ戰闘同七月七日熊岳城支部附同日普蘭店出發同九月九日熊岳城着七月九日蓋平附近戰闘ニ參與又同七月十九日熊岳城出發同日蓋平着七月十三日海山塞佐伯兵站司令部附同廿三日ヨリ廿五日迄大石橋附近ノ戰闘ニ參與又八月廿五日ヨリ廿九迄鞍山站附近ノ戰闘ニ參與又同三十日ヨリ卅一日迄首山堡附近ノ戰闘ニ參與又九月一日ヨリ四日迄遼陽

附近ノ戦闘ニ參與ス十月十日ヨリ十七日迄沙河附近ノ會戰ニ參與ス同年十月十七日  
 監部附同十二月四日大荒地田中兵站司令部附同廿八年一月廿五日ヨリ同月廿八日迄黑  
 溝台附近ノ戦闘ニ參與ス同年二月廿六日ヨリ三月十一日迄奉天附近ノ戦闘ニ參與ス同  
 六月十一日昌圖原兵站部附同六月廿一日田中兵站司令部附同九月十日任憲兵軍曹同十月  
 十六日平和克復同三十九年一月三日監部附同廿九年一月十八日大連出帆廿二日宇品上  
 陸廿五日廣嶋着同廿六日大阪ニ凱旋同廿七日復員下令同年二月五日召集解除

◎ 褒 賞

明治廿八年十一月十八日明治廿七八年戦役從軍記章授與同廿八年八月廿五日ヨリ二週  
 間戦役慰勞休暇下賜同廿九年一月八日明治廿七八年戦役ノ功ニヨリ金貳拾五圓賜フ同  
 三十年五月廿日ヨリ一週間威海衛守備慰勞休暇下賜同廿二年四月二日勤勞ニヨリ金八  
 圓六拾一錢賞與同三十三年二月六日勤勞ニヨリ金貳拾圓賞與同三十九年七月十日附恩  
 給年額九拾五圓下賜

◎ 勲功ニ因リ白色桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セラル

陸軍砲兵軍曹功七級勲七等

寺澤 鏡一

明治廿三年十二月一日野戦砲兵第十四聯隊第六中隊へ入隊同廿六年十一月廿日滿期

除隊

○ 出 戦 務

明治廿七年三月十五日克員召集ニ應シ野戦砲兵第十四聯隊第六中隊ニ編入同年三月十  
 五日第二軍戦闘序列ニ入ル同年四月二十四日守品出帆五月十二日清國張家屯上陸同年  
 五月廿六日南山ニ戦闘  
 ス同年六月十五日得利  
 寺附近ニ戦闘ス同年七  
 月九日蓋平及海山塞附  
 近ニ戦闘ス同月廿三日  
 ヨリ廿五日迄大石橋ノ  
 戦闘ニ參與シ同廿四日  
 大平社同廿五日岳洲ニ  
 戦闘ス同年八月一日ヨ



寺澤 鏡一 君

戦闘ス全年九月十八日第四軍戦闘序列ニ入ル全年十月七日八日九日台煙附近ニ戦闘ス  
 全年十月ヨリ十四日迄沙河ニ戦闘ス全年十一月廿一日ヨリ三十八年二月廿六日ニ至ル  
 沙河ニ對陣ス明治三十八年二月廿七日ヨリ同年三月十二日ニ至ル奉天附近ニ戦闘ス同

リ四日迄海城附近ノ  
 戦闘ニ參與ス同年八  
 月廿六日ヨリ九月三  
 日迄遼陽ノ戦闘ニ參  
 與シ廿六日廿七日奉  
 天堡子ヨリ騰 堡間  
 二五四戦闘シ廿日卅  
 一日首山堡附近九月  
 一日二日遼陽附近ニ

年三月十四日孤家子北方高地ニ戦闘ス同年六月九日南城子附近ニ戦闘ス明治三十九年二月十九日凱旋ノタメ大連乗船二月廿三日宇品上陸全月廿四日旋團ノ役員下令同廿八日屯營着三月十二日召集解除

◎ 褒 賞

明治三十六年十一月三十日善行証書附與セラル

明治三十四年度上等兵候補者終末試験優等ニ付書籍二部褒賞セラル

○明治卅九年九月三日三十七八年役ノ功ニ依リ金鷲勲章功七級並ニ勲七等旭日章ニ叙セラル

故陸軍歩兵伍長

井澤 彌 忠 治

明治三十五年十二月一日ヲ以テ北海道第七師團歩兵第二十五聯隊第十二中隊編入全三十六年四月十七日教育第一期卒業全卅六年九月廿五日秋期演習トシテ小樽岩内室蘭各支廳管内へ出張同年十月十六日返着同年十二月一日一等卒ヲ命セラレ同月十四日上等兵ヲ命セラレ翌年二月十一日小樽守備隊混成第二中隊編入同日派遣明治三十七年八月四日動員下令同十月廿日屯營出發同廿一日室蘭出發同廿二日青森上陸同三十日大阪着十一月廿日青泥窪上陸十一月廿一日金洲縣金龍寺溝着十一月廿六日旅順口附近松樹山

攻撃ニ參加シ同卅日赤坂山ニ於テ頭部貫通銃創ヲ受ケ後送セラレテ青泥窪兵站病院ニテ收容中十二月八日午前令時三十分死亡陸軍歩兵伍長ニ任セラレ戦功ニヨリ功七級金鷲勲章並ニ勲八等白色桐葉章ヲ下賜セラル

野戦砲兵二等卒

三 石 政 男

明治卅八年日露戦役ニ從ヒ千葉縣國府台砲兵營ニ入營全日野戦砲兵第十七聯隊補充大隊第二中隊へ編入同年六月七日射撃演習ノ爲メ千葉縣下志津原へ出張シ全月十六日歸隊ス明治卅八年八月廿一日留守第七師團へ轉隊ヲ命セラレ同年九月廿四日北海道旭川兵營ニ着シ全日野戦砲兵第七聯隊補充大隊第一中隊ニ編入サル同年九月十八日野營演習ノ爲メ美瑛村へ出張シ全日歸隊ス明治卅八年十月三十日平和克復ノ爲メ召集解除セラル

陸軍歩兵伍長勲八等

塩 澤 源 太 郎

明治廿九年十二月一日歩兵第十五聯隊ニ編入全三十年十二月一日歩兵一等卒ニ進ミ同卅一年一月六日歩兵上等兵ニ昇進同卅二年十一月三十日滿期善行証書ヲ授與セラレ除隊爾后農藝業ニ従事ス同卅七年日露役起ルヤ八月十六日歩兵第二十六聯隊ニ編入出征



ノ爲メ今十月廿三日屯營出發全十一月十三日大阪港出帆玄海難波濱高ノ海上七日間ニ  
 涉リ全十九日清國盛省青泥窪ニ上  
 陸シ旅順包圍軍ニ加ハリ全廿八日  
 午後七時草寢岩枕シ彈丸崩烟ノ裡  
 ニ出入シ而モ難攻不落ト稱シタル  
 二〇三高地突入ノ際左季助部督管  
 銃劍ヲ受ケ衛生隊ヲ經テ野戰病院  
 へ入院遂次還送回卅八年一月廿三  
 日東京豫備病院ニ於テ傷癒治癒退  
 院全二十六日歩兵第二十六聯隊補  
 充大隊へ編入金十四月二十二日歩  
 兵伍長ニ任ス次ラ武器掛リヲ命セラル同年平和克復ニ付十月廿六日召集解除



君 郎 太 源 澤 塩

陸軍砲兵補充兵一等卒

中平金治郎

明治卅八年四月十四日補充召集トシテ野戰砲兵第十七聯隊補充大隊第一中隊へ入隊同  
 卅八年六月十六日下志津原へ射撃演習トシテ出張全六月廿五日阪隊同三十八年八月廿

八日三四行軍トシテ東金方面へ出張全三十一日阪隊全八月一日千葉縣下志津原射撃學  
 校生徒助手トシテ出張全十一日阪隊明治三十九年二月十五日一等卒申付明治卅九年二  
 月二十七日役員ニ付召集解除阪隊

陸軍砲兵補充兵一等卒

丸山軍治郎

明治卅八年三月十日充員召集トシテ野戰砲兵第十七聯隊補充大隊第一中隊へ入隊同六  
 月十六日下志津原へ射撃演習ニ出張全六月二十日阪隊東金方面へ出張全卅一日阪隊全  
 五月十二日千葉縣習志野原へ出張全八月六日東練兵場ニ於テ騎銃射撃明治三十九年一  
 月十七日砲兵一等卒申付キ全二月廿七日役員召集解除阪隊

陸軍第一補充兵輜重輪卒

竜口藤治郎

明治卅七年五月補助輸卒隊充員召集全年五月十九日第一師團第十三補助輸卒隊第三小  
 隊へ編入同三十七年六月四日横順賀發全六月廿二日清國盛京省張家屯上陸全廿五日三  
 十里堡兵站司令部ニ配屬セラル全七月二日大連ノ本隊ニ合ス全七月卅日大連出發全卅  
 一日西小磨子着全八月三日長嶺子着全八月十八日ヨリ旅順攻撃參與全九月十一日長嶺  
 子發全日西龍頭着全八月十九日ヨリ全二十五日迄從歩砲兵第一聯隊第一大隊へ臨時配

属全日元隊後坂全九月十九日旅順第二回攻撃ニ參與全十月三十日第三回旅順攻撃ニ參與第四回旅順攻撃ニ參與引續キ明治三十八年一月二日旅順開城迄攻撃ニ參與ス全二月下旬ヨリ三月上旬迄奉天會戰ニ參與シ重輕砲彈ノ輸送及二十八榴榴砲ノ据付輸去ノ際誠砲運搬ニ從事ス明治三十八年四月八日脚氣症ニテ入院明治三十八年五月八日東京灣要塞砲兵聯隊へ編入今月十一日召集解除歸郷

陸軍砲兵補充一等卒

龍口松太郎

明治三十八年四月補充召集トシテ野戰砲兵第十七聯隊補充大隊入隊全年七月七日射撃演習ノ爲メ千葉縣下志津原へ出張今月十六日坂隊全三十八年七月九日出征ノタメ野戰砲兵第二十二聯隊縦列へ編入全七月二十六日習志野原假校舎ヲ屯營トシテ宿營ス全八月十日屯營ヲ出發全十四日廣島着全二十一日宇品港出帆全二十四日清國盛京省大連上陸全二十八日鉄領着全十三日遼陽着全十四日徐家屯着明治三十九年三月二十日徐家屯出發全四月四日國府台衛戍地着全七月七日解散召集解除  
◎戰勞ニ依リ金五拾圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒

小平福太郎

明治三十七年十二月一日徵兵トシテ横須賀要塞砲兵聯隊ニ入隊爾來勳績中

陸軍砲兵一等卒

橋都與助

明治三十七年三月六日勳員ニ當リ聯隊縦列ニ編入全二十日屯營出發全四月二十二日宇品港出帆全五月十一日清國盛京省張家屯上陸全十六日関家屯北方高地ニ於テ戰闘ニ參與全二十六日金州南山ノ戰闘ニ參與全七月二十六日同二十七日ニ亘ル營城子附近ノ戰闘ニ參與七月三十日土城子附近ノ戰闘全八月十四日ヨリ二十日迄胡家屯ニ於テ戰闘同九月五日小東溝附近戰闘中右前腕ニ貫通銃創ヲ受ケ第四野戰病院ニ入院后送三十七年十二月四日砲兵一等卒申付ケラル三十七年九月十五日大坂上陸全二十二日東京豫備病院入院全十一月十六日全治退院ニ付キ野戰砲兵第一聯隊補充大隊第二中隊へ編入全十二月九日疾病國府台分院入院全三十八年二月十二日坂隊療養許可全四月一日坂隊明治三十九年二月二十一日兵役免除

陸軍歩兵上等兵勳八等

中平利三郎

明治廿七年八月四日勳員下令八月十六日充員召集ニ應シ歩兵第二十六聯隊補充大隊第一中隊ニ入隊全八月廿九日第七中隊へ編入全九月九日戰闘射撃ノタメ美瑛地方へ出張

全十三日阪着全十月廿二日大阪二向ヒ出發全十九日清國監京省大連上陸第三軍二編入

◎ 出 戰 務

明治廿七年十一月十一日第三軍二編入全廿日營城子着全廿六日總攻撃ニ參與ス全三十日二百〇三高地ニ於テ戰闘ニ從事全所ニ於テ負傷全十二月二日第二軍野戰病院ニ入院ス全十四日大連兵站病院ニ入院ス全廿三日内地後送ノ爲メ大連出帆全廿七日宇品港坂着明治三十七年十二月二十七日廣嶋豫備病院へ入院廿八年一月三日大阪天王寺分院轉送全四月九日東京尸山分院へ轉送全四月九日全治退院全月廿三日歩兵第二十六聯隊補充大隊第一中隊へ編入十月二十日歩兵上等兵申付カル十月廿六日平和復克ニ付召集解除現役間褒賞休暇八回

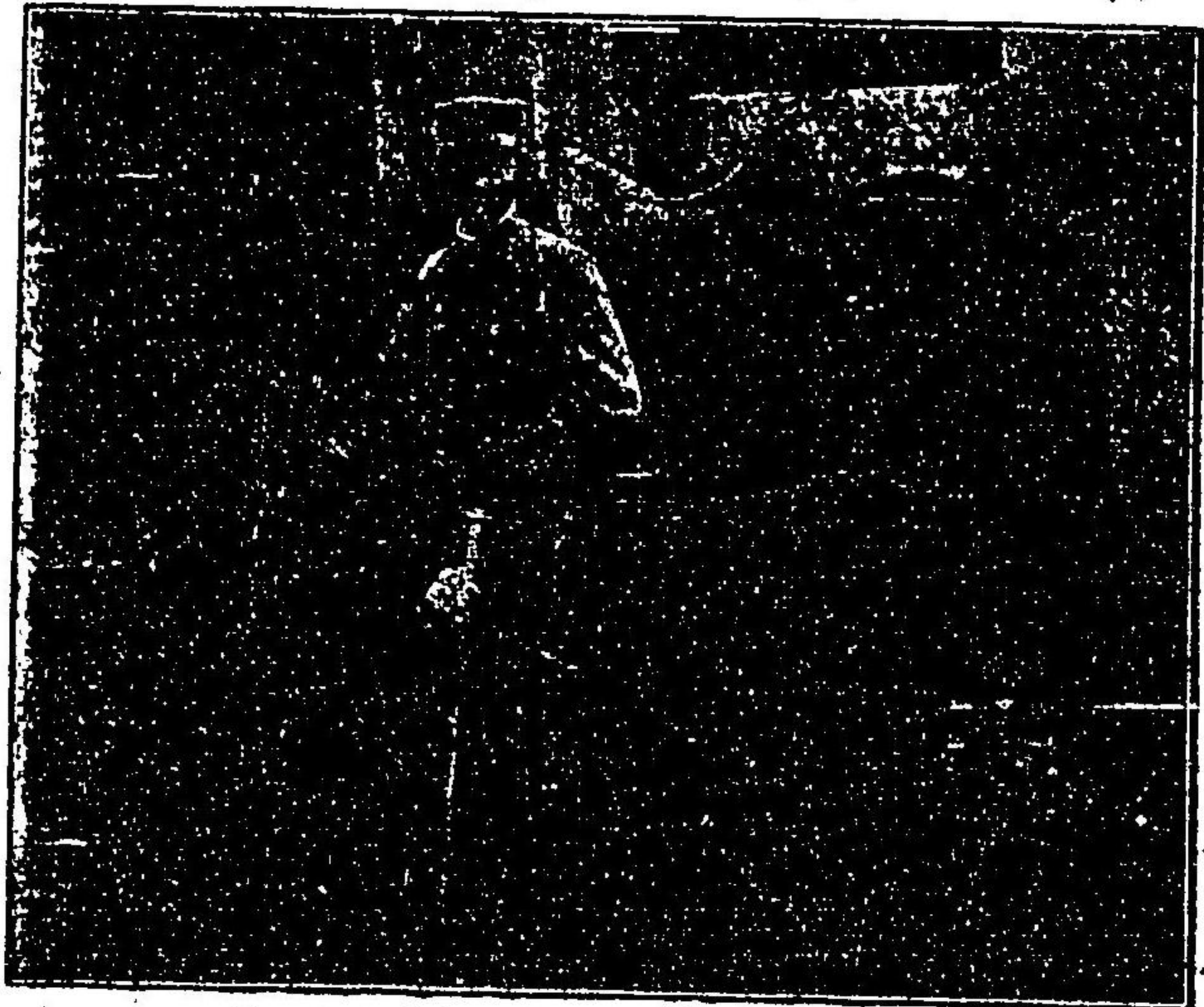
◎戰功ニヨリ白色桐葉章金二百圓ヲ下賜ヒラル

陸軍砲兵軍曹功七級勲七等 小平喜代松

明治三十年徵兵トシテ野戰砲兵第一聯隊第三中隊ニ入營ス全三十一年三月一日上等兵候補者ヲ申付ケラル全七月十一日千葉縣志野原へ三泊行軍トシテ出張全十四日阪隊全九月廿一日定期實彈射擊演習トシテ千葉縣下志津原へ出張十月十八日阪隊全十一月五日小機動演習トシテ栃木縣、埼玉縣、茨木縣各地方へ出張全二十五日阪隊全十二月一

日砲兵一等卒申付ラル同時ニ上等兵申付ラル新兵教育掛ヲ命ラル同廿二年三月一日上等兵候補者教育掛ヲ命ラル全三月十七日一泊行軍トシテ神奈川縣川崎町へ出張同十八日阪隊同八月一日照準手教育掛ヲ命ラル同九月廿九日定期實彈射擊トシテ茨木縣行方郡玉造町へ出張同十月九日阪隊同十一月五日小機動演習トシテ埼玉縣神奈縣千葉縣各地方へ出張同廿日阪隊同十二月一日被任砲兵伍長第四中隊ヲ命ラルレ新兵教育掛ヲ命ラル

◎ 出 戰 務



小平喜代松

同三月一日ヨリ三月間第二大隊第一補充兵教育掛ヲ命ラル同六月十一日一泊行軍トシテ千葉縣志野原附近へ出張同十月十日阪隊同九月十日定期實彈射擊演習トシテ千葉縣下志津原へ出張同三十日阪隊明治三十七年三月十二日克員トシテ第一師團野戰砲兵第一聯隊第三中隊へ隊

明治卅七年三月十九日出征ノタメ國府台長管 出發ス同廿日品川停車場ヲ發車又同廿  
 二日廣島着同四月廿二日宇品港出帆同五月十日清國盛京省張家屯上陸同五月十六日十  
 三里戰鬪同五月廿六日ヨリ同二十七日迄金州南山ノ戰鬪同七月廿六日ヨリ同廿七日迄  
 双台溝附近ノ戰鬪同七月廿日沙包附近ノ戰鬪八月十四日ヨリ十五日ニ至ル標高百廿  
 一高地ノ攻略及百七十四高地ノ砲撃同八月十九日ヨリ同廿六日ニ至ル標高百七十四高  
 地ノ攻略全九月十九日ヨリ同廿一日迄第一回二百〇三高地攻撃第一回二百〇三高地ノ  
 攻撃及十マコ山攻略同九月廿三日ヨリ十一月廿五日ニ至ル太平溝南方高地ニ於テ制壓  
 射撃二百〇三高地西北方ニ於テ二百〇三及七赤坂山ノ砲撃十月三十日三羊頭村北方  
 高地ノ攻撃全十一月廿六日三羊頭村北方高地ノ攻撃同十一月廿七日ヨリ十二月五日  
 ニ至ル第二回二百〇三及赤坂山ノ攻略同十二月十七日七師團高丁山攻略援助全十二  
 月廿三日第七師團西太陽溝砲台北方高地攻略援助全十二月廿八日二龍山砲台攻略援助  
 同十二月三十日松樹山砲台攻略同十二月廿六日ヨリ十二月廿一日ニ至ル椅子山探照燈  
 破壊射撃同卅七年十二月十三日ヨリ卅八年一月一日寺兒溝北方高地リヨ太陽溝及椅子  
 山椅子山諸砲台制壓射撃同卅八年一月一日第七師團後三羊頭村南方高地攻略援助全一  
 月二日旅順閉城全年一月廿二日北進ノタメ旅順出發全二月十一日奉天府北敵嚴ニ着全  
 二月廿五日奉天總攻撃迂回運動ニ移ル同三月二日ヨリ全三日ニ至ル沙嶺堡ノ戰鬪拉木

家附近ノ戰鬪同三月五日八家子附近ノ戰鬪同六月高家屯附近ノ戰鬪同月七日五台子附  
 近ノ戰鬪弓匠屯附近ノ攻略同月八日ウシガンツン附近ノ攻略田義屯附近戰鬪同月八日  
 ヨリ同月十日ニ至ル三台子ノ攻略及田義屯附近ノ戰鬪同九月十六日林戰實施同十月十  
 六日平和克復同三十九十一月十六日清國大連出帆同一月廿六日宇品港歸着同二月二日  
 國府台ニ凱旋ス殘務整理ノタメ二十一日間殘留三十九年三月二十一日解散返歸出征ノ  
 職務大行李長武器掛中隊段列長出征中兼任砲兵軍曹  
 ◎戰功ニヨリ金鷄勳章白色桐葉章年金百圓ヲ下賜セララル

陸軍看護手勲八等

竹中民太郎

明治三十七年八月十日野戰砲兵第十六聯隊補充中隊ニ入隊全十二月一日大隊編成ニ付  
 第二中隊ニ編入明治三十八年二月十日陸軍看護手ニ拜命全年二月十一日野戰砲兵第一  
 聯隊ニ轉隊全月十四日出征ノ爲メ屯營出發同月廿日宇品港出帆同廿四日清國柳樹屯ニ  
 上陸三月五日野戰砲兵第一聯隊本部ニ編入全年三月八日九日十日奉天包圍攻撃拉木河  
 田義屯附近ノ戰鬪ニ參加明治卅八年五月廿三日第五中隊附明治三十九年一月十七日清  
 國法庫門北方小三家子ヲ出發全月二十日鐵嶺乘車漁車行三日間一月十三日大連乘船全  
 月廿六日宇品港上陸全年二月三日本營歸着明治三十九年二月十一日役員解散ス

◎勲勞ニ依リ瑞寶章及百八十圓下賜セララル

加藤多賀次郎

明治三十八年八月二日勳員令第十五師團彈藥大隊第一歩兵隊列へ編入八月八日習志野原へ出張九月三日全地出發同月十日宇品港出帆全十五日清國大連上陸全月十八日同地出發全十九日遼陽着同二十日八卦溝着同月二十日一等卒申付ク十月廿四日八卦溝出發同日遼陽着同月廿六日全地出發全月二十七日大連着十一月五日同地出帆全月十日兵庫上陸全月十六日全地出發同月十七日屯營着同月廿四日解散飯郷

陸軍砲兵一等卒

寺澤峻逸

明治三十八年四月召集令ニ接シ輜重大隊へ入隊ス在本隊ニケ月餘六月出征ノ令下シ全月二十二日大隊ヲ出發横濱ニ着シ同二十七日江都丸ニ乗船シ三十日午前九時青森港ニ着シ同七月二日全港ヲ出帆シテ全月十日午前八時薩哈連島ホロアントマリ上陸全十日ヨリ十六日迄輸送勤務ニ服ス全十七日同港出發シテ北海道小樽沖ニ廿日午前集合ス此ニ於テ第七師團ト合シテ廿一日全港出發二十五日樺太北部アルコハニ着シ二十七日アレキサンドロフスキ―上陸シ市街占領ノ戦役ニ参加ス全廿八日ヨリ九月十三日迄勤務

ス樺太全ク平定シ十四日飯國ノ命下シ十五日アレキサンドロフスキ―出帆ノ途ニ就ク十八日青森着廿四日黄昏神戸和田岬へ上陸シ全二十五日ヨリ三十九年一月廿八日マア和田岬臨時陸軍檢疫所ニ於テ檢疫作業ニ従事ス全年二月四日解隊ノ命ニ接シ六日同地ヲ發シテ八日東京輜重大隊着全九日役員下令十日歸郷ヲ命セララル

陸軍輜重輸卒勲八等

佐々木伊之助

明治三十七年三月六日充員召集令ニ接シ四月二十二日午前二時宇品港出帆全年五月六日清國盛京省大沙河ノ南方根兒石ニ上陸全月十六日十三里台ノ戦闘ニ參與同月廿六日金州南山ニ於テ戦闘是ヨリ各所ノ戦闘ニ従事シ同三十八年三月二日三日沙嶺堡ニ於テ戦争全年三月八日九日十日奉天府三台子ニ於テ戦闘同二十日法庫門西南方約二里大房身附近ニ於テ戦闘明治卅九年一月廿二日大連港出帆全二十六日宇品港上陸全廿九日役員下令二月八日召集解除

◎戦功ニヨリ白色桐葉章及金二百圓ヲ下賜セララル

補充兵陸軍輜重兵一等卒

秋田廣右衛門

明治卅八年二月十四日補充召集トシテ近衛輜重兵大隊補充隊へ編入全年七月十六日歸

派演習トシテ神奈川縣久良岐郡富岡村エ出張全月二十五日阪隊ス同日ヨリ其大尉ノ從卒ヲ命セラル全年十二月十九日一等卒申付ラル同二十六日召集解除  
◎戰役功勞ニヨリ金五十圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒組長

山田清總

明治卅八年四月七日第一師團輜重兵第一大隊補充隊へ召集全日第二十一号補助輸卒隊へ編入同年六月廿三日東京出發横濱ニ至ル三十日青森港着七月九日薩哈連島ホロアンナマリ上陸同十日ヨリ十六日迄揚陸及輸送勤務同十七日大泊港出帆二十日小樽沖集合同二十一日出帆二十五日アルコワ港着揚陸勤務二十六日アレキサンドロフ港揚陸勤務二十七日上陸全二十八日ヨリ九月十三日迄揚陸及輸送勤務ニ服シ十五日樺太島アレキサンドロフ港出帆十八日青森港着十九日青森港出帆二十四日神戸港和田岬着上陸明治三十八年九月二十四日ヨリ三十九年一月廿八日迄和田岬臨時陸軍檢疫所ニ於テ檢疫作業ニ從事全年二月四日和田出發同月六日東京着同月四日復員下令同年二月十日阪隊

陸軍歩兵

安藤千代作

明治卅八年二月廿一日補充召集トシテ歩兵第十五聯隊補充大隊第一中隊へ編入同年三

月二十九日第二中隊へ編入全年四月二十日票的庫監視ヲ命セラル同年八月七日第七中隊へ編入同日ヨリ被服庫監視ヲ命セラル同年九月廿一日二泊行軍トシテ群馬縣新田郡太田町同縣山田郡桐生町地方へ出張同二十三日阪隊ス同年十月廿三日召集解除

陸軍砲兵一等卒

三石平四郎

明治卅七年十一月二十四日勳員下令木山砲台へ編入同年十二月十一日石人頭砲台へ編入機關砲第一砲舎ノ二番砲手トナル全日要塞司令部へ兵器取扱ヒノ爲メ出張某日晝夜非常ナル降雨ヲモ不屈土工作業ニ從事ス明治三十八年四月十五日八尺門砲台へ編入第一知久司令部傳令ヲ命セラル全年七月七日戒嚴令解止全年九月十一日木山砲壘へ編入全三十日原隊歸還ヲ命セラル十一月十一日基隆出帆同十六日神戸上陸同日同所出發全十八日原隊返着全日八中隊へ編入同十六日平和義復同十八日東京灣要塞警急配備撤去現役延期ノ處十一月一日現役満期退營ス

陸軍砲兵二等卒

三石實四郎

明治卅八年四月十四日補充召集トシテ野戰砲兵第十七聯隊補充大隊第二中隊へ編入同年六月七日射擊演習ノ爲メ千葉縣下志津原へ出張全十六日阪隊同八月廿八日ヨリ三泊

行軍トシテ佐倉東金千葉地方エ出張全卅一日飯隊明治三十八年九月廿三日千葉縣國府  
台東練兵場射撃ニ於テ奉銃擊施行ス明治卅九年二月二十七日役員ニ付召集解除

豫備陸軍輜重輪卒勲八等

堀竹安太郎

明治卅五年十二月應召明治卅七年三月六日動員下令全九月現地出發同十二月第一師團  
歩兵第十五聯隊へ入營第一大隊小行李附ヲ命セラレ同二十日高崎屯營出發同二十二日  
廣島到着當地ニ滞在スル事月餘同年四月廿二日征露軍第二軍トシテ廣島出發宇品港ニ  
テ乘船出帆船中ニ在ル事十四日間ニシテ五月五日清國大沙河ロニ上陸其レヨリ或ハ進  
ミ或ハ滞在同十六日十三里台戰闘ニ參與全廿六日命州及南山戰闘ニ參與是レヨリ旅順  
包圍軍ニ屬スベキ命下リ全年六月六日撰拔セラレ聯隊本部附ヲ命セラル同七月廿六日  
七八ノ三日間ニ亘ル双台溝附近ノ戰闘ニ參與同月三十日泥河子附近ノ戰闘ニ參與八月  
十三日四五ノ三日間ニ亘ル碾盤溝附近ノ戰闘ニ參與九月十八日ヨリ廿二日ニ亘ル太平  
溝東南方約千五百米突標高二百〇三高地ノ戰闘ニ參與十一月二十八日ヨリ十二月六日  
ニ亘ル太平溝東南二百〇三高地ノ戰闘ニ參與明治卅八年一月廿二日ヲ以テ更ニ北進スベ  
キ命傳ハリ行軍スル事百數十餘里同年三月廿三日涉嶺堡戰闘ニ參與四月八九ノ三日  
間奉天戰ナル三台子附近ノ戰闘ニ參與九月十六日法庫門北方約一里ナル孟家窩棚ニ於

テ休戰命令下ル十月十六日同地ニ於テ平和克復明治三十九年一月十六日孟家窩棚出發  
凱旋就途全月二十日鐵嶺乘車同月廿二日大連港ニ於テ乘船出帆同月廿五日本國宇品港  
上陸シ廣島ニ於テ五日間滞在全月廿九日役員令下リ全月廣島發二月一日群馬縣高崎屯  
營着同月六日附ヲ以テ善行行証書ヲ下賜セラレ同月八日召集解除隊ノ下命アリ同月  
十二日歸郷セリ

◎戰功ニヨリ白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍近衛輜重輪卒勲八等

秋廣鹿太郎

明治卅七年十二月一日徵兵トシテ東京近衛輜重兵大隊補充隊へ入隊明治卅八年二月三  
日千葉縣下志津原邊へ六宿連合演習ニ出張歸營スルヤ同月十三日補充トシテ東京出發  
同月十六日宇品港出帆同月二十六日清國柳樹屯へ上陸其レヨリ連日行軍ニテ三月七日  
遼陽城ニ着ス同八日瀋陽行軍ヲ以テ灰坑ニ着シ尚其ヨリ從走夜行軍ヲ續ケ三月九日午  
前四時上柳家子近衛師團第二糧食縱列第四小隊第十五分隊へ編入全日ヨリ奉天附近ノ  
會戰ニ參與ス時敵軍退去ヲ始メ追撃ヲ續行シツ、同月十四日小隊中豫備卒彭家樓ヨリ  
回站迄捕虜ノ護送ヲ命セラレ予モ其一部ニ入り來リシニ其途回站西北ノ高地ヲ通過ノ  
際敵六名自ラ武器ヲ投シテ來リ降りテ捕虜タランヲ乞フ者ノ如シ依テ是モ回站迄送

レリ尚ホ十五六日迎撃輸送ヲナス同十七日鐵嶺ヨリ南方三里ノ地點迄輸送セシガ吾ガ  
 隊ハ四站ニ下リテ連日滞在シ同年四月三日近衛師團第二機關砲隊ハ分遣全四月廿九日  
 營隊ハ第三機關砲隊ト改稱七月二十五日第四機關砲隊ト改稱當時迄分遣ノ處全月廿五  
 日編成完結ニ付キ當隊ハ編入是迄所々轉戦セシガ同年十一月十八日滞在地開原西南約  
 一里半北花樓出發全日鐵嶺大溝へ着十一月廿一日鐵嶺出發同廿三日大連着廿五日大連  
 出發廿九日宇品港上陸十二月三日廣島出發全六日東京歸着全八日役員下令十二月十九  
 日召集解除

◎戰功ニヨリ白色桐葉章及金七拾圓ヲ下賜セラル

陸軍砲兵一等卒

安藤長吉

明治卅八年七月二十日動員下令野戰砲兵第二十二聯隊聯隊段列へ編入全年八月十日屯  
 營出發同廿四日大連上陸當地滞在同月二十六日大連發廿八日鐵嶺着全日石水頭着滞在  
 十月十二日當地發全月十三日遼陽着全十四日徐家屯着宿營明治三十九年三月二十日徐  
 家屯出發同廿五日大連出帆同廿九日宇品港上陸同年四月四日國府台衛戍地へ歸着同七  
 日解散同日召集解除

◎戰勞ニ依リ金五拾圓ヲ下賜セラル

陸軍野戰砲兵勲七等

龍口金治郎

明治三十一年十二月一日野戰砲兵第一聯隊へ入隊全日第七中隊へ編入卅二年二月廿六  
 日行軍トシテ神奈川縣地方へ出張同月廿八日歸着同六月十八日出發千葉縣習志野原ニ  
 野外演習二十六日歸着全九月廿九日射擊演習トシテ茨城縣行方郡玉造町出張十月十九  
 日返着同十一月七日小機動演習トシテ千葉縣へ出張同廿二日返着同月廿四日野戰砲兵  
 第十六聯隊第三中隊へ編入換全月廿七日一等卒申付ラル明治卅三年五月廿九日野營演  
 習トシテ千葉縣習志野原へ出張六月一日返着同七月十日清國公使館及居留民保護ノ爲  
 メ派遣ヲ被命同月十八日屯營出發全廿九日宇品港出帆八月三日清國太沽上陸全八月十  
 一日通州城ニ於テ戰闘全十四日北京城朝陽門外ニ於テ戰闘全十五日北京城內東安門外  
 ニ於テ戰闘同十月十二日太沽出帆全十六日宇品港上陸十月廿日凱旋全卅四年九月十五  
 日定期射擊演習トシテ千葉縣千葉郡橫橋村大字宇那舎へ出張十月四日返着十月卅一日  
 飯休除隊全十二月廿八日勲八等瑞寶章授賜セラル同卅五年五月十日從軍記章授賜セラ  
 ル全卅七年三月六日召集令收受ク全三月十六日野戰砲兵第十五聯隊第三中隊へ入營同  
 四月十四日屯營出發全十六日宇品港着全廿四日全所出帆五月十三日清國丁家屯上陸五  
 月廿六日金州ニ於テ戰闘六月十四日十五日得利寺ニ於テ戰闘七月九日蓋平ニ於テ戰闘



全廿四日大石橋ニ於テ戰闘八月一日海城附近ニ於テ戰闘八月廿日ヨリ九月三日ニ亘ル五日間遼陽附近ニ於テ戰闘全月全日全所ニ於テ激戰中負傷清國大房子附近戰闘ノ際砲彈ノ丸子左大腿部ヨリ貫接部(スネ)ニ至ル盲貫創ヲ負フ全日第十師團野戰病院へ入院全十月十七日遼陽病院轉院全卅一日ダフルニ一病院へ轉院十一月四日後送ノ爲メダフルニ一出發同九月廣島到着全廿一日東京澁谷分院入院全卅八年四月廿九日迄在院全月全日療養ノ爲飯郷同六月七日野戰砲兵第十五聯隊補充大隊第三中隊へ編入同六月卅日送丙第一〇六号第三項ニヨリ召集除解飯郷卅七年十二月廿八日東京豫備病院澁谷分院ニ於テ御下賜金貳圓

◎戰役勲功ニ因リ青色桐葉章及金百五拾圓ヲ下賜セラル

### 陸軍騎兵一等卒

### 寺澤春太郎

明治廿八年八月卅日充員召集後備騎兵中隊へ入隊全八日馬廠付キ全九日第一師團第三輜重監視隊へ編入同月廿七日廣島へ向ケ東京出發同廿九日廣島着十月十八日宇品港出帆全廿六日清國盛京省着花園口上陸十一月十九日花園口出帆廿一日大連灣上陸全日敵兵防禦トシテ秀家屯ニ出張後務廿八年一月一日柳樹屯ヲ發シ同五日揚家屯ニ着全所ニ運動同十五日石灣ニ嘴ニ運動又魂書房ニ運動二月廿三日蓋平ニ向テ前進全所ニテ運動

三月六日朱家甸子ニ前進運動三月十八日熊岳城ニ前進四月十四日二台子ニ前進運動四月十九日二台子發後州ニ後送五月廿日役州發趙家屯ニ到リ滯在中日清備和成り全廿七日朱家屯張家屯老爺廟ヲ通過六月十五日大連灣乘船十九日宇品港飯着全二十二日東京へ飯營後員ニ依リ召集解隊飯郷明治卅八年三月十七日充員召集騎兵第十五聯隊補充中隊へ編入三月廿五日第一師團補充馬廠へ配屬全年十月廿九日役員馬匹賣却ノタメ埼玉縣下へ出張十一月四日飯着全年十一月十二日召集解除飯郷

◎戰功ニ因リ金參拾五圓ヲ下賜セラル

### 陸軍補充兵一等卒勲八等

### 寺澤清八郎

明治卅七年十月二十一日臨時教育召集トシテ近衛歩兵第三聯隊補充大隊第二中隊へ編入全年十一月五日射擊及野外演習ノ爲メ千葉縣習志野原へ出張ス同年十二月五日飯營全月廿一日補充召集ニ轉シ同年十二月二十一日補充員トシテ野戰隊へ轉出ス全日東京出發十二月廿三日廣島着全月二十四日宇品港出帆全月廿七日ダフルニ一上陸明治卅八年一月二日近衛歩兵第三聯隊第二大隊第八中隊へ入隊同年二月二十八日兆千戸屯附近ニテ戰闘三月三日唐家屯附近ニテ戰闘全四日方足ノ骨ヲ挫折シ全五日候家屯第二野戰病院ニ收容全月八日遼陽兵站病院ニ轉送十二日大連兵站病院へ轉送全十四日全地出帆全

年三月十九日大阪阪着全日大阪患者宿泊所ニ收容三月廿一日東京豫備病院廣尾分院ニ  
 轉院四月十八日全治退院全日近衛歩兵第三聯隊補充大隊第四中隊へ編入三月十八日一  
 等卒申付ラル五月七日千葉縣習志野原へ出張全廿一日阪營六月一日還送中隊第一中隊  
 二轉入全年七月十一日近衛歩兵第三聯隊補充大隊第九中隊へ轉入全月廿三日志願歩兵  
 第五十九聯隊第二大隊ニ轉出全日第五中隊ニ編入全年八月一日千葉縣習志野原へ出張  
 全月廿三日阪京廿五日東京出發同月二十九日宇品港出帆全年九月二日大連上陸全四日  
 大連出發同月六日鐵嶺着同月十一日水家荒地着全十月二十一日韓國守備トシテ水家荒  
 地出發鐵嶺ヲ經テ同月二十二日大連着全廿三日同所出帆同二十四日仁川上陸全廿六日  
 開城着明治卅九年一月八日金州へ分遣全年三月十五日金州出發同十六日開城出發全月  
 廿一日仁川出帆同月廿五日宇品港上陸三月三十日近衛歩兵第三聯隊ニ編入四月十日召  
 集解除  
 日露戰役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

後備歩兵軍曹

宮下代治郎

明治三十八年三月廿三日出征軍補充トシテ東京出發同廿五日廣島着同二十六日宇品港  
 出帆同三十日清國柳樹屯へ上陸金州蕪蘭店蓋平海城遼陽ヲ經テ四月廿二日下河關屯ニ

着全日後備歩兵第一聯隊第二中隊へ編入五月五日出發九日永安堡移転六月九日出發後  
 四家堡ニ移転七月五日出發調兵山ニ移轉十一月七日出發鎮西堡五角堡ヲ經テ鐵嶺ニ於  
 テ乘車全十五日金州ニテ下車大房身宿營全十七日柳樹屯ニテ乘船全廿一日兵庫縣和田  
 岬ニ歸着全二十四日神戸驛ヨリ乘車同二十六日東京阪着十一月廿八日解散

近衛歩兵一等卒勲八等

龍口喜代松

明治卅七年十二月廿五日教育召集トシテ近衛歩兵第三聯隊補充大隊第七中隊入營明治  
 三十八年二月廿日野戰隊へ出發廿三日宇品港出帆全廿七日清國柳樹屯上陸行軍連日ニ  
 シテ奉天府ニ至リ奉天會戰追撃ノ本隊奉天東北方約三里ノ地ニ滞在シ此時近衛歩兵第  
 三聯隊第九中隊編入四月廿日鐵條網切斷ノ任務ヲ受ケ所々宿營地ノ移轉ヲ成シ七月廿  
 九日ヨリ中隊傳令及速 兵ヲ命セラレ鐵嶺西北方約十二里大灣屯村落ニ滞在シ嶺和ト  
 ナリ卅八年十一月七日大連出帆十二月一日宇品港上陸十二月七日屯營歸着同月十二日  
 召集解除  
 ◎戰功ニヨリ白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜サラル

陸軍工兵一等卒勲八等

城子和多治

明治廿七年九月廿三日臨時召集ニ應シ工兵第一大隊補充中隊へ入營同三十八年一月六日野戰隊へ補員トシテ屯營出發八日廣島着同十二日宇品港出帆十五日清國大連上陸廿五日工兵第一大隊第二中隊へ編入セラル二十六日ヨリ北進ノ途ニ就キ二月十六日小北河ニ到着ス二十一日ヨリ四日間後老薄附近ニテ渾河ノ軍橋架設ニ從事シ三月一日ヨリ奉天附近ノ戰鬪ニ參加ス同七日ヨリ十日迄田島屯附近ニ於テ戰鬪ス十八日ヨリ馬場支隊ニ加シ二十日ヨリ五日間後菓子園附近ニテ遼河ノ軍橋架設ニ從事ス四月廿二日ヨリ大平山附近ニ於テ防禦陣地ノ構成ニ從事シ五月十六日ヨリ九日間法庫門小塔子間ノ軍路構成ニ從事六月六日ヨリ十八日迄今軍路ノ補修工事ニ從事全二十日ヨリ八月十二日迄小塔子附近ニテ遼河ノ軍橋架設及三家子ニ至ル軍路構築ニ從事全十五日ヨリ中村支隊ニ加シ九月十五日迄六家子附近ニテ防禦陣地ノ構成ニ從事ス九月廿一日工兵一等卒申付ラル十月十六日平和克復ノ命下リ二十一日中村支隊解散ス卅九年一月十九日宿營地出發凱旋ノ途ニ就ク一月廿六日大連出發三十日宇品港上陸二月四日屯營歸着同月七日召集解除全十二日歸郷ス

◎戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

故陸軍歩兵一等卒勲八等

原 新 九 郎

明治卅一年三月一日第一補充兵トシテ歩兵第十五聯隊第九中隊へ入隊三十五年六月廿三日召集解除明治卅七年三月充員召集トシテ歩兵第十五聯隊補充隊第一中隊へ編入同十八日過員ニ付飯休待命全年八月卅一日補充召集トシテ歩兵第十五聯隊補充大隊第二中隊へ入隊明治卅七年九月十六日野戰隊補充トシテ高崎出發全月二十二日宇品港出帆青泥窪上陸廿八日第四中隊へ編入旅順包圍軍ニ加ハリ十二月五日太平溝東南方約千五百米突標高二百〇三高地ニ於テ戰鬪決死隊へ志願ス此戰鬪ニテ左手 二負傷ス同年十二月廿八日歩兵一等卒ニ昇進夫レヨリ北進シテ明治三十八年二月廿七八日阿司牛附近ニ於テ戰鬪三月二十三日砂嶺堡附近ニ於テ戰鬪同年三月八日ヨリ十日ニ亘ル奉天府三台子ニ於テ戰鬪各地ニ奪戰ス遺憾ナル哉全年五月八日疾病ニヨリ頭台子舎營病院へ入院漸次後送セラレ終ニ遼陽兵站病院ニ於テ五月廿四日死亡戰功ニヨリ勲八等ニ叙セラレ白色桐葉章ヲ給フ

陸軍輜重輸卒勲八等

大 洞 龜 作

明治卅五年十二月一日現役兵トシテ輜重兵第一大隊第一中隊へ入隊明治三十六年三月在營滿期ニ付除隊ス日露戰役ニ付明治卅七年五月二十日充員召集全日野戰騎兵第十六聯隊第四中隊へ編入同年八月十五日屯營出發同月二十二日宇品港出帆同月二十六日清

國柳樹屯上陸十月九日ヨリ十六日ニ亘ル沙河附近ノ大會戰ニ參與明治卅八年一月二十五日ヨリ廿九日ニ亘ル黑溝台附近ノ會戰ニ參與二月廿七日ヨリ三月十六日ニ亘ル奉天附近ノ會戰ニ參與四月四日金家屯附近ノ戰鬪ニ參加ス明治卅八年九月十六日平和克復明治卅九年二月二日大連灣出帆全月六日宇品港上陸全月十三日屯營歸着同月十六日復員ニヨリ召集解除

◎戰功ニヨリ勲八等白色桐葉章ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒勲八等

平澤新三郎

明治三十七年九月廿二日補充召集入營シ全十二月二十六日野戰隊補充ノタメ東京出發同月三十日宇品港出帆明治卅八年一月四日清國盛京省青泥窪へ上陸同月七日野戰歩兵第三聯隊第七中隊へ編入一月二十二日旅順ヲ出發シ二月十四日十六日迄柳樹屯ニテ戰鬪全月二日小石橋ニテ大戰鬪全二十七日大石橋附近ニテ戰鬪三月五日奉天北方三台子ニテ大戰全月九日負傷後送セラレテ四月一日大阪上陸同月四日東京病院へ入院同月十四日全治退院歩兵第三聯隊第一中隊へ編入五月十九日後備歩兵第一聯隊編入野戰補充トシテ同日屯營出發シ全月廿三日宇品港ヨリ乘船全月廿七日大連上陸同月三十日大連出發六月一日永安堡へ到着後備歩兵第一聯隊第六中隊編入全月九日全地出發後四家堡着

七月五日同地出發調兵山着十一月七日凱旋ノ爲メ出發シ十一月十四日鐵嶺ヨリ瀋陽ニテ出發シ同月十七日柳樹屯出發廿一日兵庫縣和田岬ニ上陸二十三日全所出發廿五日東京へ着役隊十一月廿八日解散

陸軍輜重兵曹長

福岡代五郎

明明卅七年三月六日動員全十二日輜重兵第一大隊へ應召即日補充隊附キヲ命セラル全二十日上等兵候補者附同年九月一日軍曹拜命同十六日補充員輸送ノ任ヲ負ヒ廣島ニ向テ鐵道輸送全廿二日宇品港出帆同二十六日青泥窪へ上陸同二十七日鞍山站ニ向テ鐵道輸送回二十八日沙河鎮ニ到ル同廿九日遼陽ニ到ル全三十日墳上第一軍司令部ニ至ル同日遼陽へ歸着全十月一日大安平ニ到ル同二日黃泥崗ニ到ル同三日胡永站ニ着任務終了全四日大安平ニ到ル全五日遼陽ニ到ル全六日滯在全七日青泥窪ニ向テ鐵道輸送全八日青泥窪出帆同十二日門司港へ上陸全日下ノ関ヨリ廣島ニ向テ鐵道輸送全二十六日飯還者引卒ノ任ヲ帶ヒ東京ニ向テ鐵道輸送全廿八日日本隊へ返着同年十一月一日糧食委員助手ヲ命ゼラル卅九年一月二十四日曹長拜命二月十日第一師團役員下命全十四日召集解除明治卅七年十一月ヨリ同卅九年二月迄十六ヶ月間一ツノ欠点ナク事務ニ精勵シタル功ニヨリ銀側時計一個ヲ中隊長殿ヨリ下賜

陸軍砲兵伍長

熊谷 欽一

陸軍歩兵一等卒勲八等

熊谷 彌市

氏八日露戦役ノ戦功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セララル

陸軍持務曹長勲七等

石 神 嚴 根

氏八日露戦役ノ功ニヨリ勲七等青色桐葉章ヲ下賜セララル

陸軍二等卒勲八等

寺 澤 範 次

氏八日露戦役ノ戦功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セララル

陸軍歩兵勲八等

小 平 峯 三

氏八日露戦役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セララル

陸軍軍曹勲八等

佐々木 作 藏

氏八日露戦役ノ戦功ニヨリ勲八等旭日章及金二百圓ヲ下賜セララル

陸軍一等卒勲八等

寺 澤 豊 治

氏八日露戦役ノ戦功ニヨリ勲八等旭日章及金二百圓ヲ下賜セララル

陸軍一等卒勲八等

宮 下 誠 一

氏八日露戦役ノ戦功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セララル

陸軍輜重輪卒勲八等

山 平 誠 三

氏八日露戦役ノ戦功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金二百圓ヲ下賜セララル

陸軍歩兵二等卒勲八等

小 平 義 男

氏八日露戦役ノ戦功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セララル

陸軍上等兵勲八等

飯 島 島 藏

氏ハ日露戦役ノ功勞ニ依リ勲八等瑞寶章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒勲八等 官島福太良

氏ハ日露戦役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒勲八等 原今朝十

氏ハ明治卅八年二月十六日騎兵第十六聯隊ニ入營シ同日第一師團第十九補助輸卒隊ニ編入セラレ二月廿六日津田沼ヲ出發シ三月八日清國盛京省柳樹屯ニ上陸シ前進シテ各司令部ヲ經九月七日八家子ニ着シ轄ヲ滞在ス十月十六日平和克復ニヨリ十一月廿四日近衛第四兵站司令官ノ指揮ヲ脱シ全日八家子ヲ出發ス明治卅九年三月六日除隊歸郷ス  
◎日露戦功ニヨリ勲八等瑞寶章及金七拾圓ヲ下賜セラル

陸軍看護手勲七等 佐々木良策

◎戦功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金百五拾圓ヲ下賜セラル

河野村部

陸軍砲兵上等兵功七級勲八等 市澤由太郎

氏ハ明治卅五年十二月十五日近衛野戦砲兵聯隊第三中隊ニ編入シ同卅七年二月五日勲員下命第一軍トシテ野戦ニ編成セラレ同卅七年三月十四日宇品港ヲ出帆全月廿九日韓國鎮南浦ニ上陸シ全年四月廿六日義北端ノ戦闘ニ參與ス此戦ハ日本日軍ノ砲兵戦闘始ノ初會戦ナリ全年五月一日元化洞及虎山戦闘ニ參與ス同年六月六日當時近衛歩兵第一旅團長タリシ淺少將ノ卒ユル支隊ニ加ハリ砲隊ノ手前ニテ第十師團ト合シ同月八日岫巖戦闘ニ參加シ此戦ヤ猛烈ナル大激戦ニシテ未明ヨリ九時ニ至ル四時間ニ亘リ非常ナル苦戦ヲナシ遂ニ敵ヲ撃退ス第一大隊近衛砲兵八十師團ヨリ感狀ヲ賜ル其レヨリ支隊ノ編成ヲ辭カレ本隊ニ返リ七月卅一日マリウメンサ戦闘ニ參加シ同八月二十三日ヨリ九月五日ニ至ル貨老溝下橋宅東新登高峯寺四方台ヤシユウ虎頭岸附近ノ戦闘ニ參與ス同年十月十日ヨリ十九日ニ至ル花手堡、下花手、老若谷、沙河會戰及歪頭山等ノ攻撃ニ參與ス全年十一月一日上等兵ニ昇進ス全月廿四日十二月十二日姚千古宅攻撃ニ參與ス明治卅八年二月二十五日ヨリ三月十五日ニ至ル前哨山、邊幕子谷、上橋子、潘家台、奉天附近ノ戦闘ニ參與ス全年三月十六日ヨリ十八日ニ至ル鐵嶺戦闘ニ參與ス全

年六月廿九日撰校照準手ヲ命ゼラル同年七月廿八日近衛野戰砲兵聯隊ノ競点照準ニヨリ第一等賞ヲ賜リ賞品トシテ銀側時計ヲ賜ハル同年十一月廿八日大連港ヲ出帆同年十二月一日守品ニ上陸シ全月八日品川停車場ニ着ス當日兵營ニ坂着シ全月廿二日現役満期ニ付キ除隊ス

◎日露戰役ノ殊勲ニ因リ命賜勲章白色桐葉章及年金百圓ヲ下賜セラル

陸軍騎兵上等兵功七級勲八等

松村友定

明治卅五年十二月一日騎兵第十六聯隊第一中隊ニ編入シ同卅六年十二月一日上等兵申付ラル同卅七年五月十四日動員下命全年八月十五日習志野砲營ヲ出發シ征露第二軍ニ徵レ全月廿日守品出帆全月廿四日柳樹屯ニ上陸六月廿六日奉集堡附近聯隊ノ偵察戰ニ參加シ全年十月九日ヨリ十六日ニ亘ル沙河附近ノ會戰ニ參加ス殊ニ二十二日日本溪湖附近ノ激戰ニ參與セリ此際我旅團ニ滿州總司令官ヨリ感狀ヲ附與セラル明治卅八年一月廿五日ヨリ廿九日ニ亘ル連溝台附近ノ會戰ニ參加最モ惡戰ヲ極メタリ后廿五日吳家崗子ノ戰鬪ニ參加シ全二月廿七日三月十六日ニ至ル奉天附近ノ會戰ニ參加ス同戰鬪中最モ激烈ナリシハ大戻身附近ノ戰鬪ナリ此戰鬪終ルヤ我旅團ハ軍司令官ヨリ感狀ヲ附與セラル同三月廿三日ヨリ廿八日迄樽本少佐ノ卒ニ進撃隊ニ屬シ大窪八面城附近ノ敵情

搜索ニ參與ス同四月三日四日ノ兩日金家屯附近ノ戰鬪ニ參與シ同四月十五日十六日又十八日廿三日ニ至ル我右翼ニ南下シタル敵騎兵集團ニ對スル旅團搜索ニ參與ス全六月十五、十六日ニ亘ル遼陽高棚ノ戰鬪ニ參與ス全八月廿八日ヨリ卅一日ニ至ル蒙下伯王府附近ノ戰鬪ニ參與ス戰線ニ出シヨリ休戰ニ至ル迄以上廿四回ノ戰鬪ニ從事シ二十九回ノ前哨勤務ニ服シ七十五回ノ斥候ニ從事ス然シテ卅九年二月一日大連港出帆五日守品上陸十二日習志野砲營坂着全十五日滿期除隊

◎日露戰役ノ殊勲ニ因リ功七級命賜勲章白色桐葉章及年金百圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵軍曹勲七等

市瀬岩衛

氏ハ從順ニシテ英傑ノ氣アリ徵兵検査ノ結果歩兵隊ニ入隊シ一躍軍曹ニ昇進シ日露戰宣ノ大詔勅下ルヤ平素ノ志望全ウスベキ好機ナリト欣喜勇躍シ砲營ヲ發シ急行ノ列車ニ白龍ヲ飛バシ軍港ヲ出帆シ波高キ玄海灘ニ波濤ヲ破リ白雲ヲ蹴立テ傑作敵地ニ上陸シ各所ニ轉戰シ強敵ヲシテ防微ノ一手段ナカラシメ其功偉大ナリトス

◎日露戰役ノ勲功ニ因リ勲七等青色桐葉章及命貳百五拾圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輪卒勲八等

丸岡恭一郎

明治十四年六月五日生

氏ハ明治卅七年二月十五日充員召集、爲メ近衛歩兵第三聯隊入隊全日第八中隊へ編全  
 年二月廿二日出征ノ爲東京出發全二月十四日廣島へ着全三月十五日宇品港出帆同廿日  
 鎮南浦ニ上陸五月一日馬溝久蛤蟻塘附近ノ戰闘ニ參與全年七月廿一日藤子嶺附近ノ戰闘  
 ニ參與同年八月廿四日同廿六日浪子山附近ノ戰闘ニ參與同年八月廿八日同廿九日遠陽附近  
 ノ戰闘ニ參與全年九月十四日脚氣一等症シテヨツイ合營病院へ入院シ是ヨリ各病院ヲ  
 經テ十月廿三日東京豫備病院へ轉送十一月四日召解送入院近衛歩兵第三聯隊補充大隊  
 ◎戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒勲八等

唐澤佐吉

氏ハ明治卅八年二月十四日應召同日臨時兵站電信隊編入全月十八日東京出發全月廿日宇品  
 着全月廿一日出帆同月廿五日清國柳樹屯上陸三月二日出發金州皮子窩ヲ經テ全月十四  
 日鳳凰城着全月十六日出發賽馬集ヲ經テ三月廿日域廠到着全月廿五日域廠出發馬園子  
 附近ノ電信修繕作業ニ從事ス全年四月六日域廠歸着同五月三日域廠出發大壹筆溝附近  
 ノ架設ニ從事ス全月十一日域廠歸着全五月十三日域廠出發全十六日永陵着全年五月廿  
 七日出發同日興京着五月廿九日出發興京石城間架設ニ從事同年六月六日ヨリ古城通過  
 ノ間電信架設ニ從事全月十五日興京歸着九月十六日神野建築部配屬全年十月十三日ヨ  
 リ十八日迄永陵大壹筆溝ノ間半永久綠撤設ニ從事十月廿八日ヨリ卅日迄福陵シンセイ  
 シ古城子ノ間架設ニ從事十一月二日玉官屯着卅九年二月十七日西奉天各部並ニ玉官屯  
 ニ至ル軍用綠撤設ニ從事卅九年二月廿一日玉官屯出發全月廿五日大連出帆三月一日宇  
 品上陸全月七日東京凱旋同月十五日解散  
 ◎戰功ニ依リ勲八等瑞寶章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒勲八等

久保田太郎吉

氏ハ明治卅七年二月十五日充員召集、爲メ近衛歩兵第三聯隊入隊全日第八中隊へ編全  
 年二月廿二日出征ノ爲東京出發全二月十四日廣島へ着全三月十五日宇品港出帆同廿日  
 鎮南浦ニ上陸五月一日馬溝久蛤蟻塘附近ノ戰闘ニ參與全年七月廿一日藤子嶺附近ノ戰闘  
 ニ參與同年八月廿四日同廿六日浪子山附近ノ戰闘ニ參與同年八月廿八日同廿九日遠陽附近  
 ノ戰闘ニ參與全年九月十四日脚氣一等症シテヨツイ合營病院へ入院シ是ヨリ各病院ヲ  
 經テ十月廿三日東京豫備病院へ轉送十一月四日召解送入院近衛歩兵第三聯隊補充大隊  
 ◎戰功ニ依リ勲八等瑞寶章及金八拾圓ヲ下賜セラル



故野戦砲兵一等卒功七級勲八等 河野 唯男

右ハ第一補充ニテ明治卅五年四月一日教育召集トシテ野戦砲兵第十六聯隊第三中隊へ入隊全年六月三十日教育召集結ニ付解隊今日露戰役開始スルヤ召集ニ應ジ第十六聯隊補充大隊へ入隊全年七月廿六日宇品港出帆同卅一日清國青泥窪上陸八月十四日十五日兩日小東溝方面ニ於テ戰闘ナシ全十九日ヨリ卅八年一月二日迄テ旅順本攻撃ニ參加明治卅七年十二月十七日一等卒申付ラル卅八年二月一日病氣ノ爲一等症ニ入院四月十三日東京豫備病院澁谷分院ニ於テ病死

○今回戰役ノ功ニ依リ勲八等白色桐葉章功七級金鷄勲章並ニ年金百圓御沙汰書一通明治卅八年四月十三日下賜

陸軍輜重輪卒勲七等 代田 浪太郎

明治卅七年五月廿日野戦砲兵へ充員召集第十六聯隊本部へ編入七月十九日出征ノタメ國府台出發シ空ニ龍ヲ飛バシ七月廿五日廣島ニ着ス七月廿六日宇品港出帆七月卅一日青泥窪港上陸八月十四日十五日兩泥河子南方高地ニ於テ小東溝附近第一師團攻撃戰闘ニ參與八月十九日ヨリ卅八年一月二日迄李家屯北方高地ニ於テ旅順要塞攻撃戰闘ニ參與

與卅八年一月十八日北進ノタメ李家屯出發二月一日遼陽着三月三日ヨリ奉天大會戰三月廿七日急性肺炎ニテ道義屯兵站病院ニ入院四月十一日奉天兵站病院ニ後送同月十八日遼陽兵站病院後送全年同月廿一日大連兵站病院後送同月廿二日大連出帆全月廿五日宇品港ニ上陸全日廣島豫備病院ニ入院同年五月二日東京豫備病院氷川分院へ轉送五月廿四日退院全日ヨリ歸郷療養全年九月十日野戦砲兵第十六聯隊補充大隊へ歸隊全日第一中隊へ編入同年十月廿四日過員ニヨリ召集解除

◎戰功ニ依リ勲七等青色桐葉章及金百五拾圓ヲ下賜セラル

后備歩兵上等兵勲八等 尾畑 鹿太郎

氏ハ明治卅七年三月十二日充員召集トシテ歩兵第十五聯隊補充大隊第三中隊編入同年六月一日野戦隊補充トシテ高崎出發全月四日廣島着同月六日宇品港出帆全月九日清國盛京省張家屯上陸同月十三日第十中隊編入全年七月廿六日前收城馬廿七日營城子廿八日金龍寺溝及双台溝ニ轉戰卅日泥河子ニ於テ戰闘脚氣症ニ罹リ八月十三日第二野戦病院ニ入院十月十二日東京澁谷分院ヨリ召集解除明治卅八年五月十日補充召集ニ應シ歩兵第十五聯隊補充大隊第三中隊編入同年六月廿一日后備歩兵第四十九聯隊補充トシテ高崎出發全月廿三日廣島着同月廿六日宇品港ヨリ乗船全月廿九日清國タルニ上陸金州普蘭店

蓋平海城遼陽奉天ヲ經テ后備歩兵第四十九聯隊へ編入七月十日小二道房ヲ發シ三面濠ニ着全地附近守備ノ任務ニ服ス十月九日聯隊加シ馬貝堡附近ニ宿營十月三十一日大臺宿營十一月一日鐵嶺ニ着全三日鐵嶺出發同四日大連着同十二日大連乘船同十六日宇品港上陸同十八日廣島出發全廿日東京歸着全月廿四日役員解除  
 ◎戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セララル

故陸軍歩兵伍長勲八等

竹村 松男

氏ハ倍濃國下伊那郡河野村竹村廣雄氏ノ養子ニシテ明治十年二月十日生田村筒井重五郎ノ家ニ生ル實ニ其第二子ナリ性深著ニシテ文學ヲ好ミ嶄然頭角ヲ見シ長ジテ能ク家業ヲ理メ三餘ヲ得レハ歴史文章經書詩歌ヲ嶽翁竹洲ニ學詩歌集家ニ藏ム明治三十年十二月徵ニ應シテ兵役ニ服シ奉職最モ謹勉各地ノ演習ニ從ヒ射手徽章ヲ授ケラレ官類ニ其勲功ヲ賞ス明治三十二年十月上等兵ヲ以テ飯休除隊ヲ命セラレ明治卅七月二日露交戰ノ詔勅ノ下ルヤ奮起シテ補充大隊ニ入り新兵教育掛リヲ勤メ同年九月一日宇品港出帆全五日青泥窪上陸我軍旅順ヲ圍ムニ方リ野戰一師團歩兵第三聯隊第十中隊ニ參加シ清國水師營附近ノ地ニ轉戰シ累々偉功ヲ奏ス十月八日功ヲ以テ歩兵伍長ニ任セラレ進テ二〇三高地ヲ攻ルニ方リ氏モ亦從テ軍ニ在リ官功ヲ録シテ勲八等ニ叙セラレ白

色桐葉章ヲ授ケ賜フ實ニ十一月十八日サリ會々癘癘ノ肩ス所トナリ藥石功ナク可惜英志ヲ齎シ溢馬トシテ野戰病院ニ没ス三十八年二月廿二日舉村禮ヲ以テ道骨ヲ塋ニ葬ル官爲メニ金貳拾參圓賜ヒテ吊祭ヲ資ケリ全卅三月廿二日戰功ヲ録シテ特ニ命參百拾圓ヲ下シ賜フ

陸軍輜重輸卒勲八等

唐澤 民男

明治卅七年十二月五日動員下令輜重兵補充中隊へ編入全四月十七日騎兵第十三聯隊へ充員召集全日第一中隊へ編入全年四月廿九日屯營出發全年五月十八日宇品出帆今五月廿二日張家屯へ上陸同月卅日曲家店附近戰鬪參與今年六月三日曲家店附近戰鬪參與全年六月十四日十五日得利寺附近戰鬪參與全年七月七日八日九日蓋平附近戰鬪參與全年七月廿四日廿五日大石橋附近今戰鬪參與全年八月一日海城附近戰鬪參與全年自八月至廿六日廿八日鞍山店附近戰鬪參與同年自八月卅日至九月四日遼陽附近戰鬪參與同年自十月十日至十六日沙河附近戰鬪參與明年一月廿五日ヨリ同廿八日迄黑溝台附近戰鬪參與同二月十八日ヨリ至三月十日奉天附近戰鬪參與同年自三月十一日至十九日鐵嶺及開原附近戰鬪參與明治卅八年自四月三日至八日鴛鴦樹附近戰鬪參與全年六月十六日遼陽高棚附近襲偵察ニ參與明治卅九年一月卅日大連出帆同年二月二日宇品上陸全年二月

九日屯營着同年二月九日役員下令敘賜  
◎戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓賜ハル

陸軍砲兵輸卒勲八等

大藏浦治郎

氏ハ明治卅六年十二月一日ヲ以テ東京府下荏原郡世田ヶ谷近衛野戰砲兵聯隊へ入營練  
磨ノ后出征命令下リ明治卅七年二月十九日東京ヲ出發廣島ニ至リ全年三月十三日宇品  
港出發同月十八日韓國鎮南浦へ上陸其後五月一日ヨリ戰闘ニ參與ス六月八日岫巖戰闘  
ニ參加七月卅日様子嶺同年十月十一日ヨリ十四日ニ至ル沙河會戰參與明治卅八年一月  
廿八日團子山ノ威赫射撃ニ參與全年二月廿四日ヨリ三月十四日ニ亘ル奉天ノ會戰ニ參  
與全年五月十六日鐵嶺攻撃ニ參與全年十一月十九日老虎頭放退全月廿四日大連港出  
帆全月廿八日宇品港上陸同年十二月二日屯營着全月廿二日召集解除  
◎戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラレ

陸軍輜重兵軍曹勲八等

春日文太郎

氏ハ明治卅六年十二月一日近衛輜重兵大隊第二中隊へ入營全卅七年二月五日勲旨下令  
全月六日補充中隊付トナル全年二月八日麻布區祥雲寺ニ分遣全月廿九日飯隊又同年六

月上旬等兵候補者ヲ申付ラル全年全月全日輸卒係リヲ命セラレ全年十二月一日入隊新兵  
教育助教ヲ命セラレ同  
卅八年三月廿日上等兵  
候補者教育助教ヲ命セ  
ラル同年三月卅一日任  
陸軍輜重兵伍長明治卅  
八年七月十五日入隊士  
官候補生教育助教ヲ命  
セラレ同年九月十四日  
任陸軍輜重兵軍曹同年  
◎勤勞ニ依リ勲八等瑞寶章及金七拾圓ヲ下賜セラレ



春日文太郎君

十月士官候補生兼清  
國留學生教育助教ヲ  
命セラレ同年十一月  
廿五日留守近衛師團  
附ヲ免ズ陸軍士官學  
校ヲ附キヲ命セラレ  
同十二月五日劍術助  
教命セラレ

陸軍歩兵一等卒勲八等

毛涯今朝太郎

氏ハ卅七年三月十二日充員召集ニ應ジ歩兵第十五聯隊第三中隊編入同三月十九日滿洲  
出戰目的ノ爲メ高崎ヲ出發全年五月七日清國盛京省大沙河ロへ上陸全五月十五日十三  
里台附近ニ於テ戰闘全五月廿六日南山附近ニ於テ戰闘七月廿六日前敵城馬附近ニ於テ

戰闘全廿七日討而溝ハ八日羽右溝卅日泥河子附近ニ於テ戰闘同八月十三日十四日十五日碾盤溝附近ニ於テ戰闘全八月廿四日二重山附近ニ於テ負傷全第九師團第三野戰病院へ入院全年九月三日大連出帆各地ノ病舎ヲ經同年十月三日大阪上陸大阪豫備病院基地患者宿泊所收容是ヨリ澁谷熱海水川ヲ轉院シ全年十月十五日坂郷療養ヲ許サル同年十一月四日歩兵第十五聯隊補充大隊第一中隊ニ編入同十一月十二日召集解除

◎戰功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セララル

陸軍歩兵上等兵勲八等

寺澤豐太郎



寺澤豐太郎君

明治卅一年歩兵第十五聯隊へ入隊卅三年十月臺灣守備命セララル卅四年九月十七日第二種射擊徽章下賜卅七年二月充員召集近衛歩兵第三聯隊ニ入隊卅八年三月一日姚千古屯ニ戰闘三月三日ヨリ七日二亘ル唐家屯北方高地ニ戰闘三月八日大玉堂塞ニ戰闘三月十日蒲河附近戰闘明治卅八年十二月十二日下士適任証附與セララル

◎戰功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金百五拾圓ヲ下賜セララル

豫備陸軍砲歩上等兵功七級勲八等

森脇小一郎



森脇小一郎 日第二中隊へ編入卅五年三月四日ヨリ一週間淡水砲台附近高地ニ於テ九瓊米臼砲射擊演習十月歸隊全年六月十二日原隊歸還ヲ被命十五日臺北出發全日基隆港上陸

明治十三年一月廿八日生明治卅二年十二月一日徵兵トシテ東京灣要塞砲兵聯隊第三中隊入隊以米行軍射擊精實ニ勤務シ十二月一日一等卒申付ラル三十四年七月十六日臺灣守備砲兵第一大隊へ編入同月十八日屯營出發廿一日宇品港出帆廿五日基隆港上陸同日着隊廿六日十九日宇品港上陸二日歸隊全年六月廿八日藤澤町大隊一泊行軍全年十一月廿四日歸休退營明治卅七年日露戰役起ルヤ召集ノ近キニ在ルヲ察シ諸般ノ準備ヲ整ヘ日々令狀ノ到達ヲ待チ他出シテ歸宅スルヤ先不問ニ令狀ノ來否ソ以ラス如キコトニヶ月餘果シテ全年五月一日午後十一時十五分待ニ待チタル令狀ニ接シ三日出發七日東京灣要

塞砲兵聯隊へ入隊今日從兵砲兵第一聯隊第二大隊第八中隊へ編入向年五月廿四日駿河國大野原へ試験射撃ニ出張廿九日歸隊全年七月三日十五罇米榴彈砲ヲ以テ横須賀軍港出發同十二日清國盛京省青泥窪港へ上陸同地ニ舍營ニ十三日南泥子岸南山金家屯へ舍營三十日同地出發東小磨子一泊廿一日東溝着幕營シ千家屯ヲ經テ八月十七日梨嵐子西方凹地陣地ニ前進シ向十九日ヨリ全所ニ於テ旅順背面攻撃參加十月一日ヨリ同廿七日迄團子山ニ於テ二十八罇米榴彈砲ヲ以テ攻撃ス此間晝ハ射撃ニ夜彈丸運搬寸暇ナク加フルニ連日ノ大雨ニテ道路泥濘膠ヲ没シ其困難實ニ甚シカリキ同廿八日ヨリ王家甸ニ於テ廿八罇米加砲ヲ以テ攻撃ス明治卅八年一月旅順開城同十三日旅順入城式其際成蹟佳良ノ故ヲ以テ撰拔セラレテ榮ヲ得タリ全年二月一日王家甸出發東房身舍營同五日全地ヲ出發シ鐵嶺行軍ニテ六日遼陽着一泊全七日十里河ニ着舍營同九日同地ヲ出發ニ東狼洞溝ニ露營廿六日此發大古台城子ヲ經テ柳條口陣地ニ進入三月一日戰鬪同二月前進六日七日大榆樹堡ニ於テ戰鬪同日奉天陷落金家灣子ニ露營全十二日曹家屯ニ舍營全廿日出發方家來ニ舍營四月五日上等兵ニ昇進五月九日編成換ニ依リ野戰重砲兵第二聯隊第二大隊第四中隊ニ編入ス七月七日奉天出發北進ス心台子鐵嶺中固等ヲ經テ同十六日泥子浴ニ着駐在第一線防備作業ヲナシ全九月十六日休戰十月一日泥子浴出發慶雲堡黃古洞ヲ經テ三日朱山着駐在十月十六日平和克復明治卅九年二月十四日朱山村

出發同日鐵嶺着宿營十六日同所出發十七日柳樹屯着宿營十九日同所出發廿四日須賀軍港着廿五日上陸今復員下令三月三日召集解除

◎明治卅七八年戰役殊勲ニ依リ功七級金鷄勲章勲八等白色桐葉章及千金百圓ヲ下賜セラル

後備步兵一等卒勲八等 森 脇 辰 藏

明治廿一年十二月一日歩兵第十五聯隊第十中隊へ入營明治廿七年八月廿日午後十一時召集令狀至リ翌卅一日午前六時出發村內數百人ノ見送りニ擁セラレテ天龍川ヲ渡リ高崎兵營ニ向フ其前令狀ニ接スルヤ勇氣凜々村人及竹馬ノ友ニ語テ曰ク我ヲ成ス志スノ時機至レリ男子ハ國ヲ思フテ故郷ヲ出忠若シ成ラズンバ死ストモ歸ラズト奮勵一番袂別途ヲ急ク三日ニシテ高崎ニ至ル歩兵第十五聯隊補充大隊第四中隊へ編入セラル金州椅子山黄金山ノ攻撃ヨリ蓋平西七里溝榮口庄田臺ノ攻撃ヲ經六月五日復員ニ付歸郷ス

○明治二十八年十月廿一日賞勲局總裁ヨリ明治二十七八年ノ戰功ニ依リ勲八等瑞寶章及金五拾圓ヲ下賜セラレタリ明治卅七年日露戰役起ルヤ召集近キニ在ルヲ察シ諸般ニ準備整へ日ニ令狀ノ到達ヲ待チ他出シテ歸宅スルヤ先問テ令狀ノ來否ヲ以テス斯ノ如キコト十月餘米シテ翌年一月五日克員召集ニ按シ十日出發シ十四日後備歩兵第四十

九聯隊第九中隊ニ入隊同月廿日海外出發ノ目的ヲ以テ東京出發同廿二日廣島ニ着同廿六日宇品港出帆同年二月一日清國盛京省柳樹屯上陸翌日ヨリ金州普蘭店役洲熊岳城蓋平海城沙河鎮ヲ經テ二月十七日高老店ニ着同月十九日第一師團ノ側背及輜重接護ノ任ヲ帯ビ花家堡子ヲ經テ十九日渾河ノ左岸富家窩棚ニ着全地駐屯同廿四日全地出發護家窩棚ニ着全地駐屯三月八日全地出發馬家堡子ヲ經テ同九日北大勾ニ着同地駐屯四月廿日出發同廿五日后三台子着軍ノ側背及ビ遼河水路輸送接護ノ任務ニ役ス五月十九日出發同日午其堡子附近ニ於テ戰ヲ八月廿九日守備警戒ノ爲メ余家窩棚ニ移ル全廿日第二大隊へ轉出同日後備步兵四十九聯隊第二第隊第七中隊へ轉入時余家窩棚附近守備六月十六日后備步兵第十五旅團長ノ指揮下ヲ脱ス小二道房附近駐屯六月廿九日機關砲隊へ編入七月廿四日黃貝堡駐屯十月十九日機關砲隊解散ニ付原中隊復歸ス十月卅一日凱旋ノ爲メ黃貝堡出發石家崗子ヲ經テ十一月一日鐵嶺到着十一月三日鐵嶺ヨリ鐵道輸送全月五日大連着全月十二日上船出帆全月十六日宇品上陸十八日鐵道輸送全月廿日東京ニ凱旋十一月廿四日復員解除ス

◎日露戰役勲功ニ依リ勲八等白色桐葉章ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒勲八等

久保田鶴松

明治廿五年五月廿日歩兵第十八聯隊第二大隊第二中隊へ入營ス明治廿一年五月廿一日一等卒被申付ラル明治廿一年八月一日擔架術卒業証書附與セラル隊在任日ノ如キ精勤忠實シテ進テ臺灣ノ討伐ニ從ヒ殊功ヲ樹テラル明治廿八年一月十九日勲員下令同年二月二日國氏歩兵第四大隊第四中隊へ編入明治廿八年三月八日東京衛隊勤務ノ目的ヲ以テ上京芝増藏寺附近ニ駐屯同年三月二十五日浮屠護送警戒ノ爲メ府下北千住町へ出張同月卅日歸隊同三十八年五月廿五日千葉縣習志野浮屠以容所衛兵トシテ分遣同年七月十一日駐屯地へ返着明治廿八年十月十七日復員下令同月廿四日解散

◎明治廿七八年戰役ノ功勞ニ依リ勲八等瑞寶章及金三拾五圓

陸軍歩兵上等兵勲八等

吉本金太郎

明治卅六年十二月十五日近衛歩兵第三聯隊へ入營同卅七年二月五日勲員下令同十月廿日上等兵ヲ命ゼラル、全年十二月廿一日戰地補充トシテ東京出發卅八年二月廿五日廿六日宛千戸屯ニ於テ戰闘全年二月廿八日三月一日同所ニ於テ戰闘、全年三月二日ヨリ七日迄唐家屯ニ於テ戰闘、全年同月十日蒲家ニ於テ戰闘、同年十一月廿八日大連出帆全年十二月四日復員下令、同年十二月六日東京へ凱旋

◎明治卅七八年ノ戰功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金員ヲ下賜セラル

陸軍砲兵一等卒勲八等

久保田春野

明治卅六年四月一日教育召集ニ應ジ野戰砲兵第十四聯隊へ入營全六中隊編入、六月卅日教育掛解散、明治卅七年三月十六日充員召集ニ應ジ、野戰砲兵第十五聯隊補充中隊へ編入明治卅七年六月一日補育ノ爲屯營出發六月七日宇品六月十二日張家屯上陸六月十六日第三中隊へ編入七月九日蓋平附近ノ戰闘七月廿七日第二中隊ニ編入七月廿四日廿五日大石橋附近ノ戰争七月卅日八月一日海城附近ノ戰争八月三十日ヨリ九月三日ニ至ル遼陽附近戰争十月十二日ヨリ十四日ニ至ル三屯石山附近ノ戰争同卅八年二月廿七日ヨリ三月十日ニ至ル奉天ノ戰争騎兵一旅團附臨時騎砲兵中隊ニ編入スル四月廿三日及ビ五月十八日昌圖附近戰争五月廿五日四面城附近ノ偵察戰六月三日六日及十日遼陽高棚ノ戰争六月十七日ヨリ廿一日ニ至ル兩卒子附近ノ偵察戰六月廿二日ヨリ十月廿日ニ至ル濫家高棚ノ守備今月十六日平和克復全月廿二日ヨリ同卅九年一月廿二日ニ至ル民家屯滞在同月廿三日出發同月廿八日鐵嶺乘車全三十日大連着二月一日大連出帆同月五日宇品着同月十日品川着全月廿五日召集解除

◎戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

故陸軍近衛步兵曹長功七級勲八等

河野貞右衛門

明治卅二年四月十九日生

陸軍輜重輸卒

福井萬太郎

明治卅二年十二月一日徵兵ニテ近衛師團へ入營同卅三年十二月四日歩兵一等卒申附ラル同卅三年十二月四日歩兵上等兵申附ラル同卅四年十二月一日陸軍歩兵伍長ニ任ゼラル全三十五年十一月廿日現役滿期除隊、卅七年二月十五日充員召集近衛歩兵第三聯隊へ入ル卅七年三月十四日出征ノ爲宇品港出帆卅七年四月十九日陸軍歩兵軍曹ニ任ゼラル卅七年十月十二日陸軍歩兵曹長ニ任ゼラル卅八年一月十二日清國八家子東北方高地ニ於テ戰死ス、明治三十九年四月一日勲七等青色桐葉章功七級命賜勲章ヲ賜ル

明治卅八年七月十六日編成地出發同十八日ヨリ全八月一日迄廣島ニ滞在八月二日宇品出帆同六日大連上陸同九日大連停車場發車全十一日鐵嶺下車全日行軍江河沱双樹子ヲ經テ全十三日小陶家屯ニ着營隊第三軍兵站監部ニ屬シ待命ス九月三日ヨリ法庫門兵站司令部ノ業務ニ從事ス十一月十三日第一師團患者輸送部ニ配屬ヲ命ゼラル輸送患者中繼ノ爲メ興隆山ニ分遣ス凱旋ノ爲一月卅一日大房身出發二月三日鐵



福井萬太郎君

嶺乘車二月四日大連下車全六日乘船十日宇品上陸同十三日廣島出發全十六日世四谷着全十九日召集解除

◎功勞ニ依リ金五拾圓ヲ下賜セラル

元陸軍騎兵一等卒勲八等

春日喜一



春日喜一君

十四日清國塩大塊上陸全卅七年六月ヨリ得利寺熊岳城蓋平大石橋海城遼陽沙河戰ニ參加ス明治卅八年一月廿九日黑溝台戰役ノ際清盛京省没且堡ニ於テ負傷全卅八年九月九日依傷瘻兵役免除

◎明治卅七八年戰役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章賜金貳百圓

陸軍歩兵一等卒勲八等

春日鶴治郎

明治卅七年二月五日勳員下令同十一日郷里ヲ出發シテ同十五日近衛後備第三聯隊第二中隊ニ入隊ス全年五月廿八日第三中隊へ轉出ス六月一日伊勢大廟警護隊トシテ屯營出發全二日伊勢山田町ニ到着ス同三日近衛後備歩兵第四聯隊第一中隊ト交代シテ服務ス同十月十三日近衛後備歩兵第四聯隊第四中隊ト交代ス同十四日山田町ヲ出發全十五日二坂營ス清國柳樹屯ニ上陸ス其ヨリ日役行軍シテ四月十九日野戰近衛歩兵第一聯隊第七中隊ニ編入セラル六月廿八日ヨリ七月六日迄前哨勤務ニ役シ全十一月十九日宿營地ヲ出發ス同廿三日鐵嶺ヨリ乘車シ全廿四日大連ニ到着同廿五日同所出發シ全廿九日似嶋ニテ檢疫ヲナシ宇品ニ上陸ス同卅日廣島市ヲ出發シ十二月三日屯心ニ返着ス全四日復員下令



春日鶴治郎君

卅八年三月十九日近衛歩兵第三聯隊補充大隊へ轉出ス第三中隊へ編入セラル同廿日補充トシテ屯營出發シテ同廿二日廣島市ニ到着ス全廿三日宇品港出發全廿七日



同日召集解除ニテ全十六日坂郷ス  
◎戦役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章及金八拾圓賜ハル

故陸軍歩兵上等兵勲八等

唐澤文一

明治十六年二月十三日生

氏ハ定七ノ四男ニシテ資性鋭敏小學校ニ入ルヤ常ニ儕輩ヲ接キ級ノ首席ヲ占ム、長  
スルニ及ビ温厚父兄ニ  
仕ヘ大ニ家業ヲ扶ケ出  
テハ青年會幹事トシテ  
篤實ニシ後輩者ヲ指導  
誘液郷堂皆模範青年ト  
シテ賞揚セザルハナシ  
明治卅六年十二月ノ入  
營兵トシテ高崎歩兵第  
二任セラルル此レ實ニ希有ノ昇進ト云ヘシ同年十一月十四日野戰隊補充トシテ宇品港ヲ  
出帆シ同十八日清國盛京省青泥窪ニ上陸翌十九日第十五聯隊第二中隊へ編入セラルル旅



唐澤文一君

十五聯隊第四中隊所  
屬タリ翌卅七年日露  
戰役起ルニ及ビ三月  
六日本聯隊ニ動員令  
下リ翌七日氏ハ補充  
大隊第一中隊編入セ  
ラル全年九月廿日歩  
兵一等卒全日上等兵

順攻圍軍ニ參加シ連日苦闘奮戰シ同月廿八日彼ノ大平溝東南方約千五百米突標高二〇  
三高地奮取戰ニ於テ決死躍進險ヲ攀テ敵陣ヲ冒シ敵ガ旅順港鎮鎗トシテ最モ堅固ニ  
防禦セル砲壘ニ向フテ突撃中遂ニ敵陣ノ爲メ數ヶ所ニ負傷戰闘線ヲ離レ十二月五日青  
泥窪港出帆還送セラレ翌卅八年二月廿日全治退院シテ第十五聯隊補充大隊ニ復歸ス越  
テ五月第四十九聯隊編成セラレ及ビ同十八日同聯隊ニ轉ズ征露ノ企畫着々進ミ連戰連  
勝樺太軍組織サレ同聯隊亦之ニ加ワル六月廿六日横濱ヲ出帆シ七月七日樺太メレヤニ  
上陸漸次攻路樺太全嶋平定スルヤ歸リテ十月十八日韓國守備ノ爲宇品港出帆十月廿二  
日北韓清津ニ上陸シ咸鏡北道茂山ニ守備トシテ屯營セリ然ニ卅九年二月四日朔北烈寒  
積雪丈餘ノ間衛兵勤務中不幸疾病一等症ニ罹リ次第ニ重患トナリ後送セラレテ廣島豫  
備病院ニ於テ加療中四月十六日療石其効無ク終ニ率ス  
◎卅七八年戰役ノ功ニ依リ勲八等ニ叙シ瑞寶章授ラル  
●法蓮院大心勇義居士

元陸軍歩兵一等卒勲八等

前澤兼太郎

明治廿九年十二月一日歩兵第十五聯隊第十二中隊編入明治卅年十二月十三日歩兵一等  
卒ヲ申付全卅七年三月十五日宇品港出帆同月廿日鎮南浦上陸五月一日馬溝及蛤蟆塘附

近戰闘參加全年七月廿一日様子嶺附近戰參加八月廿四日同廿六日浪子山附近戰闘ニ參加全月廿八日卅日遠陽附近ノ戰闘ニ參加シ八月卅日除家溝ニ於テ陰壺部貫通右大腿上部貫通右手尚手貫通銃創負ケ翌卅日第一野戰病院ニ入院同年十月十日青泥窪出帆内地後送十月十四日宇品上陸全廿一日東京豫備病院戸山分院ニ收容十月蕪海ニ轉地療養卅八年一月十五日東京豫備病院澁谷分院坂院二月十五日退院補充大隊第三中隊へ編入全日坂療養三月廿一日歸隊七月五日右手第二指第一節貫通銃創陰莖及陰囊貫通銃創右大腿軟部貫通銃創一等症ニテ東京豫備病院再入院七月二十日依傷痍兵免除廿二日退院除隊

陸軍砲兵輸卒勲八等

大倉浦治郎

◎日露戰役ノ勲功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セララル

陸軍輜重輸卒

松村龜次郎

◎日露戰役ノ功勞ニ依リ三拾五圓ヲ下賜セララル

陸軍一等計手勲七等

河野鐵一

◎日露戰役ノ勲功ニ因リ勲七等青色桐葉章及金三百圓ヲ下賜セララル

陸軍砲兵一等卒勲八等

松下末松

氏ハ日露戰宣ノ大詔下ルヤ決然トシテ起テ千載一偶ノ好機ヲ得タルヲ喜ビ終夜不眠ノ勢ニテ東天紅ヲ潮スルノ頃郷里ノ送行ヲ出境ヲ過キ敵地ニ上陸シ各地ニ轉戦シ勲功ヲ樹ラレタリキ

◎戰功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金百五拾圓ヲ下賜セララル

陸軍輜重輸卒勲八等

安田秀太郎

氏ハ勲員進發ノ命ニ接シ内躍リ骨動キ突然内外ヲ整理シ四千萬同胞ノ觀呼ノ聲ト共ニ屯營ヲ出發シ空ニ龍ヲ飛バシ敵地ニ上陸シ各地轉戦シ戰闘隊ヲシテ遺憾ナカラシメタリ

◎日露戰役ノ勲功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セララル

陸軍輜重輸卒

唐澤武男

氏ハ日露開戦ノ大詔勅下ルヤ軍國ノ男兒晝夜ノ別ナク鍔上タル身心ヲシテ君國ノ爲ニ

倅グベキ千載一偶ノ好機ナリト決然境ヲ離レ敵陣ヲ跋渉シ險惡ナル泥道ヲ冒シ能ク其任務ヲ全シ戰鬪隊ヲシテ遺憾ナカラシメタリ

陸軍補充兵二等卒

外池春吉

○日露戰役功勞ニ因リ金三拾五圓ヲ下賜セラル

陸軍補充兵一等卒勲八等

松下道太郎

氏ハ明治卅七、八年戰役開始スルヤ進發ヲ俟事數十日突然出發ノ命下リ百旬ノ旱天ニ雨ヲ得タル心地レテ直ニ入隊シ國民ノ觀呼ノ聲ト共ニ急行ノ車輪ヲ飛バシ宇品ヲ出帆シ敵地ニ上陸ス敵陣雨下ノ間ヲ奮闘シ強敵ニ多太ノ損害ヲ與ヘ偉功奏セレタリキ



松下道太郎君

○戰役勲勞ニ因リ勲八等瑞寶章及金七拾圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒勲八等

越野三藏

○日露戰役ノ勲勞ニ因リ勲八等瑞寶章及金七拾圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵伍長勲八等

唐澤勇五助

氏ハ温厚ニシテ常ニ英氣アリ日露戰宣ノ大詔勅下ルヤ直ニ勇氣百倍増家ニ妻子ヲ忘レ郷里ニ朋友親族ヲ忘レ敵陣ニ其身心ヲ忘レ彈丸雨下ノ間縱横奮闘シ強敵ヲシテ粉骨細塵セシメ偉功ヲ樹テラレタリキ

陸軍歩兵一等卒

武田治三郎

明治卅七、八年戰役功勞ニ因リ金五十圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒勲八等

唐澤次雄

日露戰役ノ功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セラル

故陸軍輜重輪卒勲八等

松村金一

日露戰役ノ勲功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金百八拾圓下賜セラル

陸軍輜重輸卒勲八等

武田幸六

氏ハ明治卅七、八年戰役起ルヤ決然トシテ我日本心ヲ海外ニ發揮シ上ハ 天皇陛下ノ御心慮ニ添イ下ハ國民諸子ノ枕安カラシメテ期シ軍港ヲ出帆シ波高キ玄海灘ニ白雪ヲ飛バシ無事敵地ニ上陸ス彈丸雨下ノ間ヲ縱橫往復能ク其任務ヲ全シ戰鬪隊ヲシテ寸毫モ遺憾ナカラシメタキキ

○戰役勲勞ニ因リ勲八等瑞寶章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒勲八等

高山金太郎

氏ハ外出征ノ命下ルヤ欣喜躍直ニ境ヲ離レ戰地ニ向ヒテ出發ス敵地ニ上陸スルヤ后方勤務ニ屬シ雨中偷道ノ行軍深夜泥道ノ運搬等百難ヲ冒シ能ク后方勤務ヲ盡シ戰鬪隊ヲシテ目的ノ行動巧ミノ作戰ヲシテ機ヲ謀ラシメズ強敵ヲ不止得ニ至ラシメタル功勞多トナリト云ヘシ

○戰役勲功ニ因リ白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒勲八等

唐澤信吉

○日露戰役勲功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金百五拾圓ヲ下賜セラル

會地村部

元陸軍歩兵曹長勲七等功六級

小笠原賢太郎

明治廿五年十二月一日徵兵トシテ第一師團歩兵第十五聯隊第十二中隊ニ入隊同二十六年十一月二日歩兵一等卒同日更ニ上等兵拜命二十六年兵教育掛續全上等兵候補者教育掛廿七年八月卅日勲員下令十月十五日征清從軍廣島縣宇品港出帆全月二十四日清國盛京省花園河口上陸以來十一月六日金州城攻撃同月七日除家山砲台占領同月二十一日旅順要塞攻撃二十八年一月十日蓋平城攻撃二月二十四日七里溝庄ノ戰鬪三月六日營口占領同月九日田庄台攻撃ヲ始メトシ各地ノ戰鬪ニ參與全年四月廿一日平和克復五月二十五日大連灣出帆六月三日凱旋宇品港歸着全月六日高崎ニ歸營後六月九日給養班長並ニ二十七年上等兵候補者教育掛九月廿八日第三大隊收事係代理全年十月三十日明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ勲八等白色桐葉章並ニ金百圓ヲ授ケ賜ハル全年全月三十一日下士適任證及善行證書ヲ附與サル全月同日歸休除隊同年十一月十八日明治二十七年戰役從軍記章ヲ賜ワル全年十二月一日豫備役編入三十三年四月一日ヨリ三十五年三月卅一日マデニケ年半豫備再服役三十五年四月一日後備役編入三十七年三月十二日充員召集ニテ後備歩兵第十五聯隊第五中隊へ入隊分隊長同年六月十二日後備歩兵第一旅團司令

部傳令長トシテ分遣サル全月十三日征露從軍宇品港出帆全月十七日清國盛京省張家屯上陸第三軍ニ屬シ旅順要塞攻圍軍ニ加ハル七月二十六日ヨリ二十八日ニ亘ル安子嶺及用山附近戰闘ノ際ハ銃砲火ノ下ニ在テ屢々第一線隊長及砲兵隊長ノ許ニ命令ノ傳達ニ任ジタリ就二十七日後備歩兵第十六聯隊ノ一部及後備歩兵第十五聯隊ノ一部用山ニ突撃ヲ試ムルヤ敵ハ兵糧ヲ利用シ小銃機関砲ヲ以テ頑強ニ抵抗シ之レガ防止ヲカム我進路ハ殆ンド攀登ヲ許サザル急峻ナル斜面加之敵ノ瞰射及側射下ニアルヲ以テ其被害殊ニ夥シク突撃隊ノ主力モ一時死傷ニ隱ル、ノ己ムナキニ至レリ此時ニ當リ旅團長友安少將ノ緊要ナル命令ヲ後備歩兵第十六聯隊長ノ許ニ迅速確實ニ送致シ其目的ヲ達シタリ又二十八日ハ早朝ヨリ南嶺溝東南方高地頂ニアツテ展望哨トナリ常ニ有利ナル報告ヲ爲セリ殊ニ全日午前十時我右翼敵線動搖スルヲ見ルヤ適當ニ判断シ時機ヲ失セズ之ヲ報告シ嗣後ノ行動ヲシテ有利ナラシメタリ同月三十日鳳凰山附近ノ戰闘ニアツテハ屢々傳令勤務ニ服セリ八月十三日ヨリ二十日ニ亘ル潘家屯及小東溝附近戰闘ノ際ハ猛火ノ下ニ在ツテ晝夜ノ列ナク屢々命令ノ傳達及展望監視哨ニ任シ其任務ヲ達成セリ就中十三日夜襲ヲ以テ後備歩兵第十五聯隊ノ獨立標高一三一高地ニ肉迫シ一舉之ヲ屠ラントスルヤ敵ハ天險ヲ利用シ攻略ニ據リ探照燈及光彈ヲ以テ我進路ヲ照明シ銃砲機関砲ヲ以テ之ガ掃射ヲ行ヒ其前進ヲ防止ス同隊ハ爲メニ聯隊長以下死傷續出

頗ル慘憺タル光景ヲ演出セシノミナラズ許多ノ障害ニ際會シ其目的ヲ達スルヲ得ズ依テ同夜ハ山嶽ノ死傷ニ據リ周圍ニ掩蔽ヲ築キ夜ヲ徹スルノ餘儀ナキニ至レリ然ルニ翌拾四日ニ至リ所屬司令部及隣接部隊トノ交通ハ晝間敵ノ瞰射下ニアルヲ以テ人伍ノ行動ヲ許サズ數回ノ傳令ヲ派遣スルモ正面高地及一七四海鼠山方面ヨリノ亂射狙撃ノ爲メ中除ニ於テ死傷シ其目的ヲ達スル能ハズ同聯隊ハ恰モ孤立ノ悲境ニ陥リ傷者収容後送ヲ成シ得ザルノミナラズ一滴ノ飲料水ニサヘ窮スルニ至ル此時ニ方リ旅團長ノ命令ヲ携ヘ一等卒淺賀金藏ヲ隨ヘ出發セシガ砲及ビ狙撃甚シク且ツ利用スベキ地物ナク其通路頗ル危険下ニアツテハ情況不明ノ全隊ヲ搜索シ標高一三一高地ノ東北方ナル同聯隊第一中隊ノ占領セシ高地ニ達スルヤ萬一命令ノ未達ヲ顧慮シ今隊小隊長小山中尉ニ命令ノ要旨ヲ口達シ猶進ンテ猛射ヲ冒シ六、七百米突敵ノ視線下ヲ疾驅シ漸ク全聯隊占領地ニ達シ聯隊長代理横山少佐ニ命令ヲ傳達シ尚負傷セル高木中佐ヨリ戰闘經過ノ報告ヲ口授セラレ全隊命令授領者ノ嚮導トナリ小潘家屯ナル司令部ニ歸着シ復命及報告ヲ爲シ完全ニ其任務ヲ遂行シ一時杜絶セシ同聯隊トノ連絡ヲ確實ニシタリ又十五日午前十時頃一三一高地ノ敵ハ我砲撃ノ成果ニ依リ稍動搖ヲ始ムルヤ一等卒西脇俊三郎ヲ隨ヘ重要ナル旅團長ノ命令ヲ後備歩兵第十五聯隊長ノ許ニ致スノ命ヲ受ク時恰モ戰況極度ニ達シ彼我ノ銃砲火雨ノ如ク其行動頗ル危険ノ際ニ在テ百難ヲ排シ濫

滯ナク確實ニニ命令ヲ傳達シ將ニ歸ラントスル除中西聯一等卒ノ負傷セシヲ扶接シ疾  
 驅歸テ之レヲ復命セリ全聯隊ハ此命令ニ依リ戰機ヲ逸セズ突撃ヲ決行シ遂ニ同高地ヲ  
 占領スルニ至ル又十九日後備歩兵第一聯隊ノ標高一七四西方高地ニ肉迫シ敵ト相距ル  
 十數米ノ地ニ有テ正面及一七四、二〇三高地等ヨリ猛烈ナル銃砲火ヲ蒙リ情況頗ル危  
 殆ナルニ際シ後備歩兵第十五聯隊ノ一七四高地正面ニ向ヒ劇烈ナル敵火ヲ冒シ猛進ス  
 ルヤ同高地三層ニ配備セル敵ノ銃砲火ハ前進兵ノ全部ヲ死傷セシムルノミナラズ前  
 面ニ横ハレル堅固ナル鐵條網ト急峻ナル坂路トハ我前進ヲ障害シ容易ニ進出スルヲ  
 得ズ同隊ハ一時狭小ナル死角ヲ利用シ集合スルノ止ムナキニ至レリ此危急ノ際ニ當  
 リ吉田副官ノ緊要ナル命令ヲ同隊ニ傳達スルニ隨ヒ猛火ヲ冒シ後備歩兵第十五聯隊及  
 ビ全隊一聯隊間ヲ往復シ命令ノ傳達ニ任シタリ八月廿一日仕歩兵伍長九月十九日ヨリ  
 廿三日ニ至ル標高二〇三高地第一回攻撃ノ際ハ晝夜ノ別ナク猛火ノ下ニ有テ展望哨ト  
 ナリ時々有利ナル報告ヲ爲シ又傳令使トナリ屢々危險ノ地ヲ往復シテ其使命ヲ完フ  
 セリ就中廿一日我突撃部隊ハ敵ノ掩蓋下ニ逼リ頗ル悲境ニ在ルニ當リ増援隊タル後備  
 歩兵第十五聯隊第一大隊ノ嚮導ヲ命ゼラル、ヤ能ク地理ヲ暗スルヲ以テ安全ナル通  
 路ヲ選定シ敵下ノ下ニアリテ更ニ損害ヲ被ムルコトナク之ヲ突撃準備陣地ニ嚮導シ尚  
 猛射ヲ冒シ第一線ニ至リ後備歩兵第十六聯隊長ニ其旨ヲ傳ヘ一時銷沈セル同突撃隊ノ

志氣ヲシテ大ヒニ振興セシメタリ又全日午後吉田副官ニ隨ヒ全陣地ニ至リ増加隊ノ小  
 部隊ニ躍進スルニ際シ雨注スル銃砲彈ノ間ヲ奔走シテ命令ノ傳達ニカメ各隊ノ連業ヲ  
 確實ニセリ我突撃隊ハ死傷續出頗ル悲慘ヲ極メ一時死傷ニ據リ之ヲ避ケタルノ己ムナキ  
 ニ至ル此時ニ當リ數回ノ傳令ヲ派スルモ中途ニ於テ死傷シ其目的ヲ達スル能ハズ依テ  
 旅團長ノ緊要ナル命令ヲ同聯隊長ニ傳フルノ命ヲ受ケ一等卒高橋彌三郎ヲ從ヘ猛射ヲ  
 冒シ死屍ヲ越ヘテ香月中佐ノ許ニ至リ之ヲ傳ヘ確實ニ其任務ヲ達成セリ九月廿三日ニ  
 ○三高地戰以後錯雜ナル事務ヲ處理シ又傳令卒ヲ指導シ命令報告ノ傳達ニ任シ又二〇  
 三高地ニ對スル攻路作業中ハ掩蓋材料ノ運搬授受掩蓋ノ構成交通路ノ開鑿等ニ從事セ  
 リ十月廿九日後備歩兵第一聯隊ノ後三羊頭村北方高地ノ敵ヲ攻撃スルヤ屢々傳令勤務  
 ニ服シ命令ノ傳達ニ勤メタリ殊ニ向夜吉田副官ノ旅團豫備タル後備歩兵第十五聯隊ノ  
 ニケ中隊ヲ引率シテ赴接スルニ方リ傳令長トシテ之レニ隨從シ猛射ノ下ニアツテ第一  
 線大隊及司令部間ヲ往復シ命令報告ノ傳達ニ任シタリ十一月廿五六日ノ後三羊頭北方  
 高地戰闘ノ際ハ傳令勤務ノ外展望監視ヲナシ常ニ有利ナリ報告ヲナセル殊ニ廿五日夜  
 藤井副官ノ後備歩兵第一聯隊ニ出張スルヤ之レニ隨行シ彈雨ノ裡ヲ奔走シテ命令報告  
 ノ傳達ニ任セリ十一月廿七日ヨリ十二月五日ニ亘ル標高二一三高地第二回攻撃ノ際ハ  
 晝夜ノ別ナク銃砲火ノ下ニアリテ屢々縱隊長及砲兵隊長ノ下ニ命令ノ傳達ニ務メ又二

○三北方高地頂ニアツテ展望哨トナリ常ニ有利ナル報告ヲナセリ就中廿八日A攻路隊ハ勇敢ナル突撃ヲ實行シ第二掩蓋線ニ達シタルモ二〇三南方高地及其後方ヨリノ側射ヲ受クルノミナラズ頂点ヨリスル猛射ト手擲爆藥ノ被害殊ニ夥シキヲ以テ狭小ナル死角ニ據リ僅ニ現地ヲ保持スルニ方リ土囊及手投爆藥ノ必要ヲ生ジ其運搬ノ任ヲ命ゼラル時銃砲火猛烈ニシテ攻路口ハ敵彈ノ爲メ破壊セラレ攻路内ハ死傷者充塞シ其運搬至難ニ際シ豫備隊ノ兵ヲ指揮シ幾多ノ障害ヲ排シ機ヲ誤ラズ迅速ニ之ヲ第一線ニ送付セリ又廿九日午后歩兵第二十六聯隊第二大隊ノA攻路隊ニ増加ヲ命ゼラル、ニ際シ同隊集合地タル海鼠山北麓ニ至リ猛火ノ下ニアツテ巧ミニ地物ヲ利用シ多大ノ損害ヲ被ムルヲナク之ヲ香月縱隊長ノ許ニ嚮導セリ又同日夜半迫撃砲及手投彈藥ノ受領ヲ命ゼラル、ヤ支那人夫十數名ヲ驅リ集メ一等脇坂常一ヲ隨ヘ高崎山ナル第一師團司令部ニ至リ迫撃砲及手擲彈藥ヲ受領シ中途許多ノ困難ヲ排シ翌三十日午前七時司令部ナル突撃準備陣地ニ送附セリ依テ之ヲR攻路隊長歩兵第二十八聯隊長村上大佐ノ許ヘ運搬ヲ命ゼラル、ヤ時恰モ突撃ニ際シ彼我ノ銃砲火ハ猛雨ノ如ク攻路内ハ突撃隊ノ爲メ立錐ノ地ヲ餘サズ徒歩ノ傳令スラ一步モ進退スル能ハサルノ時ニ方リ百方苦心シ機ヲ誤ラズ之ヲ縱隊長ノ許ニ送付シ尚同隊長ノ命ニ依リ攻路頭約十米突敵方ノ最モ通視シ得ヘキ地ニ装置シ第一師團司令部ニテ教授サレシ使用法ニ就キ其説明ヲナシ直ニ歸部

復命セリ同日午後零時同縱隊ハ同高地東北角ニ突撃ヲ實行スルヤ敵ノ抵抗ハ頑強ニシテ銃砲火及機關砲手擲爆藥等ノ爲メ頗ル悲惨ヲ極ムル時ニ當リ同縱隊ニ迫撃砲ノ功力僅少ナルヲ以テ再ビ之ヲA攻路隊ニ轉送ヲ命ゼラル依テ一等卒齋藤富次郎ヲ隨ヘ村上大佐ノ下ニ至リ其旨ヲ傳達シ之ヲ還送セントスルヤ時彼我戰況極度ニ達シ攻路内ハ死傷者ヲ以テ閉塞セラレ其運搬ノ困難ナルコト一方ナラザリシニモ係ハラズ豫備隊ヨリ出セシ十數名ノ兵卒ヲ督勵シ百難ヲ排シ機ヲ誤ラズ所命ノ陣地ニ至リ今隊副官佐野中尉ニ之ヲ渡シ尚其由ヲ香月中佐ニ通報シテ歸レリ又同日夕司令部ノA攻路頭ニ前進以來ハ益々惡戰苦闘十二月一日午前一時一等卒小實榮作ヲ隨ヘ旅團長ノ緊要ナル命令ヲ携ヘR攻路隊長ノ許ニ至リシ時ノ如キハ機關砲手擲爆藥ノ爲メ中途頗ル危険「小實一等卒中途ニ於テ戰死ス」ナリシモ迅速確實ニ之ヲ傳ヘ尚同隊長ヨリノ報告ヲ受領シ疾驅歸テ復命セリ又全日午前三時香月中佐ノ許ニ旅團長ノ命令其隊ハ全滅ニ歸スルモ願慮スルコトナク確實ニ現場ヲ維持セヨノ傳達及其情況視察ヲ命ゼラル、ヤ敵ノ雨注セル銃砲火螺旋セル手擲爆藥ヲ冒シ死屍ヲ超ヘ將サニ其陣地ニ達セントスル途敵兵數名ノ來襲ニ際會セシモ之ヲ擊退シ身ニ爆裂彈創ヲ受ケシモ屈セズ香月中佐ノ許ニ至リ其命令ヲ傳達シ尚西南頂ノ情況ヲ監視シ歸リ復命香月中佐ノ返答西南頂ニ確實ナル工事ヲナシ死力ヲ竭シテ現場ヲ維持セン及同地ノ情況工事進捗ノ程度等詳ニ報告シ

旅團長ヨリノ賞詞ヲ受ク此戰闘ニ於テ滿洲軍總司令官ヨリ所屬旅團ニ感狀ヲ附與セラレタリ十二月十五日任歩兵軍曹後備歩兵第十五聯隊附ヲ免シ後備歩兵第一旅團司令部附ヲ命セラレ戰闘後復雜ナル事務ニ從事シ命令報告ノ傳達等副官ノ職務ヲ補佐ス三十八年一月一日復三羊頭村附近戰闘ノ際ハ命令報告ノ筆記ヲナシ又屢々傳命勤務ニ服シ其任務ヲ遂ゲタリ旅順開城後旅團長隱岐少將ノ同地衛戍司令官兼各要塞ノ守備司令官トナルヤ其整理等事務繁劇加フルニ一名ノ書記疾病入院スルニ方リ日夜ノ列ナク戰後ノ整理市街ノ秩序回復後送等ノ業務ニ関シ副官ヲ補佐セリ三月三日ヨリ所屬旅團ハ滿洲軍總豫備トシテ等三軍ノ左翼後ヲ迂回スルヤ強行軍ニテ三個ノ旅團當旅團長ノ指揮下ニ屬シ命令通報ノ傳達筆記等事務頻繁ナル時ニ方リ副官ヲ輔ケテ其任ヲ盡セリ同月九日旅團ハ第一師團長ノ指揮下ニ屬シ文官免ノ攻撃ニ任スルヤ敵火ノ下ニアリテ命令報告ノ筆記ヲナシ又屢々猛火ヲ冒シ緊要ナル命令ヲ第一線隊長ノ許ニ確實ニ傳達シ其任務ヲ全フセリ殊ニ此日旅團ハ將サニ敵陣地ニ突撃ヲ決行セントスルヤ時恰モ烈風砂塵ヲ捲キ咫尺辨セサルニ乘シ敵帥黑嶋公ノ率ユル我レニ十數倍スル優勢ナル敵ハ慕然我左翼ヲ包繞シ漸次我レニ迫リ其間僅カニ百歩許リ我左翼ハ之ニ向テ猛射セシモ敵ハ漸次右翼ヲ伸長シ益々我左側ヲ包圍シ來レリ旅團ハ死力ヲ竭シテ之レニ抵抗セシガ死傷續出殊ニ多クノ幹部ヲ損シ戰闘動搖スルヲ見ルヤ旅團長ハ猛進シテ之レガ停

止ヲ呼号スト雖モ紙ノ如キ平原大勢支へ難ク一時田義允ニ退却スルノ已ムナキニ至レリ此時ニ當リ所屬司令部ハ副官書記及傳令大半死傷セシヲ以テ獨リ旅團長ニ跟隨シ螺集セル猛射ノ下ニ在ツテ東奔西馳シテ之ガ停止ヲカメ又諸隊背進後ニ在ツテ旅團長ノ敵情視察ニ攪護シアリシガ敵ノ逆襲ハ倍々急ニシテ殆ンド目前ニ迫リ此時ニ方リ決然身ヲ躍シ之ヲ迎へ奮闘中敵彈ノ爲メ右顔面外背下貫通創ヲ受ケシモ終始旅團長ノ傍ニアリ身ヲ以テ之ヲ庇護シ無事田義允ニ着シ諸隊ニ部署命令ヲ傳達ノ後遂ニ入院スルノ已ムナキニ至ル全月同日五台子第一師團第三野戰病院へ入院翌十日馬山家子定立病院へ轉送漸次後送セラレントスルヤ一眼眇ヲ失ス「右眼網膜破裂」ルニ至ルモ後送サル、ヲ憤慨シ再三病院長ニ強請シ全月十四日事故退院歸部爾米劇務ノ衝ニ當リ警戒勤務ノ外錯雜ナル事務ヲ處理シ命令通報ノ傳達等過誤澁滞ナク副官ヲ輔佐シ各隊ノ戰闘力ヲ恢復整備ニ盡セリ六月廿日任歩兵軍曹長十月十六日平和克復十一月十九日柳樹屯出帆廿二日兵庫ニ上陸廿六日東京ニ凱旋十一月廿八日陸軍士官勤務適任證書附與セラル全日役員完結旅團解散。解散後殘務整理ノ爲メ三十九年二月廿三日迄引續キ服務セリ二月二十三日右眼視力障害ニ依リ東京隊備病院へ入院四月一日明治卅七八年戰役ノ功ニヨリ功六級金鷄勳章並ニ年金貳百圓及勳七等青色桐葉章ヲ授ケ賜ハル從軍記章併賜五月九日依傷痍兵役免除トナリ免除恩給年額金九拾圓及增加恩給年額金參拾五圓ヲ下シ賜



ハル  
 附記現役除隊後ハ村會議員學務委員村農會長其他幾多ノ名譽職ヲ務メ赤十字社終身社員武徳會特別會員海員救濟會會員軍人遺族救護會終身會員等ナリ當學校新築警察分署新築學校基本金其他器具備付等ノ爲メ金圓物品寄附ニ付當時ノ縣知事ヨリ木杯及賞狀ヲ受クル數回赤十字社ヨリ功勞賞トシテ木杯一個ヲ受ク

陸軍騎兵上等兵勲八等功七級

倉田平次郎

明治三十五年十二月一日騎兵トシテ第拾三聯隊明治卅六年十二月一日上等兵昇級明治三十七年四月九日勳員下令全二月三十日屯營出發全五月十九日宇品港出帆全五月廿三日清國盛京省張家屯上陸五月三十日及六月三日曲家店附近ニ於テ戰闘自六月十四日至六月十六日得利寺附近ニ於テ會戰六月廿七日及七月五日大石山附近ノ戰闘自七月七日至七月九日蓋平附近ノ會戰自七月廿二日至七月二十五日大石橋附近ノ會戰七月廿七日小畑搜索隊ニ志願速ク敵ノ後方ニ迂廻シ敵情搜索併テ鐵道電線破壞ノ任務ヲ以テ八月二十六日任務ヲ全フシテ大望台ニ來リ本隊ニ合ス自八月廿六日至全月廿八日鞍山站附近ノ會戰自八月卅日至九月四日遼陽附近ノ會戰自十月十日自十月十六日沙河附近ノ會戰明治卅八年一月廿五日ヨリ一月卅一日迄黑溝台附近ノ會戰自二月廿八日至三月十日

奉天附近ノ會戰自三月十一日至三月十九日鐵嶺開原附近ノ追擊戰自四月三日至四月八日鴛鴦樹附近ノ會戰六月十六日遼陽高棚攻襲偵察明治三十八年六月廿六日決死隊志願哈拉沁屯彰武縣ヨリ齊々哈爾方位ニ出テ蒙古内部ノ敵情及地形ヲ偵察スベキ任務ヲ以テ劉家窩棚出發シ彰武縣ナイムアン、ヤルホルチン、東西チヨロツト、チヤスト、旗下ノ諸部落ヲ經テ羅河ヲ渡リ猶北進ヲ繼續ロンハシタルモ、情況之ヲ許サズ以テ己ムヲ得ス往路ヲ異ニシタラバン、ボウワリン、旗下ノ諸部落ヲ經テ八月十三日宿營地ニ歸還シ本隊ニ合ス行程費ニ三百有餘里日數約五旬箇處ノ地圖ヲ按シテ深ク不毛ニ入り隆暑瘴癘ヲ冒シ饑渴窮乏ヲ忍ビ或ハ地方團練ノ妨礙ニ合ヒ或ハ有力ナル敵兵探知スル所トナリ一難ヲ經ル毎ニ銳氣加倍シ周到偵察ナル計畫ヲ以テ着々任務ヲ實行シ縱橫敵地ヲ馳驅シ遂ニ任務ヲ全フス其外斥候搜索隊等從事スルノ數十四ニ及ベリ明治三十八年九月十六日正午ヨリ休戰全十月十六日平和克復明治卅九年一月卅一日大連乘船全二月三日宇品港上陸全二月十日屯營歸着全二月九日役員下令明治卅九年二月十六日滿期除隊明治卅九年四月一日明治卅七八年戰役ノ功ニ依リ勲八等白色桐葉章功七級金鷄勲章及年金百圓ヲ授ケ賜ハル

陸軍歩兵上等兵勲八等

塚田美保三

明治廿七年十二月一日近衛歩兵第三聯隊補充大隊第三中隊入隊シ清國及臺灣ニ轉戦シテ殊功ヲ樹ラレ明治廿九年四月十日歩兵一等卒申付ラル明治三十年二月五日英照皇太后御葬儀ニ付儀仗トシテ西京へ出張全月十一日歸營全年六月廿九日ヨリ野營演習シテ習志野原へ出張七月十二日歸營今年十一月卅日滿期除隊同日善行證書附與明治廿七八年戰役ノ功ニ依リ慰勞休暇十四日間下賜明治廿七八年戰役紀念ノ爲メ近衛歩兵第三聯隊第五中隊ヨリ木盃壹個ヲ下賜明治廿八年二月廿二日皇后陛下ヨリ酒肴料下賜金拾錢明治卅年十一月卅日金貳圓五拾錢特別恩賜金明治卅七年二月十五日充員召集ニ依リ近衛後備歩兵第三聯隊第一中隊ニ入隊守衛勤務ニ服ス全年八月一日ヨリ補充兵教育掛ニ從事シ連續三回明治卅八年五月五日ニテ結了此間千葉縣下志津原及習志原ニ於テ野營ノ地ニ在ルテ數ヶ月ニ及ブ此間射撃閑ノ助手ヲ兼テ共ニ命ヲ全フスルヲ得明治卅七年九月二日歩兵上等兵拜命明治卅八年六月九日ヨリヘスト病ニ注意患者隔離ノ爲メ看護手一人當番三人手引率シ監督ノ任ヲ以テ府下小任原郡上遊谷村長泉寺ニ至リ寺ノ執事ト諸事ノ打合ナシテ準備ヲ整ヒ翌十日大隊付草外運送ノ巡規健康診斷ヲ行フ異狀ナシ其他凡テ嚴守シ異狀ナクシテ規定ノ時日ヲ經以テ目的ヲ達シ全ク廿二日歸營明治卅八年九月五日東京市中ニ戒嚴令ノ發布下ナルヤ戰時全クニテ片 隊及ヒ櫻田門和田倉門

ノ警戒ニス全年十月廿二日役員下令ニ依リ廿七日召集解除トナル  
明治卅九年四月一日卅七八年戰役ノ功ニヨリ勲八等瑞寶章並ニ金八拾圓ヲ授ケ賜ハル

故陸軍輜重輪卒

佐々木 央

明治卅七年五月七日東京灣要塞砲兵補助輪卒隊ニ編入六月四日横須賀出發同月七日宇品着同十三日第三軍戰闘序列ニ入り攻城特種部隊ニ屬セラル全十九日宇品港ヨリ乘船シ廿五日清國盛京省三官廟上陸夫ヨリ金州ヲ經全廿九日青泥窪者同日青泥窪司令部ニ屬セラレ輸送業務ニ從事ス七月十六日第一攻城砲廠ニ屬ラセレ攻城諸材料同工兵廠諸材料海軍陸戰隊彈藥輸送並ニ彈藥補給陸海軍火砲彈藥其他攻城諸材料ノ貨車揚載ニ從事八月十三日青泥窪發全日長嶺子着十五冊鎮遠射砲廿八冊鎮遠射砲彈藥其他攻城諸材料ノ輸送並ニ戰傷者輸送ニ從事十月六日左家屯へ前進全日幕營全十九日西窪子へ營營廿八冊鎮米榴彈砲十五冊米速射砲彈藥諸材料戰傷者五十口經軍海十五冊鎮米加農砲輸送一月二日旅順敵軍降伏五十口海軍十五冊鎮米加農砲廿八冊鎮米榴彈砲輸送全月廿四日徒歩砲兵第一聯隊へ配屬同日西窪子發旅順營全二十七日旅順發廿八日大早塞小舎營一月卅一日一等症ニテ清國盛京省青泥窪兵站病院へ入院二月六日青泥窪發小ヒ十九日乘船同十日宇品歸着廣島豫備病院病氣心藏マヒニ變化シ同十三日死ス戰役ノ功ニヨ

リ金貳百四拾圓ヲ授ケ賜ハル

陸軍歩兵上等兵勲八等

小山丑太郎

明治二十八年十二月一日歩兵第十五聯隊第二中隊へ入隊同三十一年十一月三十一日現役満期除隊及善行證書ヲ賜ハル明治三十七年三月十二日克員召集ニ應ジ後備歩兵第十五聯隊第一中隊へ編入同年三月十七日横須賀守備トシテ高崎出發全年五月五日守備任解除高崎ニ歸營ス同年六月八日海外出征ノ目的ヲ以テ高崎出發全月廿五日清國盛京省着三官廟ニ上陸旅順要塞背面防禦トシテ第三軍ニ編入同年七月廿六日廿七日南盆溝標二千五百米突ノ高地ニ於テ戰闘ス同年八月十三日十四日十五日小東溝東方高地ニ於テ戰闘ス全月十九日廿日小東溝南方標高一七四高地附近ノ戰闘ニ參加ス全廿日負傷第二野戰病院へ入院同年九月十二日東京豫備病院へ入院同月廿日退院歩兵第十五聯隊補充大隊へ編入同年十二月二日上等兵申付全年十二月七日後備隊へ補充トシ高崎出發同月十六日清國青泥窪ニ上陸同月十九日後備歩兵第十五聯隊第一中隊へ編入明治卅八年一月一日前三羊頭村附近ノ戰闘ニ參與ス全月十四日ヨリ二月二十日迄旅順要塞守備全廿二日旅順出發同二十四日唐集嵩棚ニ集合全年三月三日同所出發全月七日道義屯ニ集合同八日ヨリ十一日ニ至ル間包道屯三台子利家溝附近ノ戰闘ニ參與ス同年十一月十五日

凱旋ノ爲メ鐵嶺出發同月二十七日高崎へ歸營ス後員下令ニヨリ全月三十日解散歸郷ス  
 明治卅八年十一月三十日下士適任審ヲ給ハル  
 明治卅七八年戰役ノ功ニ依リ勲八等及金貳百圓ヲ賜ワル

陸軍輜重輸卒勲八等

米澤恒市

氏ハ明治卅七年五月七日第一補充兵トシテ東京灣要塞砲兵聯隊へ充員召集同年六月一日動員下令同四日舎營地出發同六日廣島着同月十九日宇品出帆同廿九日清國塩大澳上陸之レヨリ金州ヲ經テ青泥窪へ到着之ニ於テ兵品諸材料陸揚ケ勤務ニ從事シ旅順包圍軍ノ編成セラル、ヤ第三軍攻城特殊部隊ニ屬シ戰闘序列ニ入り七月三十日大連出發東小摩子ヲ經テ長嶺子ニ前進露營ス兵品諸材料却下並ニ旅順第一回總攻撃準備トシテ奮勉ス次テ八月十八日第一回總攻撃開始ト共ニ徒歩砲兵第二聯隊へ假屬シテ西龍頭ニ前進シ第三中間廠ヨリ各中隊十五臼砲陣地へ彈藥運搬ニ從事ス全月廿八日第九師團患者輸送部之假屬シ妻家屯團山子假紮所第一野戰病院等ニ於テ專心懇切ニ患者收容輸送ス九月三日攻城砲廠ニ復歸シテ千家屯ニ轉舎ス旅順堅塞容易ニ拔クベカラザルヲ知ルヤ之ガ再舉ニ當リテハ大々的設備ヲ以テセラレセハ罽及海軍陸戰隊巨砲各要地ニ據据スルニ至ル之レニ當リ諸材料運搬百種ノ役雜ナル營役ニ星ヲ載テ出テ晨ヲ仰テ

勳勉ス次テ攻域砲廠輕便鐵道部ニ專屬シ千家屯ヲ起點トシテ鞠家屯王家甸碾盤溝ニ  
 百三高地ニ敷設ニ服ス次テ碾盤溝廿八珣構据スルヤ砲兵代務トシテ彈丸雨注ノ裡ニ  
 沈着其職ニ勵ム明治廿八年一月二日敵將降服旅順開城スルヤ全月廿八日東房身停車場  
 出發二月二日南十里ニ着シ營獨立旅團砲廠ノ配下ニ入り蛇圍子樹林子南紅綾堡廿八  
 珣砲台ヘ輕便鐵道敷設ニ從事ス砲台材料運搬ノ勤務シツ、アル裡明治三十八年九月  
 十六日休戰全十月十六日平和克復明治廿九年二月一日大連乘船同二月六日宇品上陸同  
 二月十四日屯營返着同月全日復員下令  
 明治廿九年四月一日明治廿七八年ノ戰役ノ功ニヨリ勳八等白色桐葉章及金二百圓ヲ授  
 ケ賜ハル

陸軍砲兵一等卒勳八等

中島博吉

氏外征ノ軍ニ從ヒ明治廿七年七月廿八日宇品港出帆八月一日清國青泥窪港ヘ上陸同月  
 十五日旅順背面ノ小東溝附近ノ戰闘ニ參加全月十九日ヨリ旅順戰闘ニ參與全年十一月  
 十七日全第三縱列ヘ轉隊今月十九日屯營地ヲ出發全三十八年一月廿六日ヨリ廿九日迄  
 第五第八師團ニ屬シ黑溝台附近ノ戰闘ニ參加同年二月廿七日ヨリ三月十六日迄奉天及  
 鐵嶺ノ戰闘ニ參與五月十九日ヨリ廿二日迄小二道房田附近ノ戰闘ニ參與是ヨリ蛇山溝

二明治廿九年二月七日迄滞在全月十四日清國青泥窪港出帆全月廿五日屯營地ニ着三月  
 二日復員下令全日召集解除  
 明治廿九年四月一日三十七八年戰役ノ功ニ依リ勳八等白色桐葉章並ニ金貳百圓ヲ授ケ  
 賜ワル

陸軍近衛歩兵一等卒勳八等

蘆澤孝一

明治廿三年三月第一補充兵トシテ近衛師團歩兵第三聯隊ヘ入隊全年五月廿日召集解除  
 明治廿七年九月二十日克員召集ニ應シ近衛歩兵第三聯隊第一中隊ヘ入隊同十月五日海  
 外出征ノ目的ヲ以テ屯營出發明治廿七年十月九日宇品港出帆全月十四日清國營口上陸  
 同十月二十日野戰隊第六中隊ヘ入隊明治廿八年三月一日姚千戸屯ノ戰闘全月自三日至  
 七日唐家屯北方高地ノ戰闘全三月八日大常王塞附近ノ戰闘全三月十日浦河西南高地ニ  
 於テ戰闘十一日潘家台附近ニ於テ戰闘下寺附近ノ戰闘葦塘溝之戰闘同月十六日近衛師  
 團ト鐵嶺ニ向テ追撃前進シ遼海屯石台子及千佛屯自腐子ヲ進テ八寶屯ニ着シ全地ニ  
 宿營滞在同十一月廿八日清國大連ヨリ凱旋出帆全十二月二日屯營歸着全月四日復員下  
 令同月十二日召集解除  
 明治廿七八年戰役ノ功ニヨリ勳八等及金壹百圓ヲ賜ハル

陸軍歩兵一等卒勲八等

中島章之輔

氏ハ明治卅七年八月十六日充員召集ニ應ジテ第七師團歩兵第二十六聯隊第四中隊ニ編入同年十月二十日大阪ニ向テ屯營出發同年十一月十五日大阪港出帆同廿二日清國青泥窪上陸全十一月廿八日旅順方面ニ〇三高地戰闘ノ際負傷全廿九日第一師團第一野戰病院入各所病院ヲ經テ同二十日東京戸山病院入ル明治卅八年二月九日ヨリ九十日間歸躰療養同年五月九日補充隊ニ歸隊同年十月三日解除セラレ  
明治卅九年四月一日三十七八年戰役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章並ニ金百圓ヲ授ケ賜ハル

陸軍豫備歩兵一等卒勲八等 園原寅吉

明治卅一年十二月一日第一師團歩兵第十五聯隊第五中隊へ入隊明治卅二年十二月一日一等卒申付被ル明治卅三年十月四日台灣守備歩兵第一大隊へ派遣ヲ命ゼラル明治三十四年九月四日基隆港出帆同月卅一日神戸港上陸十月三日坂隊明治三十四年十月三十日除隊明治卅七年八月四日勲旨下令全月十六日歩兵第二十六聯隊第十一中隊へ應召入隊  
明治卅七年十一月十五日大阪港出帆同廿二日清國青泥窪港へ上陸全日ヨリ第三軍下二

屬ス明治卅七年十一月廿六日旅順總攻撃ニ參加同三十日赤坂山正面攻撃ノ際左胸部貫通銃創並ニ臆下擦過絶創ヲ受ケ内地後送ノ爲メ十二月十一日大連港出帆大阪ニ上陸明治卅七年十二月十一日大阪豫備病除ニ入院五月十一日全癒復隊編入明治三十八年十月八日一時戰役ニ堪ヘサルニヨリ召集解除  
明治三十九年四月一日三十七八年戰役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章並ニ金百圓ヲ授ケ賜ワル

陸軍歩兵二等卒勲八等 下田克之助

明治三十七年九月廿二日歩兵第三聯隊補充大隊へ召集全日第五中隊ニ編入全年十二月六日野戰補充トシテ東京ヲ出發全月十一日宇品港出帆同十四日清國青泥窪上陸同十七日歩兵第三聯隊第五中隊へ編入明治三十八年三月七日八日奉天省田義屯附近ニ於テ戰闘全日負傷入院八月十一日過傷ニ付召集解除  
明治卅九年四月一日三十七八年戰役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章並ニ金百圓ヲ授ケ賜ハル

陸軍砲兵助卒勲八等 福岡米太郎

氏ハ明治卅七年日露戰役ニ付卅七年五月七日東京灣要塞砲兵聯隊へ召集同日第四中隊ニ編入全七月七日富津元砲洲台守備ヲ命セラル七月廿九日補充トシテ徒歩砲兵第一聯隊ニ轉屬ヲ命セラル同日屯營出發シ八月四日宇品港出帆シ八月八日清國青泥窪上陸九日エウジヨシ付十一日リユカトン付全日第三中隊へ編入全十二日ヨリ旅順背面梨益子西方ノ陣地ニ幕營シ全十九日ヨリ戰闘ス九月十日脚氣病一等病ニテ第二野戰病院ニ入院同月十四日内地ニ送還セラレ治療スト雖モ全治治療見込無爲明治三十七年十一月二十日召集解除セラル

明治三十九年四月一日三十七八年戰役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章並金八拾圓ヲ授ケ賜ハル

陸軍豫備役陸軍砲兵曹長勲七等

岡庭宗一

明治三十三年十二月一日徵兵トシテ近衛野戰砲兵聯隊ニ入營第二中隊ニ編入明治卅四年十二月一日砲兵上等兵ヲ命セラレ同卅五年十二月一日陸軍砲兵伍長ニ命セラレ同卅六年十一月三十日善行證書ヲ附與セラレ全日現役滿期除隊セラル明治卅七年二月十五日動員召集ヲ受ケ近衛野戰砲兵聯隊第二中隊ニ編入第一砲車長トシテ全年二月二十日東京出發征露ノ途ニ付明治卅七年三月十二日御前奉還丸ニテ宇品港出帆同月十八日

日韓國鎮南浦ニ上陸今月十九日前進全月廿一日平壤ニ着同月二十三日平壤出發今年四月廿五日九里嶋及び赤嶋攻撃ノ援助トシテ畿州東端高地ノ陣地ニ付ク全年四月廿六日ヨリ五月一日ニ到ル鴨綠江戰闘ニ參與同年六月一日任陸軍砲兵軍曹同年七月三十一日清國様子嶺附近ノ戰闘ニ參與同年八月廿三日ヨリ餘邱溝附近戰闘ニ參與中全月廿六日午前七時東新堡陣地ニ於テ負傷第一野戰病院ニ入院午後々送セラレ同年九月六日安東縣出帆全月十二日病嶋似保嶋分院ニ收容全年十一月二十九日全治退院近衛野戰砲兵聯隊補充大隊第一中隊ニ編入明治三十八年一月十一日三等給被給同年七月十日二等給被給全三十八年七月廿七日任陸軍砲兵曹長同年十二月十四日酒肴料參圓下賜セラル同年十二月廿五日役員完結補充隊解散同日近衛野戰砲兵聯隊ニ編入殘務整理員助手ヲ命ゼラル全卅九年一月十六日殘務給了召集ヲ解除セラル

明治卅九年四月一日附ヲ以テ卅七八年戰役ノ功ニ依リ勲七等青色桐葉章及金參百圓ヲ下賜セラル

陸軍豫備役砲兵伍長勲七等

山田傳治

明治三十二年十二月一日野戰砲兵第一聯隊第六中隊編入明治卅三年十二月一日砲兵上等兵申付ラル明治三十五年十一月二十四日現役滿期坂野湖治卅七年三月十二日克負野

戰死兵第一聯隊補充中隊編入明治三十七年十一月十九日任砲兵伍長明治卅八年三月三十日動員下令四月一日第十三師團彈藥大隊第二步兵彈藥隊第四小隊長トシテ編入全卅八年七月六日屯營出發全年八月八日橫濱市へ着同年八月十二日橫濱出帆全同月廿五日樺太島アルコリ上陸全同月廿六日ヨリ三十日迄テ第二アルコリ上アルムタニ糧食輸送ニ從事ス同全月三十日テルハンスコ上ニ着全地ニ滞在全年八月一日ヨリ同三十日迄上アルムタンヨリ滞在地及ビルイコフへ糧食輸送ニ從事ス同年八月一日給一等給同年九月一日アルメンスコエヲ出發全年九月四日アレキサンドロフニ着明治卅八年九月十日アレキサンドロフ出帆同年同月十四日青森市ニ上陸全年全月二十日青森市出帆同年全月廿四日野戰砲兵第一聯隊補充大隊内ニ歸還ス全年十月十七日役員下令全年十月二十七日解散除隊

明治卅九年四月一日三十七八年戰役ノ功ニヨリ勲七等青色桐葉章並ニ金百八拾圓ヲ授賜ハル

元陸軍歩兵一等卒勲八等

小池仙太郎

明治卅一年十二月一日第一師團歩兵第十五聯隊へ入營明治三十七年八月十六日第七師團歩兵第廿六聯隊へ召集入營明治卅二年十二月一日陸軍歩兵一等卒申付ラル明治三十

七年十一月十五日大阪港出帆從軍明治三十七年十一月三十日清國旅順二〇三高地ニ於テ戰闘ノ際負傷明治卅七年十二月十日宇品港着

明治三十八年三月廿九日免除退院明治三十九年四月一日三十七八年戰役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章並ニ金百圓下賜

陸軍輜重兵一等卒勲八等

岡庭春吉

明治二十八年九月十五日近衛輜重兵大隊補充中隊ニ編入全年十一月十六日歸隊ヲ命ゼラル全廿七八年戰役ノ功ニヨリ金貳拾五圓賜フ明治卅七年二月十五日應充召集近衛師團補充馬廠ニ編入新馬調教ヲ命ゼラル全年十一月十七日近衛輜重兵大隊補充中隊へ編入ヲ命ゼラル全月十九日屯營出發廿一日廣島へ着廿二日宇品港出發廿六日清國タルニ一へ着二十八日遼陽へ着廿九日英守堡へ着全日近衛第一輜重監視隊編入灰密間糧食軍需品輸送監視明治卅八年六月二十四日病氣ノ爲メ入院ス同月二十七日鐵嶺病院へ轉送全月二十九日遼陽病院へ轉送同月三十日大連出發七月一日乘船九日宇品着廣島病院へ入院全月廿一日東京へ着豫備病院へ入院八月拾五日全治退院ニ付近衛輜重兵大隊補充中隊へ定員ニ編入勤務ニ從事ス同年十月廿三日解散ヲ命ゼラル

明治三十九年四月一日三十七八年戰役ノ功ニヨリ勲八等白色桐葉章並ニ金八拾圓下賜

陸軍輜重輸卒勲八等

熊谷孫藏

氏ハ明治卅七年五月七日要塞補助輸卒トシテ東京灣要塞砲兵聯隊へ充員召集同月十九日第二補助輸卒隊へ配屬六月四日居營地出發全月九日宇品港出帆同廿三日清國三官廟ニ上陸金州ヲ經テ全二十九日青泥窪ニ着兵站輸送業務ニ服シ全月十三日第三軍戰鬥序列ニ入り七月七日攻城砲廠へ屬シ七月三十日青泥窪出發東小摩子ヲ經長嶺子ニ前進八月拾八日ヨリ徒歩砲兵第二聯隊各陣地間彈藥輸送ノ爲メ臨時第二聯隊へ配屬セラレ全月廿四日迄其業務ニ服シ全廿四日當聯隊指揮ヲ脫シ同廿五日第九師團患者輸送部ニ入り九月三日迄患者輸送ニ從事シ同九月三日當輸送部ノ指揮ヲ脫シ第一攻城砲廠ニ服歸シ千家屯ニ前進シ輕便鐵道及ビ彈藥輸送業務ニ服ス明治三十八年三月一日北進ヲ命ゼラレ同月三日鐵路遼陽州南十里河ニ着シ獨立野戰重砲兵旅團砲廠ニ屬シ戰鬥勤務ニ服シ同五月十二日奉天前進砲廠勤務ニ屬シ明治卅九年二月廿八日奉天出發三月二日大連ヨリ乘船同月六日宇品ニ上陸同月十日東京灣要塞砲兵聯隊ニ着シ全月拾四日服員

陸軍輜重輸卒勲八等

佐々木達吾

明治卅八年二月三日輜重兵第一大隊補充隊へ召集全月十九日東京發全廿一日廣島着全

陸軍騎兵一等卒勲八等

山田爲治郎

二十二日宇品港出帆二十六日大連灣上陸々路ヲ經テ三月二十日清國盛京省小瓦勾子ニ於テ第一師團第五補助輸卒隊ニ着四月四日小瓦勾子發朱家屯唐家屯三家子灰密英守堡ヲ經テ四月七日孫家寨着同十七日全地發岷眉庄着五月十九日岷眉庄發遼陽炭坑拉山子上高力勾ヲ經テ二十日候家屯着六月拾九日全地發唐家屯朱家屯季石寨渾河連日灣歌起屯衆家屯張家樓子ヲ經テ六月廿四日鐵嶺着同日滿州軍倉庫鐵嶺支庫付被命温家庄子ニ於テ勤務七月五日后八里庄ニ移宿十二月八日鐵嶺發同十一日大連出帆拾五日宇品港返着同廿日廣島發廿二日品川着全年十二月廿三日復員下令同廿五日召集解除

○日露戰役ノ勲功ニ因リ色白桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セララル

陸軍歩兵一等卒勲八等

関口久吉

○明治三十七八年戰役勲功ニ因リ白色桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セララル

陸軍輜重輸卒勲卒八等

原重太郎

○戰役勲功ニ因リ白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セララル

陸軍輜重輸卒

原田千藏

○三十七八年戰役功勞ニ因リ金五拾圓ヲ下賜セララル



下條村部

陸軍歩兵中尉功四級

細田惣吉

明治拾四年貳月拾八日其家ニ生ル明治廿一年四月陸澤尋常小學校へ入學シ全廿五年參月卒業ス廿五年四月ヨリ全廿六年參月迄補習科ヲ修業ス廿四年四月品行方正學業篤志ニ就キ當郡長伊谷備殿ヨリ日本地圖ヲ拜授ス廿五年參月尋常卒業ノ際學力優等ニ付キ校長藤枝利市殿ヨリ賞品ヲ拜授ス廿六年四月ヨリ廿九年十二月迄農業ニ従事ス明治卅年壹月ヨリ東京へ出行シ今年三月迄漢數英學ヲ研究ス卅年四月東京神田區大成學館へ入學シ卅壹年參月卒業ス卅壹年四月ヨリ同年八月迄在東京ニテ遊學ス卅壹年九月東京中央幼年學校へ入學卅四年四月卒業ス卅四年五月ヨリ同年十月



細田惣吉君

二月迄士官候補生ト爲リ仙臺歩兵第四聯隊へ服隊ス卅四年拾貳月士官學校へ入學シ卅五年拾壹月卒業ス明治卅五年十二月ヨリ仙臺歩兵第四聯隊第七中隊へ編入ス卅六年六月歩兵少尉ニ任セラレ同拾月正八位ニ叙セラル卅七年貳月五日露戰役ニ就キ動員下令シ歩兵第四聯隊第七中隊第二小隊長ニ任セラレ同三月一日仙臺出發途上ス卅七年三月十九日廣島宇品港解纜シ同廿四日韓國鎮南浦へ上陸シ四月廿日鶴綠江左岸ナル青田里ニ着シ始メテ敵ト相對峙シテ前哨勤務ス卅七年四月廿日義州ヲ發シ江ヲ涉リ五月一日ノ九連城攻撃ニ參與ス同日氏ハ銳意猛進未明ヲ期シ決死十三名ヲ率エ駿河ヲ渡涉シ敵ヲ偵察セシ勲功ニ因リ軍司令官黒木大將ヨリ感狀ヲ拜授セラレ同日安東縣ヲ占領ス卅七年五月六日鳳凰城ヲ占領シ同年六月廿三日迄同所附近ニ前哨勤務シ始終敵ト衝突ス全廿四日鳳凰城ヲ出發シ六月三十日摩天嶺ヲ占領シ同所守備中七月拾七日敵將ケルレル中將ノ逆襲ニ際シ之ガ擊退ニ參加ス七月廿一日様子嶺ヲ攻撃シ八月廿五日ヨリ九月四日迄遼陽ノ戰爭ニ參與シ拾月九日迄沈家溝附近ニ前哨勤務ス拾月拾日ヨリ沙河戰ニ參加シ全十一月二日ノ城子山攻撃ニ當リ左腿隱へ貫通銃創ヲ負ヒ入院後送セラレ拾壹月二日大連港出帆シ五日廣島へ上陸シ豫備病院ニ収容セラレ拾壹月拾壹日以來仙臺豫備病院ニ治療シ十二月十一日退院シ歩兵第四聯隊補充大隊第七中隊ニ編入ス明治三十八年二月二日中尉ニ昇進シ全月廿三日再征ノ下令ヲ得テ仙臺出發同廿七日宇品港

出帆三月一日清國大連港ニ上陸シ全十三日奉天戰闘中歩兵第四聯隊ニ到着シ同日大隊副官ヲ命ゼラル全年三月十四日張家樓子附近ニ戰闘シ同廿六日鐵嶺ヲ占領シ六月十一日二道溝開原ヨリ東北約八里附近迄前進シ爾來全地ニ前哨勤務ス三拾八年拾月拾六日平和克復ニ付キ凱旋ノ爲メ同拾貳月拾日當地出發同拾八日大連港解纜出帆シ全月廿一日廣島宇品港へ上陸シ全月廿七日仙臺へ到着メ明治參拾九年四月貳日復旨下令シ全二月十八日第一大隊副官ヲ交代シ第八中隊付トナリ以來勤務ス

明治廿七八年戰役殊勲ニ依リ功四級命賜勲章及旭章卅九年十二月二十日ヲ以テ下賜セラル

編者曰ク僅々十餘尺ノ建碑千萬方里ニ其大礙ヲ定ムルガ如ク中尉生レナガラニシテ英名潤達ナリト雖モ斯ク僥名ヲ一躍天下ニ轟カス所以ノモノハ深ク由テ來ル所アルナリ

明治廿五年ノ頃常陸澤小學校長兼訓導タリシ藤枝利市氏清願碩徳ノ人常ニ子弟ヲ薰陶シテ曰ク畏クモ我皇國二千五百有餘年武ヲ以テ樹テ嘗テ一回ノ夷辱ヲ受ケシコトナク維新ノ後更ニ兵馬權民間ニ移リ則チ士農工商悉ク兵タラザルハナキ現時ニ有リテハ汝等宜シク壯齡ニ至ラバ奮勵能ク身命ヲ君國ニ捧ゲ 御聖慮ヲ安シ奉ルベシト旦夕黃陶指導ノ結果中尉ハ決然トシテ起ケ卅一年九月東京中央幼年學校ニ投ジ階級ヲ進ヒ時機英傑ヲ生ズルノ機關ニ遭遇シ實ニ此名譽ヲ博スル所以ナリメカニク亡ビテシヤ

カド繼グガ如ク師ハ子弟ニ其精心ヲ傳ヘ門下人材ヲ出シ始メテ師ノ成功ト云フベキナリ

陸軍三等軍醫正八位 代 田 英 夫

明治三十七年岡山醫學專門學校卒業十二月二十日現役見習醫官拜命第五師團歩兵第四十二聯隊補充大隊ニ配屬爾來軍醫ノ勤務習得明治三十八年三月七日任陸軍三等軍醫廣島豫備病院附被仰付同年四月二日廣島豫備病院附被免歩兵第四十二聯隊補充大隊附被仰付四月十二日叙正八位四月十五日全隊衛生委員並酒保委員被命四月三十日看護學修業兵教育教官代理命被ル五月拾日担架卒教育教官代理被命六月廿二日歩兵第四十二聯隊補充大隊附被免歩兵第四十二聯隊附被仰付七月一日同隊出發七月八日宇品港出帆七月十二日大連港上陸全月十八日歩兵第四十二聯隊ニ到着同日第一大隊付被命爾來清國盛京省昌圖府附近ニ宿營シテ第一線勤務ニ從事ス自七月二十三日至全月二十九日昌圖北方長青堡ニ於テ最前線勤務八月二日第一大隊附被免第二大隊附命セララル八月十四日二十里堡戰闘ニ參與ス其他前後一二ノ偵察戰ニ隨從セリ八月九月ノ頃常師管内俾梁病流行ニ際シ極力之ガ撲滅ノ任ニ當ル十二月凱旋ノ命ニ接シ全月十七日大連先發出張員ヲ被命全日昌圖府出發大連ニ向フ聯隊ノ全部乗船ト全時ニ同月二十五日大連出發凱旋ノ

途ニ就ク同月廿九日宇品港上陸同月卅一日廣島出發翌明治卅九年一月一日山口へ凱旋  
全月五日聯隊全部復員完結ス同月拾日歩兵第四十二聯隊附被補

陸軍補助輸卒隊勲八等

熊谷孫吉

明治三十八年二月拾日動員下令トナリ同十三日騎兵第十六聯隊補充中隊充員召集ニ應  
ズ全日第一師團第十九  
補助輸卒隊へ編入シ拾  
日間ノ練習ヲ受ケ全月  
二十六日千葉縣津田沼  
ヲ出發シ三月一日廣島  
着全二日第十五觀音丸  
塔乘廣島縣宇品港出帆  
同月八日清國盛京省青  
路修築工事勤務ス五月一日馬郡丹兵站部配屬換同月三日鳳凰城出發同拾壹日馬郡丹  
着馬和寺三龍谷間輸送勤務全月二十二日馬郡丹司令部官ノ指揮ヲ脱シ第一手押式輕便  
鐵道班へ配屬トナリ同廿四日馬郡站出發撫順着同廿八日ヨリ撫順英領城間輕鐵路盤ニ



熊谷孫吉君

從事シ八月廿二日英領域到着同貳拾七日工事竣工九月二日近衛第四内桶兵站司令部へ  
所屬換九月七日英領域出發八家子着八家子英領域同地ニ道河子全地風倒樹溝間輸送勤  
務中十月五日滿州軍總兵站監ヨリ本隊へ賞狀ヲ賜ワリ朗讀拜聽拾月十六日平和克復拾  
壹月貳拾四日近四内桶兵站司令部官ノ指揮ヲ脱シ同日八家子出發全月三十日新宿營地下  
王家匂ニ到着卅九年二月廿二日當地出發同月二十四日大連着全貳拾五日大連ニテ乘船  
貳拾八日宇品港上陸三月三日廣島發全六日高崎到着同九日解散同十四日着宅セラレタ  
リキ氏ハ敵愾氣象ヲ以テ甲冑ヲ裝シ愛國ノ情神ヲ以テ銃劍ヲ採ル故ニ銃ヲ挫ギ難ヲ  
排シ彈丸燭烟ヲ凌ギ命ヲ瀕毛ノ輕キニ比シ義ヲ泰山ノ重キニ置キ滿州ノ野ト風餐露  
宿スルト雖モ寸毛ノ病傷ナク殊功ヲ樹ラシタリ聊後輩ニ示サントスル所ナリ  
○日露戰役ノ功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍後備役輜重兵軍曹勲七等

川上龜市

明治廿七年徵兵同三十年十一月卅日現役滿期除隊トナル同時善行證書附與セラル全廿  
九年三月卅一日明治廿七八年戰役ノ功ニ依リ命廿五圓ヲ賜ワル同時從軍記章ヲモ賜ワ  
ル明治卅七年三月六日動員下令ニ付キ召集トナリ全十二日輜重兵第一大隊ニ入隊シ同  
時補充隊ニ編入現役輸卒教育掛ヲ命ゼラル爾後教育ニ從事シ同年十月三日輜重兵伍長

二任ゼザレ全拾月廿八日野戰補充員ノ引卒ヲ命ゼザレ同日屯營出發品川ヨリ鐵道輸送全卅日廣島着十一月二日宇品港出帆河六日清國大連港ニ上陸ス同七日鐵道輸送ニテ遼陽ニ向イ出發シ八日遼陽着九日徒歩ニテ湯河沿兵站司令部ヲ經テ孫家寨ニ着シ第五補助輸卒隊ニ補充ヲ引渡拾日大安平兵站部ヲ經テ黃泥崗ニ着シ第四補助輸卒隊ニ補充ヲ引渡シ任務終了全拾壹日同所滞在同拾貳日大安平兵站司令部ヲ經テ遼陽ニ飯リ乘車青泥窪ニ着シ全日乘船シ全二日宇品港ニ上陸シ廿四日歸隊スルヲ明治港出帆シ十一日韓國元山港ニ上陸シ徒歩ニテ北韓ニ向テ出發シ各所ノ兵站司令部ヲ經テ八月十六日富寧府ニ着シテ全所ニテ補充人馬ヲ交附シテ任務終了シ同所ニテ一日滞在シ十八日出發各所兵站司令部ヲ經テ九月八日城津港ニ飯リ同所ニ十二日迄滞在シ十三日全所出帆シ全日元山港ニ上陸シテ十九日迄全所ニ滞在シ二十日同所出帆シ同貳



川上龜市君

廿八年五月一日一等給ヲ給セラル全年六月二十八日野戰補充人馬引卒ヲ命ゼザレ全日屯營出發品川ヨリ鐵道輸送全卅日廣島着七月五日迄廣島滞在シ七月六日宇品

拾四日宇品港ニ上陸シ廿五日廣島ヨリ鐵道輸送ニテ二十七日飯隊スルヲ全年九月十四日輜重兵軍曹ニ任ゼザル明治卅九年一月十九日召集解除トナル

陸軍歩兵一等卒勲八等

吉村秀市

明治拾六年拾貳月三日生明治卅八年二月拾四日召集下令同二十一日高崎歩兵第十五聯隊補充大隊第二中隊ニ入隊ス同年五月廿六日野戰隊ノ補充トシテ出發全廿六日廣島着全三十日宇品港出帆全年六月三日清國盛京省大連上陸同月十一日野戰歩兵第十中隊へ編入清國奉天省孤樹子ニ於テ勤務全年十一月十四日一等卒ニ任ゼラル明治卅九年一月十七日孤樹子ヲ出發シ全月廿三日大連港出帆同月廿六日宇品港上陸全月卅一日廣島出發同二月三日高崎屯營飯着全月六日役員下令全月八日召集解除ニテ十二日飯隊ス同年八月二十五日官報ヲ以テ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ同年十月廿五日ヲ以テ授與セラレ

陸軍輜重兵

鎮西笹市

氏ハ今回日露役起ルヤ充員召集ニ應シ明治三十八年二月三日輜重兵第一大隊補充中隊へ入隊全年二月十九日屯營出發シ全廿二日宇品港出帆ニテ全二十五日清國大連ニ上

陸シテ金州城ニ滞在ス同二十八日當地ヲ發車シ遼陽ニ下車ス三月十二日本隊ニ加ハリ  
 順次各所ノ糧秣輸送勤務中歩兵少佐淺野丈夫殿ノ馬卒ニ撰定サレ不幸ニシテ七月三十  
 日病氣ニ罹リ野戰兵站病院へ後送セラレ九月四日大連出帆同八日宇品港ニ上陸廣島豫備  
 病院へ收容サレ九月十一日廣島發車全十三日東京澁谷分院ニテ治療ヲ受ク十二月五日  
 ヨリ向六十日間ノ歸郷療養中召集解除ヲ命セラル目下快復シテ熱誠業務ニ從事ス  
 ○戰役功勞ニ因リ金五拾圓ヲ下賜セラル

## 陸軍歩兵隊勲八等

## 熊谷 兼太郎

氏ハ明治二十年十二月一日徵兵トシテ歩兵第拾八聯隊第十二中隊へ入營全廿三年九月  
 三十日滿期除隊二十五年十月三日復習トシテ歩兵第十五聯隊第十二中隊へ入隊全十日  
 ヨリ機動演習並ニ特別大演習トシテ栃木茨城縣下へ出張全二十七日歸隊全日解散日露  
 戰役ニ際シ明治卅七年十二月十四日充員召集ノ爲メ後備歩兵第四十九聯隊第九中隊へ  
 入隊同三十八年一月二十日海外出征ノ目的ヲ以テ屯營ヲ發シ同廿二日廣島着同廿六日  
 宇品港江戶丸ニテ出帆二月一日清國柳樹屯ニ上陸シ翌日ヨリ金州普蘭店役州熊岳城  
 蓋平海城沙河鎮ヲ經テ全十九日高老庄着全十八日第一師團輜重援護ノ任ニ服ス同十九  
 日渾河左岸富家窩棚ニ着駐屯ス三月八日當地發馬家堡子ヲ經テ九日北大勾着駐屯四月

二十日出發同廿五日後三台子着軍ノ側背及ビ遼河水路運輸援護ノ任務ニ服ス五月十九  
 日出發同日牛具堡子着守備任務ニ服ス全二十日ヨリ二十二日迄牛具堡子附近ノ戰鬥ニ  
 參與シ全二十九日守備警戒ノ爲メ餘家窩棚ニ移リ六月一日丁家房ニ移ル六月十六日ヨ  
 リ大派家子兵站司令官ノ指揮下ニ屬シ前進シテ半崑山子へ着守備ス九月十九日一等症  
 教手堡子患者療養所入院十月三日大連兵站病院入院十月七日大連出帆同十一日宇品港  
 上陸全日廣島豫備病院收容十一月廿二日東京豫備病院收容全三十日全治退院全日歩兵  
 第一聯隊補充大隊第一中隊へ編入三十八年十一月二日役員下令解散ヲ命セラル  
 ○戰役勲功ニ因リ勲八等瑞寶章及金八拾圓ヲ下賜セラル

## 陸軍輜重兵隊勲八等

## 熊谷 清市

氏ハ明治三十六年十一月一日輜重兵第一大隊へ編入シ三十七年二月六日充員下令ニ付  
 近衛師團馬廠隊ニ編入セラル全二十四日東京ヲ發シ全十七日宇品港ヨリ能登丸ニテ出  
 帆シ廿四日韓國鎮南浦ニ上陸ス瀧岡江西洞平壤ヲ經四月一日順安ニ着ス同七日ヨリ肅  
 川安州嘉山定州宣川各地ヲ經テ十七日批頓間揚里ニ滞在ス四月三十日當地ヲ發シ五月  
 一日鴨綠江九連城戰鬥ニ參加ス砂河鎮湯山城ヲ經テ十一日高力古城ニ着ス六月二十四  
 日發ニテ鳳凰城高家店四門子東方流河ヲ經テ八月十四日東部罪家堡子着九月二日發ニ

テ塔灣貨部溝張子山陽河ヲ經テ全五日蕩山ニ着ス十九日ヤエチノヲ經ラコマノスワシ  
 到着二十三日常大室移宿廿八年三月二十五日常地ヲ發シ二十七日二道溝ニ着ス五月六  
 日發ニテ八日催陣堡着七月十一日吳家堡着同二十八日英守屯八月五日兼子園九月十日  
 羊馬堡子十二月二日鐵嶺全六日大連ヨリ佐渡丸ニテ出帆シ九日宇品港ニ上陸ス十四日  
 廣島發車ニテ十七日東京ニ凱旋ス十二月廿八日解散ヲ命ゼラル  
 ○戰役勲功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒隊勲八等

串原圓市

氏ハ明治三十七年十  
 一月十三日輜重兵第  
 一大隊補充中隊ニ入  
 營シ全廿五日出征ノ  
 目的ヲ以テ屯營ヲ出  
 發ス同二十七日廣島  
 二達シ二十八日宇品  
 港ヲ出帆シテ十二月  
 二月卅一日參謀部附細野大尉殿ノ馬卒ヲ申付ケラレ熱心ニ從事ス三月一日當地ヲ發シ



串原圓市君

一日大連ニ上陸ス三  
 日常地ヲ出發シテ四  
 日遼陽ニ着シ宿營ス  
 五日發足シテ煙台ニ  
 着六日當地ヲ發シテ  
 軍司令部前所有地台  
 勾ニ着ス命ニ依テ八  
 日管理部ニ配屬シ十

前黃花屯着ニテ滞在ス八日當地ヲ發シ荒山ヲ經テ張者水屯ニ着ス晝夜行軍シ十日  
 備十四旅團司令部所在地小石 二達ス當日當地ヲ出發シテ魚鱗堡ニ着シ奉天附近ノ大  
 會戰ニ參與シシテ十一日福陵ニ着ス十八日發足シテ義家各所ヲ經テ二十九日王家河子  
 二達ス五月三日當地發ニテ鐵嶺ニ到着ス四日梅家寨ニ着ス此時町田少佐殿ノ卒ト移變  
 ス六月九日當地發ニテ開原北門街ニ着ス三十九年一月四日凱旋ニ付當地發ニテ仲因ニ  
 着ス七日乘車行軍ニテ九日九連ニ達シ十日安藝丸ニ乘船ニテ出帆宇品ニ上陸廣嶋ニ舍  
 營ス十五日當地ヲ發車シ十七日東京新橋ニ凱旋ス拾八日復員下令廿三日解散ヲ命セラ  
 ル

○明治卅七年戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒

木下數一

氏ハ卅八年二月十一日歩兵第十五聯隊補充大隊第二中隊ニ入營シ五月十九日屯營出發  
 シ全日廣島ニ着ス二十三日宇品港ヲ出帆シテ二十七日清國大連ニ上陸ス卅一日同地ヨ  
 リ乘車シ六月一日鐵嶺ニ到着ス漸次行軍シテ全二日孤家子ニ於テ後備歩兵第十五聯隊  
 第三中隊ニ編入シ三日同地ヲ出發シテ東馬家窩棚ヲ經テ柳家屯ニ着ス六日午后七時ヨ  
 リ我が中隊ハ前哨勤務ニ服シ七日三家子ノ戰鬪ニ參與シ當地ヲ占領ス八日技隊ノ收容

任務ニ就ク七月五日鎮拿溝ニ着シ十六日發シテ洞岳山ニ於ケル豫備隊トナル紅家屯ニ  
 前進シテ前哨任務ニ服ス遼河附近ノ警戒ヲ保ツ同日十六聯隊ト交代シテ宿營ス全廿七  
 日沙田定溝へ歸宿シテ滞在ス九月拾六日平和克復令アリ十一月八日凱旋ニ付當地ヲ發  
 シ鐵嶺ニ着ス十五日鐵嶺ヲ乘車シ十七日金州ニ下車ス柳樹屯ニ向テ行軍シ十八日當地  
 ヨリ出帆シテ神戸港和田岬ニ上陸シ檢査官行神戸ニ宿舎ス二十五日當地ヲ乘車シ廿七  
 日編成地ニ凱旋ス三十日役員下令トナリ解散ヲ命セラル  
 ○戰役功勞ニ依リ金五拾圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重兵隊勲八等

古田 國太郎

氏ハ明治三十七年三月六日第一師團動員下令同九日輜重兵第一大隊へ召集セラレ全日  
 第三糧食縱列ニ編入シ四月三日東京ヲ出發シテ全日廣島縣佐伯郡草津村ニ着ス六月五  
 日宇品港ヲ出帆シ全九日清國盛京省塩大澳三宮ノ廟ニ上陸ス同十四日金州ヲ經テ蘇家  
 屯ニ着ス同二十日大毛家營ニ轉進シ七月三日大辛家子ニ轉進シ爾后夏水屯倉庫前草鎮  
 堡兩野戰倉庫間ノ糧食輸送勤務ニ服ス七月二十七日ヨリ廿九日ニ亘ル營城子双台溝附  
 近敵陣地ヲ攻略シ糧秣輸送ニ從事ス三十一日兩沙崗子轉進シ營城子双大溝后沙包門ノ  
 糧秣ヲ輸送ニ服ス八月九日九家屯ニ轉進シ長嶺子后沙包間ノ糧食輸送ニ服ス九月十九

日ヨリ廿三日ニ亘ル第二次旅順攻撃ニ參與ス十一月廿六日ヨリ十二月六日ニ亘ル第三  
 次旅順二百〇三高地攻撃ニ參與ス十二月三十一日松樹山攻撃ニ參與ス三十八年一月二  
 日陥落占領ス一月廿一日北進ノ目的ヲ以テ第一師團第三師團編入金州普蘭店熊蓋平  
 海城ヲ經テ二月六日西関山子ニ着ス全十九日列家柁子ニ轉進シ全二十七日ヨリ奉天攻  
 圍ノ目的ヲ以テ遼河左岸ヲ前進シ三月七日ヨリ同十日ニ亘ル奉天附近ノ大會戰ニ參與  
 全十七日三家子ニ轉進馬三家子鉄爐甫間及ヒ前孤家子間ノ糧秣輸送ニ服ス四月十二日  
 王台子ニ轉進シ古城子倉庫ヨリ四家子倉庫間糧秣輸送勤務ニ服ス五月三日右孤家子ニ  
 轉進シ通江口ヨリ頭台子前孤家子馬家崗子錢家屯間糧秣輸送勤務ニ服ス九月十六日休  
 戰ニ依リ同十月十六日平和克復十一月五日ヨリ焦家崗子家窩棚師團野戰倉庫ノ糧秣輸  
 送勤務ニ服ス三十九年一月十五日凱旋ニ付鐵嶺ヲ發車シ同十六日大連ニ着ス二十日全  
 地ヲ出帆シ二十四日宇品港ニ上陸廣島ニ宿舎ス同二十六日廣嶋ヲ發車シ廿八日東京凱  
 旋ス全三十日役員下令ニ依リ二十一日召集解除トナル  
 ○戰役勲功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラル

野戰砲兵勲八等

飯島 千代助

氏ハ明治三十七年四月二十日教育召集トシテ野戰砲兵第一聯隊補充大隊第二中隊へ入

營全年九月二日補充トシテ野戰砲兵第一聯隊へ編入外征ノ爲メ全日砲營出發同七日宇品港出帆全十一日清國盛京省青泥窪ニ上陸全十二日野戰本隊ノ段列ニ編入九月十九日ヨリ二十二日迄寺兒溝西北方高地ニテ戰闘ニ參與ス十月廿二日第二回旅順總攻撃ニ參與ス十二月五日標高二百三高地ニ於テ戰闘ニ參與ス十二月二十七日一等卒甲付ラル同月廿一日松樹山攻撃ニ參與ス三十八年三月二日三日沙嶺堡附近ニ於テ戰闘ニ參與ス全七日五台子附近ニ於テ戰闘ニ參與ス同八月九日十日田殺屯附近ノ戰闘ニ參與ス五月十一日一等症慢性胃加答兒ニ依リ第三野戰病院ニ入院全十七日後獅子谷患者宿泊所へ轉送六月七日奉天兵站病院ヨリ全治退院全十一日坂隊六月十四日法庫門第四野戰病院ニ入院病者未定六月二十九日全治退院八月七日第一師團機關砲隊へ轉出同年十月十五日解散全十一月四日坂隊十月十六日平和克復三十九年一月二



飯島千代助 若

十四日大連出帆同二十八日宇品港へ上陸二月五日編成地へ凱旋二月八日役員下令二月十一日解散ヲ命セラル

故陸軍歩兵功七級勲八等 木下 鑑太郎

明治卅一年十一月一日歩兵第十五聯隊第四中隊へ入營三十三年十一月三十日坂隊除隊ヲ命セラル全日善行證書ヲ賜ル日露役起ルヤ三十七年二月十五日充員召集ニ應シ近衛歩兵第三聯隊第十一中隊へ入隊二月廿二日東京發三月十五日宇品港出帆同二十日韓國鎮南浦上陸五月一日九連城及ヒ蛤嶼塘附近ノ戰闘六月廿六日四門子附近ノ戰闘七月廿一日様子嶺附近ノ戰闘八月二十四日二道河附近ノ戰闘同二十五日キシンスイ及ヒ大甸子附近ノ戰闘全二十六日廿七日愛家嶺大桐屯高峯寺附近ノ戰闘同廿八日四方台附近全二十九日徐家溝附近同三十日徐家溝及ヒ孟家房附近ノ戰闘ニ從事又同三十一日九月一日ヨリ五日迄遼陽附近ノ戰闘ニ參與ス十月拾一日老若谷北方高地戰闘拾二日老若谷北方高地夜襲ノ際戰死ス十月二十三日御發投マテ中隊長歩兵大尉尸川柳吉殿ヨリ鄭重ナル見舞狀ヲ賜ハル一月十七日遺物着三十八年二月十二日葬儀執行當郡長代理出張シ其他役場員一同本村學校校長始メ生徒一同參拜各僧侶二十六名ニテ稱名ヲ昌ヘ依テ故護國院忠道發費居士功七級金鵞勲章及ヒ白色桐葉章一時金五百貳拾圓ヲ賜ル葬儀料拾八圓



ヲ賜ル年金五拾五圓ヲ賜ル御通知ニ接シタリ

陸軍歩兵一等卒勲八等

宮 島 綱 吉

氏ハ明治三十七年九月二十二日補充召集ニ應ジ歩兵第三聯隊補充大隊へ入營同日第三中隊へ編入全年十一月五日戦闘射撃及ビ野外演習ノ爲メ千葉縣習志野原へ出張全月十四日坂營三十八年一月十八日後備歩兵第五聯隊へ轉出同年一月二十一日外征ノ目的ヲ以テ屯



宮 島 綱 吉 君

三日大石橋着鐵道守備同廿四日旅順着要塞守備ニ任ヌ十一月八日旅順發十一月十日大連出帆全十四日宇品港上陸十一月十六日廣島發車全十八日東京へ凱旋ス十一月二十八日復員解散ヲ命セラル三十八年二月二十六日歩兵一等卒申付ラル  
○戦功ニ依リ勲八等瑞寶章及金七拾圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒勲八等

福 澤 鹿 太 郎

明治三十三年六月一日近衛輜重兵大隊第一中隊へ編入同年八月三十日在營滿期ニ付除隊明治三十七年二月十五日充員召集近衛輜重兵大隊補充中隊へ編入同年二月二十五日過員ニ付召集解除

出 戦 務

明治三十八年二月十四日應召全日臨時兵站電信隊へ編入全月十八日東京出發全二十日宇品着同廿一日同地出帆同二十五日清國柳樹屯へ上陸全年三月二日出發金州皮子窩大孤山ヲ經テ三月十四日鳳凰城ニ着全月十六日出發察馬集ヲ經テ同二十日減廠ニ着シ同附近ノ電信架設及撤収ニ從事ス四月廿六日減廠ヲ出發大壺籠溝附近ノ架設ニ從事シ五月十五日永陵ニ到着全廿四日ヨリ興京城間ノ架設ニ從事同年六月一日ヨリ古城道化簡架設ニ從事シ全十五日興京ニ歸着全六日ヨリ廿五日迄永陵附近ノ電話隊増設架設ニ從事ス同二十七日ヨリ七月八日迄永陵八家子間ノ軍用線修理材料輸送ニ從事ス全七月十日ヨリ十八日迄旺清灣甸子間半永久線架設材料輸送ニ從事ス七月二十日ヨリ同二十日迄灣甸子二道河子間半永久線架設材料輸送ニ從事ス八月五日ヨリ六日迄四道溝嶺灣甸子間ノ架設材料輸送ニ從事ス全十五日ヨリ十八日迄灣甸子八家子間ノ臨時線架設

材料輸送ニ從事ス十月廿一日ヨリ廿五日迄灣甸子ニ道家子間ノ撤收材料輸送ニ從事  
 ス十月二十七日灣甸子四道溝嶺間ノ撤收材料輸送ニ從事ス十月卅一日ヨリ十一月一日  
 迄四道溝嶺風倒樹溝間ノ撤收材料輸送ニ從事ス十一月六日ヨリ七日迄風倒樹溝八家子  
 間ノ撤收材料輸送ニ從事ス全十三日八家子出發全二十日王家屯ニ着ス卅九年二月十七  
 日木廠奉天西門外間ノ電話撤收ニ從事ス三十九年二月廿一日王家屯出發同月二十五日  
 大連出帆三月一日宇品港上陸全七日東京ニ凱旋全十五日解散明治卅九年三月一日鴨綠  
 口軍臨時兵站電信隊長蔭山榮太郎閣下ヨリ賞狀ヲ授與セラル

賞 狀

陸軍輜重輸卒勲八等

福澤鹿太郎

右之者明治三十八年二月十四日當隊ニ屬シ出征以來僻遠荒陬ノ地ニ於テ涸寒隆暑ヲ冒  
 シ艱楚欽之ニ耐ヘ終始不渝最モ困難ナル輸送業務ニ奮勵從事シ常隊ノ業務ニ貢獻セシ  
 所多大ナリトス依テ茲ニ賞狀ヲ附與ス

明治三十九年三月一日

鴨綠江軍臨時兵站電信隊長蔭山榮太郎(印)

明治卅八年三月廿八日召集歩兵十五聯隊補充大隊第四中隊ニ入隊シ卅八年五月廿五日  
 二泊行軍トシテ埼玉縣大里郡寄居町及深谷町地方へ出張廿八日飯營及六月十六日第二  
 中隊ニ轉出全七月廿七日野營演習トシテ北佐久郡西長倉村連分ニ出張向八月十六日飯  
 營全八月廿三日我中隊ハ七中隊ト改ム全九月廿八日演習トシテ藤岡本庄町地方ニ出張  
 同卅日飯營同十一月二日召集解除

陸軍補充歩兵

松井義雄

陸軍歩兵上等兵勲八等

森本福市

○勲功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍補充兵

宮島定作

○勲勞ニ依リ金參拾五圓ヲ下賜セラル

陸軍補充兵

福島年

○勲勞ニ依リ金參拾五圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵上等兵勲八等

申原數雄

○明治卅七年。八年戰役ノ勲功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒勲八等 福島安彌

○明治卅七。八年戰役ノ勲功ニ依リ白色桐葉章及金百五拾圓ヲ下賜セラル 塩澤登

陸軍輜重輸卒勲八等 新井喜郎久

○明治卅七。八年ノ戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セラル 辻本秀矩

陸軍歩兵補充兵 菅沼高

○勲勞ニ依リ金參拾五圓ヲ下賜セラル 佐々木清治郎

陸軍歩兵補充兵 細田寅太郎

○勲勞ニ依リ金參拾五圓ヲ下賜セラル 陸軍歩兵勲八等

陸軍輜重輸卒勲八等 陸軍歩兵勲八等

○日露戰役ノ勲功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒

○勲勞ニ依リ金參拾五圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵勲八等

○戰役ノ功ニ依リ勲八等瑞寶章及金七拾圓ヲ下賜セラル

市田村之部

陸軍歩兵中尉勲六等 小室唯七

卿ハ智情意圓滿ニシテ一擲一笑嬰兒ヲ放慕シ一叱スレバ恰モ猛虎ノ嘯ヲ負フテ腥風ヲ呼ビ蛟龍ノ地中ニ雲雨ヲ望ムガ如ク家ニ有ツテハ能ク兩親ニ仕ヘ外ニ出テハ市民ヲ愛シ南信男兒ノ模範タルナリ中學ヲ卒業スルヤ決然軍隊ニ入り一躍陸軍歩兵中尉ニ昇進セラル

明治卅七年八月十六日充員召集ニ應ジ后備隊ニ編入セラレシヨリ札幌區内ノ民家二十有餘日滞在セラレテヨリ以米卿ノ手ニノル雜感其他ヲ茲ニ記ス

官舎生活

(中尉殿稿)

時期到采シテ今ヤ兵舎内ニ移轉セントスルニ當リ余等ノ結切リヲモ解カルルコトナリヌ、月寒兵舎ハ札幌ヲ東南ニ去ルコト一里餘開招ノ日淺クシテ人家未ダ洽カラズ、將校以下官外居住者ノ不便ヲ感ズルコト極メテ甚シ、コレ北海道一般ノ例ニ習ヒテ官舎ノ設立セラレタル所以ナリ、官舎ハ兵營ノ西ニアリ上長官士官準士官等ノ爲メ大小ノ官舎棟ヲ並メテ築設セラレ各官舎殆ト相似タル構築法ニヨリテアガカモ規矩整タル一小市街ナリ、室蘭街道ノ東兵營南門ノ外ニ巍然タル一棟健築物ヲ見ル外觀ノ壯大雄

美ナル群雜中一鶴ニ接スルノ感アルモノコレヲ合同官舎トス獨身將校ノ集リテ生活スルニ供セラレタルモノナリ、内部ハ南、中、北、三通ニ分カテ各數室ニ區分セラレル外ニ娛樂室アリ客室アリ浴場洗面所アリ日用品ノ分配所ニハ番卒ヲ置キテ其任ニ當ラシム余ハ十月廿八日ヲ以テココニ生活スルコトトシ六疊ノ二間ニ一切ノ用具ハ完備セリ此日ヨリ余ハ始メテ一所帶持テトナリタリ、購入シタル所帶道具ハ極メテ短簡ニシテ五トク、土瓶、急須、茶盆、茶碗、洗面器、塵拂、箒、掃帚、箸、桶等ナリ三四ノ食事ハマカナイ有イテ之ヲ辨ジ一箇ノ電燈ハ暗キヲ憂ヘシメズ四日二日ノ勤務トシテ兵營内ニアルヲ餘キテハ練兵ノ餘暇アレバ即チ茲ニ起居シ倦メバ時ニ娛樂室ニ會シ或ハ友人ノ室ヲ訪ヒ談笑時ヲ忘ルルアリ如何ニシ余等ガ生活ノ單純ナルヨリ然レ此單純ナル生活ノ内ニ深キ趣味アリ見ヨ窓外内ノ紅葉ハ今ヤ秋霜ニ黃落セントシテ僅ニ殊艶ヲ保チツツアルニアラズヤ見ヨ培養セラレザル數株ノ菊ハ雪中(然リ時ニ天ノ一方ヨリ舞ヒ陥ル雪)ニ限リナキ雅致ヲ誇リツツアルニアラズヤコハ靜思ノ境ナリ默想ノ境ナリ紀律アルトコロ怡樂アルトコロナリ無限無窮ノ慾望ハ余等ガ軍人生活中望ムベキニアラザルナリ、吾レハタ、何ヲカ思ハン何ヲカ言ハン若シソレ夜半人靜カナルトキ破齋窓ヲ透シテ來ル清涼ナル月光ニ對シテハ詩興爲メニ充溢シテ床上横ハレル吾レハ羽化登仙ノ感アルニ於テヲヤ

感想

(中尉殿稿)

或ル人曰ク余ハ今回ノ戰役ニ於テ利スルトコロ多シ即チ階級茲ニ昇リ恩給金マタ之ニ從ヒテ増加シ勲位マタ停年ノ加算ニヨリ上セラルルヲ得ハシト余ハ之ヲ聞キテ誤然タリシコト久シ然レドモ熟ラ考フルニ此人ノ言事實ナリ、而シテ此人ヤ其感想ヲ露骨ニ言明シタルノミ、余ニ於テハ即チ然ラズ任官ノ日淺クシテ未ダ進級ノ停年ニ達セズ軍旅ニ執掌スルコト長カラズ從ヒテ恩給金ト勲位トノ如キハ余ノ関知スルトコロニアラズ加フルニ余ノ父母ハ老ヒタリ而シテ忠孝一致ハ余ガ終生ノ目的ナリ國家ニ盡シ父母ヲ慰安シ始メテ軍旅ノ愉快ヲ感受スルモノナリ戰後ハ名譽ト利益トノ貝トスルモノニ非ズ衷心確乎タル赤心報國ノ信念ヲ固持スレバナリ豈他アランヤ赤心報國ノ信念余ハ是ヲ持シテ俯仰天地ニ耻ズ、然リト雖モ余モ又情ノ人ナリ境遇ノ機微ニ依リテ時ニ鬱勃タル感慨ノ發スルコトアラバ我が修養ノ未ダ及バサルヲ思ヒ勇往邁進センノミ年茲ニ革ル彼ノ老將校ノ君ヲ一ノ對象トシテ余ハ獨リ清新ノ想ヒヲ悠遠ニ走セシテ天真ノ至誠ヲ研磨センカナ

陸軍歩兵少尉正八位勲六等 光澤金一郎

氏ハ明治卅三年四月十五日大阪府立農學校農科部ニ入學セラレ全卅六年三月廿六日大

阪府立農學校農科部ヲ首位ヲ以テ卒業セラレ全年四月一日長野縣下伊那郡農事試驗場  
 技手ヲ命ゼラレ、全縣全郡農會巡廻教師ヲ屬托セラレ本郡ノ農業上ニ多ク裨益ヲ與  
 ラレタリキ、全年十二月一日一年志願兵トシ步兵第三聯隊ニ入隊シ全廿七年三月六日  
 動員下命步兵三聯隊補充大隊ニ轉入セラレ、全四月一日陸軍歩兵一等卒申付ラル、全年  
 六月一日陸軍歩兵上等兵ニ全九月一日陸軍伍長ニ昇進セララル、全十二月一日一年志願  
 兵終末試驗ニ及第シ陸軍歩兵軍曹ニ任ゼラル、次テ臨時召集ニ依リ步兵第三聯隊補充  
 大隊ニ入隊シ、即時曹長ノ階級ニ進マレ豫備役見習士官ヲ命ゼラル、明治卅八年三月  
 三日將校試驗ニ及第セラレ全四月十九日士官勤務ヲ命ゼラル全六月十日陸軍歩兵少尉  
 任官セラレタリキ、其レヨリ步兵第三聯隊補充大隊付ヲ被仰付全年七月十八日正八位  
 ニ叙セラレ明治卅八年八月廿日陸軍糧秣鑑定員補充員トシテ全卅八年十二月卅一日迄  
 内地戰役勤務ニ從事セラル

余光澤少尉殿ノ尊嚴ヲ訪ヒ窺カニ其英悍ヲ思ニ碩德自然ニ備ワリ百折屈セズ千挫撓  
 マズ泰然トシテ山ノ如シ斯ル勇者ヲシテ戰線ニ起テ一隊ノ行動ヲ指揮セシメタランニ  
 ハ如何ナル強敵モ其抵抗シ能ワサルハ必然ナリ得難クシテ夫イヤムキ時機ニ於テ内地  
 勤務ノ局ニ當リ精勵能ク全ウセラレタリト雖モ拔山蓋世ノ勇ヲ押ヘタルハ一部不幸ト  
 云フヘシ

陸軍後備砲兵伍長勲八等

北澤三津藏

明治十一年七月十八日生



北澤三津藏 若

氏ハ明治卅一年十二月一日東京灣要塞砲兵聯第八中隊ニ入營シ卅二年七月一日陸軍要  
 塞砲兵射擊學校教導大隊ニ分遣セララル、八月一日ヨリ九月六日迄小原堡壘全十二日ヨ  
 リ十九日迄觀音崎砲臺ニテ海岸射  
 撃ヲナス十二月一日陸軍砲兵一等  
 卒ヲ申付ラル全日觀消手被命ル全  
 卅三年一月十六日ヨリ廿一日迄小  
 原堡壘ニテ海岸射撃及三月七日ヨ  
 リ十二日迄東京灣第一海砲ニテ試  
 驗射撃ヲナス全十五日ヨリ廿一日  
 迄觀音崎砲臺、全廿六日ヨリ四月  
 八日迄小原堡、十七日ヨリ廿日迄  
 千代ヶ崎砲臺、全廿三日廿七日迄  
 觀音崎、全卅日ヨリ五月三日迄花立砲臺ニ於テ各海岸射撃ヲナス、明治卅三年五月十  
 日陸軍要塞砲兵射擊學校教導大隊解散飯隊、全七月十二日砲兵上等兵被命全十月八日

ヨリ十四日迄田戸砲臺ニテ縮射々撃全廿二日千代ヶ崎砲臺ニテ海岸射撃廿五日ヨリ觀音崎砲臺ニテ堡壘圍縮射々撃、十一月四日ヨリ秋季演習ノ爲メ花立砲臺ニ出張、全月十九日坂隊、全廿四年八月卅一日秋季演習ニ附キ砲臺射撃、九月廿五日ヨリ堡壘築設ノ爲メ高圓坊ニ出張全卅日坂隊、十月四日ヨリ特別要塞演習ノ爲メ觀音崎砲臺ニ出張九日坂隊、全十一月ヨリ特務要塞演習ノ爲メ高圓坊ニ出張全十八日坂隊、全十月卅一日坂隊退營、明治卅七年五月一日充員ノ爲メ東京要塞砲兵聯隊ニ召集ヲ被命全月七日徒歩砲兵第一聯隊一中隊ニ編入、全月廿日射擊演習ノ爲メ靜岡縣駿東郡大野原ニ出張廿八日坂隊、六月廿三日出征ノ目的ヲ以テ砲營ヲ出發ス、全日横須賀軍港ヲ出帆シ七月廿二日清國盛京省青泥窪港ニ上陸全月十日戰利野戰砲兵隊第一中隊ニ編入、全月廿六七日ノ兩日亂泥橋東方高地ニ於テ鞍子嶺、劍山、ノ戰鬪ニ參與ス、全卅日坂隊全八月五日ヨリ旅順背面梨嵐子西方高地ニ於テ盤龍山、角面堡、一名(クロバトキン砲臺)ニ龍山、望臺、障子山、椅子山ノ各戰鬪ニ參與ス、全月十月廿三日急性大腹か答兒ニ罹リ次テ脚氣ニ轉症シ一等症ニテ第九師團第二野戰病院ニ入院ス全廿五日青泥窪病院ニ收容セラル全年十一月八日任陸軍砲兵伍長ニ、全廿七日大連港出帆シ内地ニ後送セラル、廿九日宇品及廣嶋ヲヘテ四月八日東京澁谷分院ニ轉送セラル、全廿三日ヨリ六十日間歸郷療養ヲ命ゼラル、六月廿二日復隊、全日東京灣要塞砲兵聯隊第四中隊ニ轉入、全七月五

日ヨリ千葉縣君津郡常津町丹砲台守備ヲ服務ス全十月十六日平和御詔勅發布トナリ全月廿日坂隊、七月十日一等給被給十月二十一日召集解除坂隊

○ 賞 典

現役中要塞砲兵射擊學校分遣中誠勤ノ功ニ依リ褒賞休暇十四日及聯隊ニ服務中褒賞休暇十日間ヲ賜フ坂隊退營ノ際善行証書附與セラル、日露交戰中御菓子料トシテ若干金ヲ下賜セラル

○ 戦功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セラル

陸軍一等看護長勲七等

北澤安太郎

現住所臺灣陸軍々醫部構内官舎

明治五年一月五日生

明治廿四年十二月一日東京府下赤羽工兵第一大隊ニ入營シ全廿五年十二月一日工兵一等申付ラル全三日陸軍看護手ヲ被命、全廿七年八月卅日動員下令全年九月十一日任陸軍三等看護長、征清ノ爲メ十月十五日宇品港出帆全廿五日清國花園河口ニ上陸全廿八年五月七日陸軍二等看護長ニ任ゼラル、其ヨリ金州、大連灣、旅順、威海衛、大平山、營口、田庄台等ノ各戰鬪ニ參與シ五月十三日平和克復ノ御詔勅發布、六月七日宇品港坂隊着二十九日五月十二日ヨリ卅年五月十六日迄威海占領軍服務、廿九年十一月十一日附任

陸軍一等看護長、五月十七日東京衛戍病院附、廿二年九月廿九日臺灣守備步兵第一大隊附、廿三年五月十二日台北衛戍病院附、廿五年五月南庄生蕃討伐ニ從フ、廿七年四月一日臺灣陸軍々医部附全十一月廿四日ヨリ日露戰役ニ關スル事務ニ服ス、廿八年五月十二日臺灣全島ニ戒嚴令布告、七月七日解任、十月十六日平和御詔勅發布

◎ 賞 典

明治廿七。八年戰役ノ功ニ依リ勲八等瑞寶章及命參拾圓ヲ下賜セララル  
 全日從軍徽章ヲ下賜セララル  
 明治卅三年十一月卅日勲七等瑞寶章ヲ下賜セララル  
 明治卅八年六月廿七日台灣北部騷擾ノ際盡力功多ナルニヨリ命參拾五圓ヲ賜フ



北澤安太郎君及家族

陸軍豫備役歩兵一等卒勲八等

久保田辰彌

明治卅三年十二月一日現役兵トシテ第七師團歩兵第二十八聯隊第二中隊ニ入隊、全卅四年十月十一日小機動演習トシテ上川空知地方ニ出張全廿五日飯營、卅五年三月三日雪中行軍ノタメ熱田札幌地方ニ出張全十六日飯營全十月九日小機動演習トシテ札幌地方ニ出張全廿一日飯營現役中褒賞休暇十日間ヲ賜フ、卅六年十月卅日善行證書ヲ賜フ、明治大坂着全年十一月十三日大坂出帆全廿日青泥窪へ上陸以來各地ニ轉戦シ十月卅日ヨリ十二月一日亘ル旅順背面百七十四高地ノ激戰中名譽ノ負傷ヲセラレ淋血紅襟ナルモ而モ身体ノ自由ヲ失ヒタルニ尚敵前ニ向ヒ頑トシ動カズ其有様實ニ勇悍ナリ盤根錯節ニ觸レテ始メテ刀ノ銳利ヲ知ルガ如ク氏ノ忍耐茲ニ於テ知ラルコトヲ得ルナリ其レヨリ第二野戰病院ニ入院セラレ全三日青泥窪兵站病院ニ轉院ス全四日周所ヲ出帆廣



久保田辰彌君

卅六年十月卅一日飯休除隊、全卅七年八月十六日充員召集ニテ歩兵第廿五聯隊第九中隊ニ編入、全十月廿日屯營出發廿一日室蘭港出帆廿二日青森へ上陸、全卅日

島ヲ經テ東京旭川各隊備病院ニ轉送セラル同卅八年二月廿七日全治退院、歩兵第卅五聯隊補充大隊第五中隊へ編入卅八年七月廿八日補充員トシテ再征ノ爲メ屯營出發同八月一日青森上陸同八月九日宇品港出帆同十六日韓國清津へ上陸、以采各地ニ轉戰シ十月廿三日凱旋坂朝ノ爲メ會寧出發同廿九日宇品着、十一月四日廣島出帆十一月廿一日札幌着十五日復員解散

◎賞典

明治卅七年十二月廿八日 天皇陛下ヨリ御菓子料トシテ金貳圓ヲ下賜セラル  
戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百五十圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒勲八等

久保 田 希 藏

明治十六年九月生

明治卅七年九月十五日補充召集、同月廿二日歩兵第十五聯隊補充大隊第三中隊へ入隊同十一月廿日第一期備業、同十二月七日戰地補充トシテ高崎屯營出發シ廣島及宇品ヲ經テ同月十六日清國盛京省青泥窪へ上陸同月十九日後備歩兵第十五聯隊第一大隊第一中隊へ編入同月廿一日ヨリ廿二日迄後三羊頭附近ノ戰爭ニ參與ス、同卅八年一月一日前三羊頭村後三羊頭村附近ノ戰闘ニ參與ス同年一月十四日ヨリ廿日迄旅順要塞守備同月廿一日旅順出發同月廿五日唐家窩柵ニ集合シ三月三日同所ヲ出發シ同七日道義屯ニ

集合シ同八日ヨリ十一日迄同道屯三台子利家溝附近ノ戰闘ニ參加ス同年五月一日陸軍歩兵一等卒ニ昇進セラ  
ル同月十七日ヨリ五月四日迄全家盤附近ニ近滞在勤務ス、同五月九日ヨリ六月九日迄孤家子附近ニ滞在守備六月十日ヨリ七月四日迄關公台附近ニ滞在守備七月旋ス、廿六日復員下令十一月卅日解散歸郷ス  
戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金八拾圓ヲ下賜セラル



久保 田 希 藏  
五ヨリ法庫門附近ニ滞在勤務、十一月八日凱旋ノ爲メ全所ヲ出發シ九日鐵嶺着十五日鐵嶺出發十六日柳樹屯着十八日全所出發廿二日神戸ヲ經テ廿七日高崎ニ凱

故陸軍歩兵一等卒功七級勲八等

瀧 本 照 達

明治十二年生

氏ハ明治卅一年十二月一日現役トシテ召集セラレ勤勉精勵十月十六日陸軍一等卒申付ラル滿期除隊、明治卅七年日露役起ルヤ同年八月六日召集ニ應ジ九月廿日出征ノ目的ヲ以テ大阪港出帆清國青泥窪ニ上陸シ爾來各所ノ戰闘ニ從事シ遂ニ旅順二百三米突



高地ノ激戦ニ於テ敵彈ノ爲メニ名譽ノ戦死ヲ遂ゲラル  
 編者曰ク氏ハ全郡山本村ニ生レ幼ニシテ宗門ニ入り大島山瑠離寺住職權大僧頭瀧本慈  
 達氏ノ座下ニ在テ精勵能ク佛學ヲ修メラレタリキ日露ニ應召シ旅順ノ高地ニ於テ戦死  
 ス佛陀世尊ハ竹林精舎ニ法ヲ説キシガ氏ハ行キテ三界ヲ探リ次世ニ名教ヲ布キ百万  
 ノ生靈ヲ能ク得脱セシムナランヲ

故陸軍歩兵上等兵功七級勲八等

田 上 半 治 郎

茲ニ最哀最痛ノ筆ニ滿腔全情ノ涙ヲ濺キテ陸軍歩兵上等兵田上半治郎氏ノ戦死ヲ記ス  
 ルノ止ムナキニ至ル氏ハ氣節アリ茲心アリ沈着ナル態度ト周密ノ思慮ト有シ就中最  
 大美徳トシテ見ルメキハ孝順和樂ハ平素ノ勤メナルガ如ク能ク兩親ニ仕エ第實ニ人  
 トナリ明治卅五年現役トシテ近衛隊ニ入營シ成績佳良ニテ一躍一等卒ニ昇進シ野戰隊  
 ニ編入シ明治卅七年三月朝鮮國鎮南浦ニ上陸シ以來壯健ニシテ軍務ニ勉勵シ五月一日  
 鴨綠江ニ奮戦七月卅一日様子嶺ニ八月卅日遼陽附近ニ十月十二日老君谷ニ轉戦シ彈丸  
 雨下ノ間ヲ肉迫シ戦友ヲ勵マシ頗ル部隊ノ士氣ヲ興奮シテ功アリ三月二日奉天省唐屯  
 北方高地ノ石山ヲ攻撃スルヤ敵ノ長時間ヲ徒ヤセシ防禦工事ニテ鐵條網機關砲塹壕  
 地雷火等アラユル副防禦ヲ設ケ投擲爆藥ヲ利シテ必死ノ抵抗頗ル頑強ナリ此戦ニ

氏ノ属スル中隊ハ中隊長小隊長戦死シニ小隊長、三小隊長特務曹長以下七十二名ノ負  
 傷者ヲ出シ實ニ慘憺タル有様ナルニモ不抱氏ハ能ク勇戦奮闘シ終ニ敵前五十米突ノ  
 地ニ於テ頭部ニ貫通銃創ヲ受ケ花々シキ最期ヲ遂ケラレタリトゾ



田 上 半 治 郎 君

リタル書簡ハ妻ク忠若  
 愛國ノ念溢レ兩親ヲ慰  
 ムルモ舎弟ヲ勇ムルモ  
 國家ノ爲メナラザルハ  
 ナシ勇氣弗々トシ身心  
 ニ滿テ戰場ニ起テ殊  
 功ヲ樹テラル一家ノ名  
 譽ト云ウヘシ唯最後ノ  
 書狀二月十五日附ハ頗  
 遊ル様舎弟丸彌ニモ身体ヲ練リ入營ノ時期ヲ待ツ様自分ガ戦地ヨリ送リタル書狀ハ不  
 殘保存ヲ頼コレモ何かノ紀念ニモナリ申スカト存候云々トアルハ豫メ戦死ヲ期シタ  
 ル意味アリ其心シテ田上上等兵ノ名譽ノ戦死ニ同情ヲ寄セラルヨ

ル訓戒的ニ  
 テ其二三行  
 ヲ茲ニ記サ  
 シ「御年寄  
 ラレシ祖母  
 ヲ大切ニ御  
 兩親様ニモ  
 追々御老体  
 ニ相成候間  
 御大切ニ被

維時明治卅八年三月二日近衛歩兵上等兵田上半治郎君於清國盛京省唐家屯北方石山戰死矣享年廿四君生于市田村牛收則田上銀三郎第長子也為人温厚篤實自有剛健之余世業農專務耕耘明治卅五年入隊全卅七年二月從軍於日露之役鴨綠江様子嶺遼陽老君谷等轉戰蹟磽确長途越巖城峻嶮勵戰友縱橫奮闘而奏偉功同日當奉天開戰於同地奮闘極猛烈其狀見可也於敵前五十米突地為敵彈所貫頭部斃即日進上等兵叙勳八等功七級賜金鵝勳章及白色桐葉章是表其殊勳也

銘曰 挺身義憤 奮戰而儘

圓心餘烈 一死芳流

明治三十九年十月健碑

龍臥臺 吉澤定治 撰

陸軍騎兵一等卒勳八等

島岡太郎

明治十三年八月一日生

明治卅三年十二月一日近衛騎兵聯隊二編入同卅五年十二月二日騎兵一等卒申付ラル同卅六年十一月三十日滿期除隊同卅七年二月十五日充員召集ニ應ジ近衛騎兵聯隊二編入全卅七年四月廿四日野戰近衛聯隊ニ編入ノ為メ東京出發全四月廿六日宇品出帆五月十

西日四台子ニ於テ野戰近衛騎聯隊第二中隊へ合シ各地ニ戰闘ス全卅八年十二月六日凱旋シ宇品へ上陸ス、全卅八年十二月十二日屯營着全卅八年十二月廿日召集解除

陸軍補充歩兵一等卒勳八等

福田清吾

明治卅七年十二月廿五日歩兵第十五聯隊補充大隊第二中隊へ入隊、明治卅八年三月廿二日後備隊補充トシテ屯營出發全月廿六日宇品出帆全月四月廿二日右備歩兵第十五聯隊第七中隊へ編入、全年十月廿五日陸軍歩兵一等卒ヲ命ゼラル全年十一月廿二日神戸港上陸全月廿六日高崎着全卅日役員下令今日召集解除

陸軍騎兵軍曹勳七等功七級

本嶋清右衛門

明治十四年十二月二日生

明治卅四年十二月一日徵兵トシテ騎兵第十四聯隊へ入營明治卅五年十二月一日騎兵上等兵申付ラル、明治卅六年十二月一日騎兵上等兵伍長勤務申付ラル明治卅七年五月十九日出征ノ為メ宇品港出帆全年八月十二日陸軍騎兵伍長被任、卅八年四月六日騎兵軍曹ニ被任卅九年二月五日凱旋廣嶋宇品港歸着全年二月十二日千葉縣習志野第五番營坂

着今月十六日滿期除隊明治卅九年四月一日附ヲ以テ功七級金鷄勳章及勳七等青色桐葉章ヲ下賜セラル

編者曰ク氏ハ文武兩道ヲ無而モ高雅清韓恰モ英蓉ノ亭々トシテ泥中ヨリ聳ユルガ如シ又一笑嬰兒モ欣慕シ一怒スレハ奮獅龍モ只ナラズ明治卅七年五月十九日決然トシテ出征ノ途ニ就キ瀝航白雪ヲ飛バシ異域ノ天地ヲ拔跡シ以上數十回ノ戰鬥ニ參與シ殊ニ黑溝堂ノ激戰ニハ氏ノ勇中勇奮ノ極カフルニ氏ハ機關砲手トシテ數百ノ敵ヲ分塵細埃ニ至ラシメタル功多ナリト云フ彼我ノ交戰愈々盛ナルニ氏ノ使用機關砲ニ火漏急險ヲ生シタリシニ同ジ機關砲手タル某友人敏クモ發見シ「吾ノ砲ニ急險ヲ生シタリ」ト一歩側進シテ上平身ヲ傾ケルト同時ニ氏ハ一歩傾万ニ退ク一刹那某友人ノ頭上ニ敵彈落下シ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラル詳ハ「東京日々新聞」ノ從軍記者黒田甲子郎ノ著ニ係ル日露戰史十一卷ニアリ此一事ニテモ氏悲常急險ヲ冒シ勇猛奮進シテ君國ノ爲メニ盡サレタコト計リ知ルヲ得

陸軍歩兵一等卒勳八等

坂 牧 吉右衛門

明治十六年五月十五日生

明治卅八年二月廿一日補充トシテ歩兵第十五聯隊補充大隊第一中隊へ編入全年五月十九日出征ノ爲屯營出發全月廿三日宇品出帆全月廿七日清國盛京省大連ニ上陸全年六月

二日后备歩兵第十五聯隊第七中隊へ編入全年九月十八日陸軍歩兵一等卒申付ラル全年十一月八日凱旋ノ途ニ就ク全月十九日柳樹屯出帆全月廿二日和田岬ニ上陸 全月廿六日歩兵第十五聯隊補充大隊へ返着全三十日除隊 戰役ノ功ニ依リ明治卅九年四月一日附ヲ以テ勳八等瑞寶章及金七十圓ヲ下賜セラル

元後備混成第八旅團野戰砲兵大隊大一中隊

陸軍砲兵伍長勳八等

片 桐 篤 彌

凱旋后ノ今日回顧スレハ夢ナランカ時ニ明治卅七年十二月十五日ヲ以テ國府台ノ兵營へ召集ノ赤紙ヲ受取リ其レハ全月九日ノ晚デアツタ勃然トシテ勇氣ハ日頃ニ百倍シタケレドモ一家團樂ノ惜ヤ友人ノ情近所組合親類被レヤ之レヤ思ヒ回セハ中々ニ辛イ心地ガシタ 赤紙ノ令狀手ニシテカラ一時間モ過ギ又内村内ノ人々ガ見舞ニ來テ祝福ヲ述ベテ呉レル加フルニ其晚ノ内カラ其處此處デア丁寧ナ送別會ヲ開イテ招イテ呉レル曰ク組合曰ク親友曰ク實業研究會曰ク青年會中老會頂戴ニ廻ニ目ノ廻ル位デアツタ…… 十一月十五日國府台ノ野砲第十七聯隊内召集事務所へ集アツタ其人々ハ皆現役以采ノ旧友ア今回再會ヲ祝福スル尚ニ、三語ヲ交ヘル圓ニ皆兄弟ノ襟ナ心地ガシタ全ク現役

時代ノ心持ニナツテシマツタ……………卅八年一月廿六日屯營ヲ出發シ卅一日宇崎  
 港乘船シ二月四日清國大連灣柳樹屯ニ上陸シタ其レカラ奉天附近在留數十里ノ長途ノ  
 陸路ヲ行軍セネバナラヌ例ノ支那ノ特有タル廢頽ノ道路ト宿舎ノ不潔ナルトヲ忍ビテ  
 二月廿五日ヲ以テ八家子ニ着シ其晚午後八時頃カラ里餘ノ北方下柳谷ト稱スル高地ニ砲  
 列ヲ布イタ地形山岳重疊々平野家屋ガ其間点在シ前歪頭山村右方遙カニ邊牛録堡ヲ扣  
 ビ渾河ノ支流ハ其間ヲ縫ヒテ白蛇ノ游泳スルニ似タリ自ラ彼我ノ境界線ヲ畫シ更ニ眼  
 ヲ前方高地ニ注ゲハ是レ石灰谷トテ敵ハ最后ノ全敗ヲモ知ラテ虚勢ニ誇リシ陣地デア  
 ル一望連々タル山脈ハ東奔西馳又際涯ヲ認メズ眼鏡ノカヲ借リテ凝視スレハ全山ニ散  
 兵壕ヲ穿テ無數ノ弱兵是レニ膠着シ副防禦トシテハ鹿柴墜穴鐵條網有リ、有ユル工事  
 ハ最御丁寧ニ出來テ居ル、根ルニ無數ノ大砲ヲ以テシ是レ今回ノ會戰ニ於ケル吾等ガ  
 初陣タル勝差ノ光景ナリト知ラレタ、明クレバ二月廿六日北斗未ダ若干ノ光明ヲ保チ  
 東天漸ク白カラントスル頃轟然トシテ先ツ吾レヨリ一發ノ手土産ヲ送呈シタ敵モ左  
 ルモノ一瞬之ニ應ジテ大小砲彈ヲ頻送シテ我ニ饜スルノ序幕ガ開イタ、發聲爆聲ト響  
 度ヲ競ヒ山河爲メニ震駭昨日迄ハ徒ラニ狐兔ノ巢窟ニ過キヌ吾陣地モ今日ハ砲彈ノ修  
 羅場ト化シ去ツタ朔風凜トシテ怒ガシ亦一点雲影ヲモ止メサルニ彈雨ハ覆盆シ見ル々  
 吾歩兵隊ハ敵ノ壘下ニ肉迫シ銃聲ハ機關ノ砲聲ト和シテ喧々轟々聲スル計リダ彼等ノ

陣地ニハ吾砲彈ノ命中爆發スル者黑白ノ火花ヲ演ジテ又間斷ナシ或ハ敵ノ突撃ヲ激退  
 シ又彼等ノ倉庫ヲ燒夷シ或ハ敵ノ工事妨ゲ或ハ彼等ノ陣地ヲ破壞シテ對抗スルコト旬  
 余日、時恰モ三月七日ノ午後八時前方一面彼等ノ陣地ヲ離テ火炎ヲ見ル是ナン敵ハ數  
 日采ノ戰鬪ニ於テ吾軍ノ銃鋒當ル可ラザルヲ悟リ遂ニ其倉庫宿舎モ烏有二阪セシメテ  
 所謂兵法ノ妙手三十六計ノ御得意タル退却ニ移ルノ準備トハ見ヘラレタ吾等ノ一隊ハ  
 翌八日未明ヲ以テ追撃前進ノ命令ニ接シ苦モナク被等ノ陣地ヲ奪ヒ尚夙夜追撃ヲ續行  
 ス路上被等ノ屍彈藥ハ疊々トシテ小丘ヲ築キ半永久ノ陣地モ破レテ回体ヲ失スル様如  
 何ニ吾砲彈ノ激烈ニシテ有効デアリシヤヲ想ハレン、行クコト十數里時三月十三日ヲ  
 以テ鐵嶺ノ西南方約五里餘ナル心台子停車場附近ニテ被等ニ追刃シ再ビ砲火ノ交換ヲ  
 始ム其結果敵ハ多本ノ兵器彈藥ト疊々タル屍ヲ置土産トシテ鐵嶺方面ニ退却尚追撃續  
 行ヲ以テ三家子ニ至リ敗殘ノ敵兵ヲ擊破シ勢破竹モ只ナラズ志氣哈爾賈ヲ吞マン堂々  
 鐵嶺ノ西約一里餘八里庄迄押寄せシトキ敵ハ鐵嶺ノ關門タル半永久的ノ砲台ヨリ不意  
 ニ吾前進部隊ヲ要撃ス吾隊モ一時ハ頗ル急險ニ陥リシモ全身是レ胆ナル數島男子何條  
 是數ノニ逸巡スベキ迅速砲列ヲ配布シ敢モ沈着ニ大蓋ヲ放ラバ百發百中忽チニシテ見  
 ル鐵嶺城外ニ當ツテ火災ハ熾々タリ遂ニ被等ハ最后ノ根據地トシテ計畫シタル無數ノ  
 建物モ糧食モ被服モ彈藥モ將徒固ノ要塞モ顧ル暇ナク潰走シタルハ自業自得トハ云ヘ

吾又一擲ノ涙ヲ添ヘサルヲ得ナシ、翌十六日鐵嶺城内ニ闖入シタルバ土民ハ門々戸々ニ旭旗ヲ翻シ皇軍歡迎ノ有様ヲハレ昨日迄スラブ人ノ屈辱ニ盲從シタル彼等モ今ハ正義濃厚ニシテ寸毫胃スナキ皇軍ノ聲々タルヲ見テ誠心敬意ヲ表スル様轍魚ノ杯水ヲ得タルニ鬚髮タリ生等一同思ハズ快哉ヲ叫ブト共ニ兩陛下ノ萬歳ヲ三唱セリ、以上生等ノ一隊ガ參與ノ戰鬪一隊ヲ略述シタニ過キズ範圍自ラ管見ニ止マリ地名等亦多ク自失シ加フルニ不方ニシテ形容ヲ不盡

此會戰後ハ花々シキ戰鬪ニ來加スルユトナク濶陣ニ數月ヲ空過シ終ニ平和克復トナリ明治卅八年十二月八日兵庫和田岬上陸ノ際中隊長古谷大尉殿ノ大ニ趣味ガアツタ

唐國に散りおくれたる山櫻

かへり咲させよ皇御國に

陸軍歩兵上等兵勲八等

久保田銀松

氏ハ明治卅二年十二月一日歩兵第十五聯隊第六中隊ニ入隊セラレ服務中全卅四年九月十日台灣守備トシテ屯營出發全月十五日神戸港出帆全廿一日基隆ニ上陸ス以來麻剎利亞豫防敵防ニ從事兒玉閣下ヨリ紀念品ヲ下賜セラル、全廿五年五月十一日定交代全月十九日高崎屯ニ飯着ス全年廿四日解散歸郷セラレタリ全日善行證書ヲ附與セラル明治

卅七年三月十二日充員召集ノ爲、歩兵第十五聯隊第六中へ入隊隊今月廿日高崎出發廣島宇品ヲ經テ五月七日清國盛京省孫家子ニ上陸シ全月十六日十三里台攻撃ニ參與ス全月廿六日兪州、南山攻撃ニ參與シ七月廿六日双台溝攻撃ニ參與時不幸ニシテ却氣病ニ罹リ全月廿九日高崎鎮堡第四野戰病院へ入院十月八日全治退院シ高崎補充大隊第一中隊へ編入明治卅七年十一月九日高崎補充トシテ高崎出發十四日宇品出帆全十八日清國タルニニ上陸全廿日高崎補充トシテ高崎出發全月十八日清國大連ニ上陸全月廿六日高地ノ戰鬪ニ參加シ全日敵彈ノ爲ニ右足父指破片傷ニテ第三野戰病院へ入院シ内地轉送東京豫備病院へ入院明治卅七年十二月廿八日御菓子料トシテ 天皇陛下ヨリ金貳圓ヲ下賜セラル、明治卅八年一月七日退院全日歩兵第十五聯補充大隊へ編入全年二月十二日野戰隊補充トシテ高崎出發全宇品ヲ經テ全月十八日清國大連ニ上陸全月廿六日歩兵第十五聯隊第六中隊ニ編入全年三月一日ヨリ三日間ニ亘ル沙令堡附近ニ於テ戰爭全月七日ヨリ十日ニ亘ル三台子附近ノ戰鬪ニ參與ス、明治卅八年四月二日陸軍歩兵上等兵ニ昇進セラレ清國法庫門宿營中全卅八年十月六日平和克復全卅九年一月十六日凱旋ノ爲メ法庫門出發全月廿二日大連出發宇品ヲ經テ二月二日高崎飯着全月八日召集解除歸郷ス

明治卅七八年戰役ノ功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セラル

原 桂 重  
 明治十四年二月三日生

氏ハ明治卅四年十二月一日近衛歩兵第三聯隊第十中隊へ編入セラレ全卅六年十二月一日精勤忠勵ニテ陸軍歩兵一等卒ヲ申付ラル全年全日旗護兵ヲ命セラル全卅七年二月五日勳旨下命氏ハ決然ト起テ勇斷果決能ク孤疑ノ露惡ヲ拂フト即チ全月廿二日東京出發急行列車ニ白龍ヲ飛バシ三月十五日宇品ヲ經テ艦航白雪ヲ蹴立テ玄海灘ノ激浪天ニ沖シテ三月廿日韓國鎮南浦ニ上陸シ五月一日愛宕嶺大相屯高峯寺附近等各戰闘セラレ尙進テ全月廿八日四方台附近全月廿九日徐家溝附近孟家辰附近八月卅一ヨリ九月五日マテ六日ニ亘リ遼陽附近ノ戰闘ニ參與ス同年十月十一日老君北方高地ニ戰闘全十二日老君溝北方高地夜襲ノ際負傷セラレ入院十月二十一日陸軍歩兵上等兵ヲ命セラル十月廿八日後送セラシ大連港出帆十一月一日



原 桂 重

大阪ニ上陸全日大阪豫備病院ニ收容セラル全月八日東京豫備病院尸山分院へ轉送全卅八年四月廿三日歸郷療養ヲ受ク、全日近衛歩兵第三聯隊補充大隊第二中隊ニ編入全年五月廿二日歸隊六月十六日荷物寄領トシテ戰地派遣全月八月四日歸隊全年十二月四日役員下命、明治卅八年十二月十二日滿期除隊全月全日善行證書ヲ附與セラル

○明治卅七年八年戰役ノ功ニ依リ明治卅九年八月一日付ヲ以テ功七級金鵄勳章及勳八等白色桐葉章ヲ下賜セラル年金一百圓

編者曰ク氏ハ虎山駿河ノ戰闘ヨリ老若溝ノ夜襲ニ至ル迄以上數十回ノ戰爭ニ從事シ奮闘激戰戰友ヲ勵マシ能ク上官ノ命令ヲ守リ指揮ノ範圍ニ於テ偉功ヲ奏シタリキ殊ニ老若溝夜襲ノ如キハ弓張嶺夜襲ニ次キタル大激戰ニシテ將校兵卿共ニ沈着靜肅ニ其任務ヲ遂行スルノ驍勇ハ愈々確實ニシテ共ニ勵精シテ曰ク死セヨ死セヨ國家ノ爲メ我皇御國ノ爲ニ忠死セヨ死ヲ鴻毛ノ輕キニ比スルハ此時ナリト誓テ生還ヲ期スベカラズト、各自慎重ノ態度ヲ以テ夜襲ニ從事セリ而モ暗黙ノ間ニ戰死ヲ覺吾スルモノノ如シ、時至ルヤ氏ハ勇奮自ラ禁スルコト能ハズ縱橫奮闘既ニ敵堡ヲ奪領スルノ一剎那敵彈ノ爲メニ名譽ノ負傷ヲ遂ケラレ止ナク戰線ヲ退クニ至ル氏カ出征以來數ヶ所ニ於テ激戰ハ固ヨリ死ヲ期センコト數回ニテ一点ノ怯所ナキハ實ニ軍人ノ模範トシテ駐シズ今四ノ榮譽實ニ當然トス

陸軍歩兵軍曹勲七等

田切久太郎

氏ハ明治三十一年十二月一日歩兵第十五聯隊第十一中隊ニ編入セラレ、明治卅二年十二月一日陸軍歩兵一等卒申付ラル全卅三年十月六日陸軍歩兵上等兵申付ラル、卅四年二月廿八日第一補充兵掛リ助手ヲ申付ラル明治卅四年十月三十日善行證書ヲ附與セラレタリ、全卅四年十月卅一日飯休除隊、明治卅七年二月十五日充員召集ニ應ジ近衛歩兵第三聯隊第三中隊ニ編入明治卅七年二月廿一日東京出發廣島着、全三月十四日宇品港出帆、韓國鎮南ニ上陸全五月六日病氣ニテ豫備病院ニ入院後送全年六月十五日全治退院全日補充第一中隊へ編入全年十一月廿六日被任歩兵伍長、全年十一月十二日補充兵掛リ助教ヲ被命全卅八年二月十八日補充兵掛リ助教ヲ被命同年七月十四日野戰補充員トシテ近衛歩兵第三聯隊へ轉出同年同日東京出發廣島着同年七月十九日宇品港出帆清國大連へ上陸同年七月廿八日清國盛京八寶屯ニ於テ野戰近衛歩兵第三聯隊第三中隊へ編入同年七月二十九日給一等給同年十月一日被任歩兵軍曹同年十一月廿八日清國大連出帆宇品坂着同年十二月六日東京へ凱旋同年十二月四日役員下令同年十二月十二日召集解除、明治卅七年八年戰役ノ功ニ依リ卅九年四月一日附ヲ以テ勲七等青色桐葉章ヲ下賜セラル

豫備役陸軍歩兵一等卒勲八等

大島 喜一

明治十四年九月二日生

氏ハ明治三十四年十二月一日徵兵トシテ近衛歩兵第三聯隊第九中隊ニ入隊セラル明治卅五年三月卒業一學術科卒業同年四月一日喇ハ術修業ヲ命ゼラル同年十二月十六日喇ハ手ヲ命ゼラレ明治卅六年十二月一日一等卒申付、明治三十七年二月五日動員下令同年二月廿二日東京出發同日廿四日廣島着同年三月十五日征露ノ爲メ宇品港出帆、同二十日朝鮮國鎮南浦上陸同年五月一日虎山西方駿河、九連城附近蛤蟆塘ニ於テ戰鬪同年六月廿六日四門子附近ニ於テ戰争同年九月八日八盤峯附近ニ於テ戰争七月三十一日機子峯附近ニ於テ戰争八月廿四日二道河附近廿六日愛河峯大相屯高峯寺附近ニ於テ戰鬪ニ參與シ同月廿七日脚氣症一等症ニテ近衛師團衛生隊ニ收容セラレ同月廿八日近衛師團第二野戰病院ニ入院、明治卅七年九月十二日安東縣出帆内地還送同月十六日宇品上陸廣島豫備病院ニ收容九月廿六日東京豫備病院尸山分院ニ收容同年十一月十三日ヨリ請暇療養トシテ坂郷、明治卅八年一月十三日復隊近衛歩兵第三聯隊補充大隊第七中隊ニ編入同年六月一日第三中隊ニ轉入同月廿九日第二中隊ニ轉入同年八月五日夜ヨリ東都搦援ニ付キ警戒ニ服務ス、同年十月廿四日滿期除隊、同日善行證書附與セラル、明治卅七八年戰役ノ功ニ依リ明治卅九年四月一日附ヲ以テ勲八等白色桐葉章及金百五十圓ヲ下

賜セラル

陸軍歩兵二等卒功七級勲八等

宮下丑太郎

明治廿七年三月十四日宇品港出帆三月十五日韓國鎮南浦上陸、同五月一日九連城及蛤  
 蟆塘ニ戰闘同六月廿  
 九日蘭花峯ニ戰闘同  
 七月廿一日及八月一  
 日様子峯附近ニ於テ  
 戰闘同八月廿六日乞  
 峯寺ニ於テ戰闘全八  
 月廿一日除家溝ニ戰  
 闘全年十月十一日十  
 二日老若谷北方高地  
 ニ於テ戰闘全月十三  
 金鷄勲章年金百圓ヲ下賜セラル



右 郎 太 丑 下 宮

十四日八家子  
 東北方高地ニ  
 於テ戰闘全十  
 一月廿八日清  
 國大連出帆全  
 月三十一日宇  
 品港返着  
 ◎戰功ニ依リ  
 勲八等白色桐  
 葉章及功七級

第一補充歩兵輜重輸卒勲八等

松田藤吉

明治十二年三月十一生

明治廿七年五月七日補助輸卒隊へ充員召集全年六月四日横順賀出發六日廣島市ニ着六  
 月十六日宇品港出帆六月廿二日清國盛京省張家屯上陸、六月廿五日三十里堡兵站司令  
 部ニ配屬セラル七月二日ガルニーニ在ル本隊ニ合ス七月十三日戰闘序列ニ入ル、七月  
 三十日ガルニー發、七月廿一日西小摩子着八月三日長嶺子着八月十六日ヨリ旅順攻撃  
 ニ參與、九月十六日長嶺子出發全日西龍頭着、八月十九日ヨリ全月廿五日迄徒歩砲兵第  
 一聯隊第一大隊臨時配屬全日原隊復歸、九月十九日第二回旅順攻撃ニ參與、十月三十日  
 第三回旅順攻撃ニ參與、十一月廿六日第四回旅順攻撃ニ參與、引續明治廿八年一月三日  
 旅順開城迄攻撃ニ參與ス、自二月下旬至三月上旬ニ至ル奉天附近ノ會戰ニ參與シ重輕  
 砲彈ノ輸送及ヒ二十八擲砲ノ据付ノ際鐵砲運搬ニ從事  
 ◎戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

補充兵輜重輸卒勲八等

松嶋仲次郎

明治十二年二月七日生

明治廿八年二月三日輜重兵第一大隊補充隊へ召集、全月十九日東京出發全廿一日廣島



著貳片廿貳日宇品港出帆廿六日大連港上陸陸路ヲ經テ三月二十日清國盛京省小毛勾子ニ於テ第一師團第五補助輸卒隊ニ着四月四日全地發朱家屯唐家屯三家子灰密英守堡ヲ經テ全七日孫家堡ニ着四月十七日全地發全日城肩庄ニ着五月十九日全地發遼陽炭坑半拉山子上高力勾ヲ經テ廿日候家屯ニ着六月十九日全地發唐家屯朱家屯季石塞潭河連刀灣駁起屯張家樓子ヲ經テ全廿四日鐵嶺ニ着全日滿州軍倉庫鐵嶺支庫付被命温家庄子ニ於テ勤務七月五日后八里庄ニ移宿、拾貳月八日鐵嶺發廿一日大連出帆拾五日宇品港着、全廿日廣島發廿二日品川着全年拾貳月廿三日復員下令全廿五日召集解除

○戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

近衛輜重輸卒勲八等

橋都壽太郎

明治十四年十一月十三日

明治卅七年二月十日充員召集トシテ近衛輜重兵大隊補充中隊へ編入、全年六月二日組長適任證書附與、全年六月六日近衛輜重兵大隊へ補充トシテ東京出發全十日廣嶋着六月廿六日宇品港出帆七月八日安東縣上陸全月十五日灣竜地着全日教家堡子轉宿全地駐軍七月廿一日全地出發様子嶺附近ノ攻撃ニ參與八月一日ヨリ、マクメンザニ駐軍八月廿四日ヨリ九月五日ニ亘ル二道河大相屯ヤニウチ及遼陽附近ノ戰闘ニ參與全五日湯河浴ニ駐軍全十九日鱒米庄ニ轉宿十月十七日ヨリ全十五日ニ亘ル沙河戰闘ニ參與全十五

日ヨリ沈家勾ニ駐軍、卅八年二月下旬ヨリ三月中旬ニ亘ル奉天附近ノ會戰ニ參與ス明治卅八年十二月九日宇品港上陸全月廿七日召集解除

○戰功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵補充兵一等卒勲八等

酒井善作

明治十五年九月二十三日生

明治卅八年三月卅日補充召集トシテ歩兵第十五聯隊補充大隊第五中隊へ編入全年八月五日第二次衛生増設部隊要員トシテ高崎出發全月四日擔架衛卒等證書附與全年八月五日第十五師團衛生隊第一中隊へ編入全年九月八日外征ノ目的ヲ以テ東京ヲ出發全十一日宇品港出帆全十五日清國大連上陸全十八日全地出發全廿一日奉天省鐵嶺西方島巴海ニ滞在全年十月廿日全地出發全月廿六日大連着十一月四日全港乘船全月八日兵庫港着全月十一日神戸出發全月十二日東京凱旋復員ニ付全月十八日解除

○戰功ニ依リ勲八等瑞寶章及金七拾圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵補充兵一等卒

塩澤源重郎

明治十五年八月二十八日生

明治卅八年三月卅一日補充召集トシテ歩兵第十五聯隊補補大隊第五中隊へ編入全年六

月十二日ヨリ九月九日迄九十日間飯野療養全年九月九日飯營全月廿八日大隊演習ノ  
多野野藤岡町及兒玉郡本庄町地方へ出張全月廿日飯營明治廿九年二月七日歩兵一等  
卒申付ル全月八日役員ニ付召集解除

陸軍野戰砲兵一等卒

岩田松太郎

明治十五年九月廿五日生

明治廿七年三月六日勳員下令全月十八日砲營出發全廿一日廣島着滞在、全年四月五日  
一等卒全月廿一日宇品港出帆五月九日清國猴免石上陸全月十六日韓家屯附近戰闘七月  
廿六日ヨリ廿八日マテ管城子附近ニテ戰闘八月十四日ヨリ全廿日ニ至ル胡家屯附近ニ  
テ戰闘九月十九日ヨリ全廿日ニ亘リ番家屯附近ニテ戰闘十月廿六日ヨリ全廿日ニ亘リ  
碾盤溝附近ニテ戰闘十一月廿六ヨリ十二月五日ニ亘リ于大南方高地ニテ戰闘全月廿一  
日碾盤溝南方高地出發三十八年二月六日陳家台着三月三日也汁牛嶺附近全廿七日四台子  
附近全八日ヨリ全十日ニ亘ル田義屯附近戰闘同十月十六日平和克復明治廿八年一月十  
六日新城堡出發同廿二日大連出帆同廿六日宇品港上陸凱旋  
○功勞ニ依リ金卅五圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵曹長勲七等

唐澤幸太郎

明治七年三月二日生

明治廿七年十二月一日野戰砲兵第一聯隊補充中隊へ入隊、同廿八年四月九日補充トシ  
テ第四中隊ニ編入ス九月廿七日射的演習トシテ山梨縣南都留郡富士裾野ニ出張十月廿  
四日飯着同年十二月十四日砲兵一等卒申付、廿九年二月廿七日陸軍士官學校演習ニ賜  
同ノ爲メ千葉縣印旛郡下志津原ニ出張三月十五日飯着同月十五日歩兵上等兵申付同三  
月廿九日發火演習トシテ千葉縣下習志野原ニ出張同廿一日飯着四月九日射的演習トシ  
テ千葉縣印旛郡下志津原ニ出張同十一月廿九日飯着五月廿九日威海衛守備トシテ宇品  
港ヨリ乘船全六月一日威海衛上陸全卅年三月廿五日機動演習トシテ文登縣初村地方ニ  
出張全廿九日飯營全五月十日威海衛ヨリ乘船全十六日橫濱ニ飯港同日東京ニ飯着ス、  
全六月七日被任陸軍砲兵二等軍曹、全十一月四日小機動演習トシテ相模國中部へ出張  
全十七日飯隊同卅一年一月廿日給一等給、四月六日諸兵連合演習トシテ埼玉縣下所澤  
附近ニ出張ス七月廿五日第一師團徵發馬匹検査委員ニ隨行埼玉縣下皆野ニ出張八月廿  
日飯隊全年九月十九日日本隊出發射擊演習ノ爲メ千葉縣下印旛郡下志津原へ出張同廿七  
日陸軍砲兵一等軍曹ニ任セラル、全十月十八日飯隊ス十一月五日砲營出發師團小機動  
演習ノ爲メ栃木、群馬、埼玉縣下へ出張同廿五日飯營ス十一月廿日再服役滿期飯野、明  
治廿八年三月十四日東京出發廿五日宇品港ヨリ乘船廿一日大連港上陸四月九日補充ト  
シテ野戰砲兵第一聯隊第四中隊編入、四月十八日蓋平出發同廿一日藩家屯着滞在五月十

九日藩家出發六月十日大連灣乘船同十五日宇品ニ飯港同十七日飯京明治三十七年三月十二日第一師團野戰兵器廠へ編入五月五日東京出發同六日宇品着同廿一日宇品港出帆同廿九日清國盛京省張家屯上陸六月十六日房家屯舍營地出發同十三日金州列家店着同廿八日金州列家店出發同日青泥窪着同十月十日一等給、同年七月ヨリ十二月三十一日ニ至ル旅順攻撃作戰ニ參與廿八年二月十日先發トシテ大連出發前進翌十一日遼陽着同月廿一日ヨリ三月十日ニ至ル奉天附近ノ會戰作戰ニ參與五月廿二日遼陽出發前進向白鐵嶺着六月廿日砲兵曹長ニ任ゼラル、廿九年十二月四日凱旋ノ為メ宿營地營城子出發鐵嶺ヨリ乘車同月六日大連着同月七日大連出帆同月十二日宇品港着同月十四日宇品出發同月十六日東京へ凱旋返着、二月廿二日復員二月廿三日ヨリ、月、日迄殘務整理ノ為殘留ヲ命ゼラル、月、日召集解除

陸軍補充兵歩兵二等卒勲八等

小川源一

明治十六年十二月七日生

明治廿八年二月廿一日補充召集トシテ歩兵第十五聯隊補充大隊第一中隊へ編入、三十八年六月廿一日后備歩兵第四十九聯隊へ補充トシテ高崎出發同廿六日宇品港乘船同廿九日清國大連上陸七月九日后備歩兵第四十九聯隊着第四中隊編入紅土長子ニ宿營大七月十日紅土長子出發同十一月一日大連花冠兵站司令部守備ニ服ス、十一月二日大連花冠出發同日鐵嶺着同地宿營、同日三日鐵嶺ヨリ瀋車四日大連着同地宿營同月十日大連ヨリ瀋船、全十四日宇品港返着廣島宿營、全月十六日全地ヨリ瀋車十八日着京全月廿三日復員ニ付解散

◎勲勞ニ依リ勲八等瑞寶章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒勲八等

小島政一

明治十六年二月十九日生

明治廿七年九月二拾二日補充召集ノ為メ歩兵第三聯隊補充大隊へ入隊全日第三中隊へ編入、同年十一月五日戰鬪射撃及野外演習ノ為メ千葉縣習志野原へ出張全月十六日飯營三拾八年一月拾八日后備歩兵第五十聯隊へ轉出、右全日歩兵第三聯隊補充大隊ヨリ編入全廿八年二月廿六日歩兵一等卒申付ク全年一月廿一日東京出發全廿三日廣島着全廿五日宇品港出帆全廿一日清國青泥窪上陸二月一日青泥窪出發全日河口着全二日河口出發全日旅順口着全年三月二日旅順口出發全三日大石橋着鐵道守備全月廿四日旅順口返着要塞守備全年十一月八日旅順口出發、十一月十日大連出帆全十四日宇品港上陸十一月十六日廣島着十一月十八日東京ニ凱旋十二月廿四日復員解散

◎勲勞ニ依リ勲八等瑞寶章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍輜重輸卒功七級勲八等

中塚定吉

明治十五年三月二日生

明治卅五年拾貳月一日輜重兵第一大隊へ入隊全日第一中隊へ編入、卅六年二月一日駄馬ニ泊行軍トシテ府下北多摩郡布田村附近へ出張全月三日飯隊全月廿二日駄馬三泊行軍トシテ埼玉縣下地方へ出張全月二十五日飯隊全月廿八日組長適任證書附與全廿八日在營滿期ニ付除隊、明治卅七年三月六日動員下令同月十一日歩兵第十五聯隊第一大隊へ編入同月十九日海外出戦ノ目的ヲ以テ第二軍トシテ高崎出發、同月廿二日廣島着當地滞在、四月廿二日宇品港出帆、五月八日清國盛京省大沙河附近ニ上陸五月十六日三里台攻撃ニ參與全月廿六日七日金州及南山攻撃ニ參與七月二十六日前牧城隔附近廿七日射面溝附近二十八日双台溝附近ノ戰闘ニ參與又三十日泥河子附近ノ戰闘ニ參與又八月十三日十四日十五日ニ於ル碾盤溝附近ノ戰闘ニ參與九月拾八日ヨリ全月廿二日ニ亘ル大平溝東南方高地ニ於ル戰闘ニ參與十一月廿八日ヨリ十二月六日ニ亘ル大平溝東南方約千五百米突標高二〇三高地ニ於ル戰闘ニ參與卅八年三月二日三日奉天府沙嶺堡ノ戰闘ニ參與全月八日ヨリ十月二日ニ亘ル奉天府三台子ノ戰闘ニ參與卅九年一月廿二日

大連出帆廿五日宇品港着二月一日高崎凱旋返着二月二十九日役員下令二月八日召集解除

◎殊勲ニ依リ功七級金鷄勲章並ニ白色桐葉章年金百圓下賜

陸軍歩兵補充兵一等卒勲八等

宮下廣次郎

明治十六年九月二十日生

明治卅七年八月十日教育召集トシテ歩兵第十五聯隊補充大隊第二中隊へ入隊三拾七年十月三拾日觀兵式參列ノ爲メ東京へ出張全十一月四日飯營、明治卅八年四月八日大阪患者收容所へ轉送全月九日東京豫備病院澁谷分院轉送全月廿八日飯隊療養、五月廿七日飯隊歩兵第十五聯隊補充大隊第九中隊へ編入六月十三日第九中隊ヲ第七中隊ト改稱六月廿一日后備歩兵第四十九聯隊へ補充トシテ高崎出發全月拾一日廣島着全月拾四日宇品港出帆全月拾八日清國盛京省青泥窪港ニ上陸全月二十日後備歩兵第十五聯隊第八中隊編入全十一月廿七日ヨリ十二月四日ニ亘ル大平溝東南方標高二〇三高地戰闘十二月十七日揚樹房東方高丁山附近戰闘ニ參與同月廿二日後三羊頭村高地戰闘ニ參與全四月廿六日ヨリ三拾八年一月二日ニ亘ル前三羊頭村高地附近ノ戰闘ニ參與全年一月十四日ヨリ同年二月六日ニ亘ル旅順要塞警備三拾八年三月一日ヨリ同月七日ニ亘ル滿州軍總

攻撃ニ參與同年三月八日ヨリ全月十一日ニ至ル間角質色列家溝附近ノ戰闘ニ參與、明治八年二月五日浮慮護送ノ爲メ旅順出發全月七日青泥窪出帆全月十一日宇品港上陸全月十九日宇品港出帆全月廿八日日本隊ニ飯隊三月一日ヨリ七日ニ亘ル瀋州軍總攻撃ニ參與三月卅日疾病ノ爲メ蘇家屯呈立病院へ入院四月一日歩兵一等卒申付ラレ四月三日大連灣兵站病院へ轉送同日大連灣出帆全月六日大阪上陸三十八年六月廿一日後備歩兵第四十九聯隊補充トシテ高崎出發六月廿六日宇品港出帆全月廿九日清國盛京省青泥窪ニ上陸七月九日日本隊ニ合ス全日第一中隊ニ編入前四家子ニ宿營七月廿四日前四家子出發山咀子ニ宿營ス十月卅一日北團山子出發十一月一日鐵嶺着全地宿營全月三日鐵嶺ヨリ瀋州ヨリ大連着同地宿營全月十日大連ヨリ瀋州同月十四日宇品港着廣島宿營全月十六日同地ヨリ瀋州全月十八日着京同月廿三日復員ニ付解散

陸軍歩兵補充兵一等卒

唐澤清藏

明治十六年十二月廿九日生

明治廿八年二月廿一日補充召集トシテ歩兵第十五聯隊補充大隊第一中隊へ編入五月廿六日野戰隊補充トシテ出發同月卅日宇品港出帆六月三日大連上陸十一月第四中隊へ編入全年十月十六日平和克復、明治卅九年一月廿二日内地飯還ノ爲メ大連出帆全月廿五

日宇品港着全廿八日歩兵一等卒同月六日復員下令全八日召集解除

陸軍歩兵伍長功七級勲七等

中原爲次郎

明治五年十二月二日生

氏ハ明治廿五年十二月一日歩兵トシテ第一師團高崎歩兵第十五聯隊ニ入營シ明治廿六年十二月八日歩兵一等卒並ニ陸軍歩兵上等兵ニ昇進ス明治廿七年八月卅日日清ノ役ニ從ヒ第一軍司令部付ヲ申付ラル明治廿七年九月八日宇品港出帆全月十二日朝鮮國仁川港ニ上陸シ京畿平安道ヲ經テ十月廿三日畿州ニ着ス明治廿七年十月廿五日鴨全月九日田庄台ニ戰闘即ち廿八年五月廿八日高崎ニ凱旋ス同年十一月卅日滿期除隊同日善行證書ヲ附與セラル同十一月十三日附ヲ以テ勲八等ニ叙セラル



中 緣江右岸虎山附近ニ戰闘同廿六日溝門九連城ニ進軍ス同廿八年二月廿二日海城縣ニ進ミ翌日其附近ニ戰闘同年三月三日斬線堡附近ニ戰闘全月四日牛莊城ヲ占領ス

明治廿八年十二月ヨリ全廿七年一月迄専業ニ從事シ能ク内外ヲ整理ス明治廿七年二月十五日日露ノ役ニ從ヒ近衛歩兵第三聯隊ニ入隊同二月ヨリ六月迄補充員ノ教育ニ服務ス、同七月十二日近衛第一聯隊ニ轉出全十三日横濱出帆同十八日清國安東縣ニ上陸ス明治廿七年七月廿一日榆樹子ニ戰闘全八月一日ヨリ追撃前進同廿五日ヨリ遼陽ノ戰闘ニ參與ス同廿一日日本溪溝附近ノ戰闘ニ從事ス九月一日下石橋附近ニ戰闘ス全三日下平台子ノ戰争ニ於テ全所占領、(九月三日ヨリ第三小隊第二分隊長代理ス)全四日五日三家子附近ニ戰闘十月九日ヨリ十四日迄沙河會戰及大嶺附近ニ於テ戰闘十月廿七日歪頭山ニ占領ス十月廿八日ヨリ明治廿八年二月迄歪頭村達子堡東溝家子附近守備ニ勤務ス明治廿八年二月廿六日ヨリ奉天會戰唐家屯石山東前松木堡附近ニ戰闘ス明治廿八年三月十二日心台子附近ニ戰争ス同十三日茨林子附近戰闘十五日鐵嶺附近ニ戰闘全十六日鐵嶺占領ス明治廿八年四月十五日陸軍歩兵伍長ニ昇進セラルル同年十一月廿三日東京ニ凱旋セラレタリキ

明治廿九年四月一日附ヲ以テ戰役ノ功ニ依リ功七級合鷄勳章勳七等青色桐葉章ヲ下賜セラル

陸軍砲兵上等兵勳八等

北原米太郎

明治十五年五月二十五日生

明治廿五年十二月十五日徵兵トシテ野戰砲兵第十四聯隊第二中隊へ入隊明治廿七年三月月六日動員下令、明治廿七年三月十六日第二軍戰闘序列ニ編入同年四月十二日本隊出發同月十五日廣島着同廿七年四月廿五日宇品港出帆全年五月十二日清國張家屯ニ上陸ス明治廿七年五月廿六日金州南山ノ戰闘ニ參與ス明治廿七年五月廿一日脚氣症ニテ刺家溝野戰病院ニ收容セラレ全斗六月五日金州兵站病院ニ入院ス、同月廿六日張家屯出帆内地還送全月廿九日廣島豫備病院ニ收容セラレ七月三日東京豫備病院澁谷分院ニ入院ス明治廿七年七月廿日轉地療養ノ爲メ信州進分ニ送ラルル全八月廿日尸山分院ニ歸院ス十月六日全治退院野戰砲兵第十四聯隊補充中隊第一中隊ニ編入全十二月廿八日一等卒申付ラル、廿八年三月廿四日上等兵申付ラル

○戰功ニヨリ勳八等瑞寶章及金八拾圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵伍長勳八等

西村啓三郎

明治十年十二月二日生

明治廿年十二月一日徵兵トシテ第一師團歩兵第一大隊ニ入營ス、全廿一年十二月一日歩兵一等卒申付ケラル、廿三年十一月廿日滿期除隊、明治廿七年三月十二日充員召集ニ應ジ第一師團歩兵第一大隊第二中隊ニ編入廿七年四月廿日出征ノ目的ヲ以テ宇品出帆

全五月廿一日歩兵伍長ニ任ゼラル、同廿七年八月七日病氣ノ爲第二野戰病院ニ入院ス  
 廿七年八月十八日還宇品歸着同日廣島豫備病院ニ入院ス廿七年八月廿日東京澁谷分  
 院ニ入ル廿七年十一月一日全治退院第一師團第一大隊補充中隊ニ歸隊全廿八年四月六  
 日出征ノ爲ノ宇品出帆全廿九年一月廿日凱旋宇品歸着同廿九年二月七日召集解除  
 ○戰役勲功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金貳百圓ヲ下賜セラル

陸軍歩兵一等卒勲八等

木村 藤太郎

明治十年二月十一日生

明治廿年十二月一日歩兵十五聯隊第一中隊ニ入營、明治廿一年十一月廿日歩兵一等卒  
 申付ラル廿二年十一月廿日歸隊除隊、廿七年二月十五日充員召集ニ應シ近衛歩兵第三  
 聯隊第五中隊ニ編入ス廿七年二月廿二日出征ノ目的ヲ以テ東京出發全廿四日廣嶋着全  
 三月十四日宇品出帆同三月十六日鎮南浦上陸廿七年五月一日九連城及蛤蟆塘附近ニ於  
 テ戰闘六月廿五日大荒溝附近ニ於テ戰闘其レヨリ水泉子、様子嶺、二通河、カニア、シ  
 チエズイ、徐家溝、老君谷、八家子北方ノ高地等各地ニ轉戦シ廿八年三月一日姚千戸屯  
 ニ於テ戰闘全月三日ヨリ七日ニ至ル唐家屯北方高地、大常王塞、庫河西南方高地ニ於テ  
 戰闘廿八年十一月廿八日清國大連灣出帆廿八年十二月一日宇品上陸全日廣嶋着全八日

品川ヲ經テ屯營着、廿八年十二月十二日召集解除  
 日露戰役ノ勲功ニ因リ勲八等白色桐葉章及金百五拾圓ヲ下賜セラル

陸軍補充一等卒勲八等

菅 間 權 三

明治十五年三月一日生

明治廿八年三月十八日陸軍歩兵一等卒申付ケラル全三十七年十二月廿一日野戰近衛歩  
 兵第三聯隊補充ノ爲轉出全三十八年一月二日野戰第八中隊ニ入隊三十八年十二月廿一  
 日清國ヲ出發凱旋ノ途ニ就ク廿八年十二月六日品川ヲ經テ全日屯營ニ歸着全十二月十  
 二日召集解除

○明治廿七、八年戰役勲功ニ依リ勲八等白色桐葉章及金百圓ヲ下賜セラル

陸軍工兵一等卒勲八等

富 田 新 助

明治十七年七月三日生

明治廿八年一月六日臨時召集ニ應シ第一師團工兵第一大隊補充隊第二中隊へ入隊全年  
 四月六日出征ノ爲メ宇品港出帆全年十一月廿二日工兵一等卒申付ケラル明治三十九年  
 一月三十日凱旋宇品港上陸全年二月六日役員下令  
 明治廿九年四月一日勲八等瑞寶章及賜金七拾圓

陸軍歩兵一等卒勲八等

上沼清十郎

明治十七年七月十二日生

明治卅七年十二月二十五日補充トシテ歩兵第十五聯隊第三中隊入隊、明治三十八年二月廿五日野戰隊へ補充トシテ高崎出發同月二十六日横濱出帆同年三月三日清國盛京省大連へ上陸同月十三日野戰歩兵第十五聯隊第五中隊編入同年十月九日一等卒申付ケラ  
ル明治卅九年一月十六日凱旋ノ目的ヲ以テ法庫門出發同月廿二日大連乗船、同二十五日宇品港上陸同年二月二日高崎屯營返着、同月八日召集解除トナル  
明治卅九年四月一日勲八等及七拾圓下賜

元陸軍歩兵伍長勲八等功七級

福島斧太郎

明治十四年二月廿五日生

明治卅四年十二月一日徵兵トシテ近衛歩兵第三聯隊第十四中隊ニ入營、同卅五年十二月一日歩兵一等卒申付ケラル同卅六年十一月三十日返休除隊、明治卅七年二月十五日充員召集ニ應ジ近衛歩兵第三聯隊第十中隊ニ入營全年三月十五日出征ノ爲メ宇品港出帆全卅七年九月七日歩兵上等兵同三十八年三月三清國盛京省唐家屯北方高地戰闘ノ際負傷全月十五日還送大阪港ニ返着同月十九日東京豫備病院澁谷分院ニ入院明治三十

八年三月二十日任歩兵伍長全卅十二年二十日依傷癈兵役免除

明治卅九年四月一日功七級金鷄勲章年金百圓及勲八等白色桐葉章

陸軍歩兵一等卒勲八等功七級

蜂谷源一

明治十五年七月五日生

明治卅五年十二月十五日徵兵トシテ近衛歩兵第三聯隊第十中隊ニ入營同三十六年十二月一日歩兵一等卒申付ケラル同三十七年二月六日充員下令全年三月十五日出征ノ爲メ宇品港出帆、明治三十八年拾貳月參日凱旋廣島宇品港ニ返着全月八日東京ニ返着同月十二日滿期除隊

明治卅九年四月一日功七級金鷄勲章年金百圓及勲八等白色桐葉章

陸軍歩兵軍曹勲八等

倉澤國松

明治十五年四月十五日生

明治卅五年十二月拾五日徵兵トシテ近衛歩兵第三聯隊第八中隊ニ入隊明治三十六年十二月一日一等卒並ニ上等兵命ゼラル同三拾七年十一月廿六日任歩兵伍長、明治卅八年拾月八日任歩兵軍曹、明治卅七年二月五日動員下令近衛歩兵第三聯隊第八中隊ニ編入、



全年三月十五日出征ノ爲、宇品港出帆全月廿七日韓國鎮南浦上陸、同年十月拾二日清國老若谷北方高地ニ於テ負傷、全月廿四日内地還送全月廿七日宇品港返着全年拾一月四日東京豫備病院廣尾分院ニ收容全月拾一日全治退院、近衛歩兵第三聯隊補充大隊第一中隊ニ編入全月十七日近衛歩兵第三聯隊補充大隊第三中隊ニ轉入、明治卅八年十二月二十日近衛歩兵第三聯隊ニ編入全月廿七日滿期除隊

明治卅九年四月一日勲八等白色桐葉章金貳百圓



倉澤國松君

陸軍 砲兵 一等卒 勲八等

片桐 貫一

明治十五年四月十五日生

明治卅八年二月二日野戰砲兵第十六聯隊補充大隊へ補充召集トシテ第一中隊へ入隊、

全年四月四日補充トシテ野戰砲兵第十六聯隊へ轉出全日色巻出發全月十日宇品港出帆全月十四日清國柳樹屯上陸全年五月九日野戰砲兵第十六聯隊段列へ編入、全月十五日戰利速射野戰大隊へ轉出同日第二中隊へ編入全年十一月四日一等卒申付ケラル、明治三十拾九年一月廿九日宿營地四台子出發全年二月四日大連出帆全月八日宇品上陸同月十三日東京返着全月十九日野戰砲兵第十六聯隊補充大隊へ轉入第一中隊へ配屬同月廿一日役員ニ付召集解除セラル

明治卅九年四月一日勲八等瑞寶章及七拾圓

陸軍補充兵 歩兵 一等卒 勲八等

本島市 太郎

明治十五年三月十七日生

明治卅七年十月廿一日臨時教育召集トシテ近衛歩兵第三聯隊補充大隊第五中隊へ編入明治卅七年十二月廿一日補充員トシテ野戰隊へ轉出同月廿四日討露ノ爲宇品港出帆全卅八年一月一日野戰隊近衛歩兵第三聯隊第五中隊へ編入全月十月九日一等卒申付ケラル全年十一月廿八日清國大連出帆同月十二月一日宇品港ニ上陸全月六日品川着全日近衛歩兵第三聯隊ニ返着四月四日役員下令同月十二日召集解除

明治卅九年四月一日勲八等白色桐葉章金八拾圓

陸軍歩兵伍長勲七等

吉澤和太郎

明治五年一月十七日生

明治廿四年十二月一日第一師團歩兵第十五聯隊へ入營明治廿五年十二月八日歩兵一等卒申付全廿七年十月十五日出征ノ爲メ宇品港出發全廿八年五月廿六日凱旋宇品港ニ着坂、全年六月九日滿期除隊

明治廿八年十月卅一日明治廿七、八年戰役ノ功ニ依リ勲八等瑞寶章ヲ授ケ賜ハル

明治卅三年九月十四日任陸軍歩兵伍長全卅七年三月十二日克前召集ニ應ジ後備歩兵第十五聯隊第二中隊へ編入第三分隊長ヲ申付同年六月廿日出征ノ爲メ宇品港出發月廿五日清國塩大澳三官廟ニ上陸全年七月五日ヨリ同月十四日迄清國盛京省萃紅溝北方高地ニ於テ前哨ニ服務ス同月廿六日廿七日廿八日三日間清國盛京省鞍子嶺東南部凸角堡附近ニ於テ戰闘ス同月卅一日ヨリ同年八月十三日迄清國盛京省曲家屯北方高地ニ於テ前哨ニ服務ス同年八月十三日十四日十五日三日間清國盛京省小東溝東方獨立標高一三一高地ニ於テ戰闘ス同月十五日ヨリ十八日迄清國盛京省小東溝東方獨立標高一七一高地ニ於テ戰闘中負傷シ第二野戰病院へ入院ス同卅七年九月三日還送ノ爲メ大阪港坂着全月十日東京豫備病院へ轉送明治卅八年一月廿六日傷痕ニ依リ兵役免除同年六月九日善行證書

及下士適任證書ヲ附與セララル

明治卅九年四月一日勲七等青色桐葉章及金參百圓ヲ授ケ賜ハル

陸軍砲兵一等卒勲八等

大澤平太郎

明治十五年一月十九日生

明治卅四年十二月一日徵兵トシテ近衛師團野戰砲兵第十五聯隊第六中隊ニ入隊全卅六年十二月一日一等卒申付全三十七年三月六日動員ト令近衛師團野戰砲兵第十五聯隊第六中隊へ編入同年四月廿四日出征ノ爲メ宇品港出發全卅五年五月十三日清國張家屯ニ上陸

明治卅九年二月廿一日清國盛京省大連出帆同月廿四日宇品港上陸全日復員ト令全年三月十三日現役滿期除隊

故陸軍補助輸卒勲八等

大澤安治郎

氏ハ明治卅七年五月七日東京灣要塞砲兵聯隊ニ召集セラレ同年五月十九日第一師團第十二補助輸卒隊ニ配屬シ同年六月四日征露遙カニ横須賀ヲ辭シ全月廿九日清國塩大塊ニ上陸シ續イテ前進ス當時天候雨量多クシテ道路ハ一層ノ泥濘ヲ極メ車輪其半ヲ没シ一進一退雨ハ益々烈シク着衣ノ温潤身ニ徹シ恰セ水泥ノ河底ヲ渡スルガ如キモ勇敢ナ

ル氏ハ更ニ屈セズ衆為メニ鼓勵セラレ能ク努ム亮甲店ヲ經金州ヲ過ギ全月廿九日青泥窪ニ着シ續イテ輸送業務ニ水上勤務ニ炎熱ヲ冒シテ服ス七月十五日日本隊ノ第一ノ攻城砲廠指揮下ニ入ルヤ小慶子ニ八月三日長嶺子ニ前進此間鐵道ニ依リ輸送セル攻城諸材料却下ニ從事シ尙彈藥輸送ニ八月十二日ノ如キ大雨ハ泥濘ヲ醸シ搬送ヲ困難ナラシメ敵彈ハ前後左右ニ爆下シ避クルニ道ナシ犯シテ進マントスルモ泥濘ヲ行進ヲ妨ゲ敵彈猛烈ヲ禦メ止ナク彈藥却下シテハ高梁ヲ以テ蔽ヒ危害ヲ防キシモ豫定時間ハ既ニ經過シ且ツ搬送セシメ其活潑ナル動作衆ノ稱道スル所トナル八月十八日西龍頭ニ前進シ徒歩砲兵第二聯隊ニ配屬シ同業務ニ從事ス天候亦惡シク雨ヲ降ラシ道路變ジテ漲水ヲホシ困難亦屈スル所ナシ全月廿四日任ヲ終ヘ長嶺子ニ復歸シ第九師團患者輸送部ノ指揮ヲ受ケ揚家屯假滿帶所ヨリ第九師團定立病院間ノ患者輸送業務ニ服シ又大ニ勉ム九月三日第一



大澤安治郎君  
 ノ急ヲ要センヲ以テ  
 絶食不眠能ク夜ヲ徹  
 シテ服シ志氣ノ沮喪  
 ヲ見ズ如此服務延イ  
 テ十四日間疲勞ハ夜  
 宵トナリ脚氣病ヲ伴  
 ヒ入院者頗多太ナル  
 モ氏ハ健體衆ヲ羨望

攻城砲廠指揮下ニ復歸シ輕便鐵道布設撤収道路構築等ニ從事シ殆ド深夜ニ互ルノ作業終日就中當時唯一ノ東房身停車場ノ構築物並ニ千家屯ヨリ土城子大王莊ヲ經テ碾盤溝掘彈砲隊ニ至ルノ鐵道延長一万三千米突ノ布設工事ハ九月十五日ヨリ全二十日ニ至ルノ間ニ速成シ實ニ當時布設ハ材料困難ヲ來シ撤収撤込之ニ依リテ布設ヲ爲シ他隊ノ助力俟ツ所ナカリシヲ以テ莫大ノ勞カト奮勉ヲ要シ當作業中殆ド不眠ノ熱心ヲ以テ服スルノ結果此鐵道及東房身停車場ノ構築物ハ共幾多ノ軍事上ニ於ケル好果ヲ得セシメタリ是レ氏ノ勤勉與リテ成リタルモノ偶々明治卅七年十月十九日第一攻城砲廠ノ一部ヲ以テ碾盤溝廿八冊米掘彈砲隊ヲ組織スルアリ各補助輸卒隊中勇敢ニシテ精勵ノ士ヲ叫合シテ其編成ニ加フ當隊幾多ノ健兒中十人ヲ拔擢シテ之ニ赴カシム氏ハ實其一人ナリキ掘彈砲隊ニ在ルヲ數日病ヲ以テ歸隊スルノ止ムナキニ至リ日尚淺クシテ珠玉ノ燦タル爛タル殊勲ヲ樹ツルノ機ニニ會セザルモ又以テ平素ノ行以テ知ルヲ得歸隊後療養間日頗ル輕快ニ赴キシガ遺憾再ヒ流行性寒冒ニ襲ハレ茲ニ全ク床中ニ入り十二月二日肅惠瀾落遂ニ起タス 噫

● 是心院 泰梁 輩 安居 士

陸軍補充兵歩兵一等卒勲八等

後 澤 彌 一

明治十六年七月廿五日生

明治廿七年十月廿一日臨時教育召集トシテ近衛歩兵第三聯隊補充大隊第二中隊へ編入  
 全年十二月廿一日補充召集ニ轉出ス全月廿四日討露ノ爲メ宇品港出帆明治三十八年一  
 月二日近衛歩兵第三聯隊第五中隊ニ編入同年三月一日清國盛京省姚千戸屯ニテ戰闘同  
 三日ヨリ六日ニ至ル唐蒙屯北方高地ニ於テ戰闘全月七日右中指標痛ノ爲メ上柳河定立  
 病院ニ入院ス、同廿八年四月六日サフトン兵站病院ヨリ全治退院後隊又全年八月一  
 日一等卒ニ申付ケラル全月十一月廿八日清國大連出帆同年十二月一日凱旋宇品港ニ返  
 着同月六日屯營飯着同月四日復員下令同月十二日召集解除  
 ◎明治廿九年四月一日勲八等白色桐葉章賜金百圓

陸軍歩兵軍曹功六級勲七等

伊那川希太郎

明治十三年五月二十三日生

鐵兵トシテ明治廿三年十二月一日歩兵第十五聯隊第八中隊へ入隊、同廿四年十二月一  
 日一等卒全日上等兵同日新兵掛助手明治廿六年十一月廿日現役滿期除隊、全廿七年八  
 月十六日充自召集ニ應ジ歩兵第十六聯隊第一中隊附全年九月一日軍曹同年十月廿三日  
 石狩國旭川屯營出發明治廿八年九月十日給三等給状明治廿七年十一月十三日大阪港出帆  
 全年全月十九日清國青泥窪港上陸同月廿一日第三軍ニ編入全月廿八日ヨリ十二月六日

迄清國旅順口北方赤坂山ニ於テ戰闘同月七日ヨリ廿五日迄赤坂山守備中全月廿六日右  
 揚樹溝東方高地ノ守備ニ任ス三十  
 八年一月一日后三羊頭村南方高地ニ  
 於テ戰闘全月廿三日旅順方面ヨリ北  
 進ス、全年三月三日達子營附近ニ於  
 テ戰闘三月五日李官堡附近ニ於テ戰  
 闘同月七日八日轉灣橋附近ニ於テ戰  
 闘全月九日三臺子附近ニ於テ戰闘全  
 月十日北陵附近ニ於テ戰闘六月三日  
 千家窩棚附近ニ於テ戰闘全月十六日  
 遼陽窩棚附近ニ於テ戰闘七月一日獅  
 子谷附近ニ戰闘明治廿九年二月廿七日凱旋ノ爲メ柳樹屯出帆全年三月五日室蘭港上陸  
 同月七日旭川屯營飯着全月十五日召集解除  
 ◎殊勲ニ依リ功六級勲七等青色桐葉章及半金貳百圓下賜セラレ



伊那川希太郎

陸軍砲兵一等卒

原五郎

明治十七年十月二十一日生